

学校保健総合支援事業

事業成果報告書 令和元年度



文部科学省

初等中等教育局

健康教育・食育課

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

- 全員で 15 人
(大学教授 2 人、小児科医 1 人、歯科医師 1 人、薬剤師 1 人、道保健福祉部局 1 人、校長 4 人、養護教諭 2 人、行政関係者 1 人、PTA 2 人)

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

- ・各教育局（道内 14 管内）を通じ、市町村教育委員会及び各学校と連携を図りながら、学校・家庭・地域の医療機関等からなる「地域検討委員会」を設置
- ・地域検討委員会は、連絡協議会で策定した「課題解決計画」に基づき、地域の子どもたちが抱える健康課題を適切に把握し、その解決に向け、専門家による子どもたちを対象とした講話や教職員や保護者等を対象とした研修会等を実施

④ 当初の課題解決計画と実際の実行内容

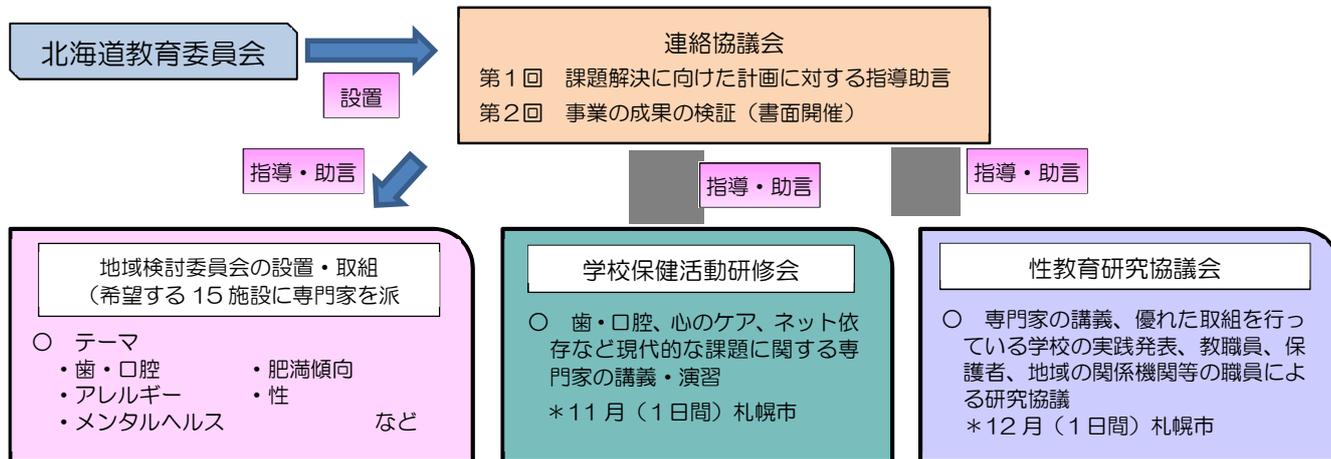
○ 現状と課題

むし歯（う歯）や肥満傾向、アレルギー疾患を有する児童生徒の割合が全国と比較して高い傾向にあることに加え、抑うつやそう傾向など、メンタルヘルスに課題のある児童生徒が一定の割合で存在することが明らかになっている。

これらのことから、現代的な健康課題に対応する教職員の実践的な指導力の向上及び学校・家庭・地域が連携・協働して健康課題の解決に取り組む体制づくりが必要である。

○ 課題解決計画

- ・「歯・口腔、肥満傾向、アレルギー、性、メンタルヘルス」に関する課題の解決を図るため、専門家を派遣し、児童生徒や教職員、保護者等を対象とした研修会等を開催
- ・現代的な健康課題に対応する体制づくりや教職員の実践的な指導力の向上を図るため、専門家を講師とした研修会を開催
- ・性に関する指導の充実を促進するため、教職員等を対象に専門家の講義や実践発表、研究協議を行う研究協議会を実施



○ 実際の実施内容

【地域検討委員会の開催、課題解決の取組】（9月～1月）

地域検討委員会により、学校や地域の健康課題を明らかにし、その解決に向けた取組（専門家による児童生徒、教職員、保護者等を対象とした研修会等）を実施した。

《実施地域等：9箇所》

- ・北海道遠別農業高等学校
- ・北海道函館工業高等学校
- ・北海道札幌あすかぜ高等学校
- ・北海道千歳高等学校
- ・北海道有朋高等学校
- ・北海道苫前商業高等学校
- ・北海道室蘭清水丘高等学校
- ・弟子屈町教育委員会
- ・北海道江別高等学校

《研修会等のテーマ》 ・性 5、メンタルヘルス等 4

《派遣講師》 ・大学教授、助産師、カウンセラー等 10人

《参加人数》 ・児童生徒、教職員、保護者等 903人

【学校保健活動研修会】（11月12日）

養護教諭をはじめとする教職員や地域保健関係者を対象に、歯・口腔の健康づくり、心のケア、ネット依存など、現代的な健康課題への対応の充実を図るための研修会を開催した。

《参加人数：教職員 122人、保健関係者 10人、保護者他 2人》

【性教育研究協議会】（12月20日）

教職員、保護者、地域保健関係者を対象に、「性的マイノリティ」をテーマにした専門家による講義、保健所と連携して作成した性教育教材についての実践発表、参加者同士のグループ協議を実施した。

《参加人数：教職員 102人、保健関係者 4人、その他 27人》

2. 事業の達成度について

【地域検討委員会の開催、課題解決の取組】

- ・LGBTやSNSで広がる男女交際など、現代的な健康課題に関する内容を盛り込んだ学校が多く、児童生徒や教職員、保護者の理解を深めることができた。
- ・学校内のみではなく、地域の学校保健関係者や保護者と児童生徒の健康課題について協議することにより、共通理解を図ることができ、地域全体で子どもの健康づくりを支援する体制の構築につながった。

《実施校の成果例》

○アンケート結果より

- ・「講演内容を理解できた」「まあまあ理解できた」と答えた生徒が女子が93.5%、男子では94.7%であった。また、講演の中で特に良かった項目として「命の大切さ」と回答した生徒が多かった。

○生徒の感想より

- ・「性に関しての考えを見直す良い機会となった。生命って素晴らしいなと思った」「交際していて不安になることがあるので、自分の性の知識が正しいかどうかを確認することが出来て、よかった」「性に関することって、いろいろ複雑なことがあるのだと思った」「高校生には、良い講演だと思った」という感想が多くみられた。

○地域検討委員会における検証

- ・上記、生徒の感想等からも読み取れるように、生徒たちがこれまで漠然とSNSや周りの友人から得ていた性情報の中に間違っていたものもあり、自分のからだや命のつながりについて不安を感じていた生徒もいたため、専門家から正しい知識や他の命の大切さについて学ぶ良い機会となった。また、「思春期世代のヘルスリテラシー」に関し、SNSを利用するにあたり「信頼できる医療・情報の見極め方等」の学習についても考えていきたい。
- ・近隣の中学校の養護教諭、産婦人科の助産師、保健センターの保健師等からも、若年世代の性の問題に係る、切れ目のない支援の必要性や、地域、学校及び医療機関の連携について確認した。

【学校保健活動研修会】

- 参加者からは「タイムリーに知りたいテーマについて専門家から話を聞くことができ、参考になった」という声が多く寄せられたことから、学校のニーズに合った研修内容であったと考える。

《参加者アンケートより》

講 義	5：大変役立った	4：おおむね役立った	計
「生活習慣が歯・口の健康に与える影響」	61人	41人	102人 (83.6%)
「大災害後の子どものこころの反応とその支援」	90人	30人	120人 (98.4%)
「ネット依存と子どもの生活習慣」	95人	23人	118人 (96.7%)

【性教育研究協議会】

- 参加者からは「性的マイノリティの当事者の話が参考になった」「学校で取り組むべきことが整理できた」という声が多く寄せられ、性の多様性やその指導に関する理解を深めることができた。
- 同規模、同地域のグループで協議することにより、参加者が共通の課題意識のもとで取組の交流ができ、各学校での今後の指導の充実につながった。

《参加者アンケートより》

講 義 等	5：大変役立った	4：おおむね役立った	計
講義 「性的マイノリティに関する理解と対応」	92人	12人	104人 (90.4%)
実践発表 「保健所と連携して作成した性感染症に関する中学生向け教材」	37人	23人	60人 (84.5%)
グループ協議	52人	17人	69人 (97.2%)

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 性教育に関する専門家の派遣や研修のニーズが多いことから、引き続き、性に関する指導をテーマとした講義等の内容の改善充実を図る必要がある。
- 学校、家庭、地域の関係機関等が連携して、健康課題の解決に向けた取組を実施するための体制づくりを推進する必要があることから、教職員を対象にした研修会などにおいて、実践例を基に自地域における体制づくりについて理解を深める機会などを設ける必要がある。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

(1) 性に関する教育検討委員会

○全員で18人 内訳〈医師6人(産婦人科医)、高等学校長6人、担当教員6人〉

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

※県内6地区の産婦人科校医及び配置校教員等により、性に関する教育検討委員会を構成

④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

実施時期	実施内容	備考
7月30日	第1回性に関する教育検討委員会 (事業計画立案)	書面にて報告
11月28日～ 12月25日	性に関する事例アンケート	性の問題に携わる教職員、地域保健関係者にアンケートの実施 アンケート回収数 79
1月15日	性に関する教育指導者研修会	教職員及び地域保健関係者 出席者 44名
1月30日	第2回性に関する教育検討委員会 (事業の検証)	出席者 26名

(1) 性に関する教育指導者研修会

講義「性の多様性理解のために～LGBTを中心に～」

講師 日本産婦人科医会 特別会員

あおり女性ヘルスケア研究所 所長 蓮尾 豊 氏

「性に関する指導者研修会」では、産婦人科校医でもある医師を講師とし、性に関する教育に関わる教員をはじめ、地域保健関係者等を対象に、性に関する事例等について指導方針や対応の



協議を行った。また、校種毎の班別協議では、学校で対応に苦慮している事例などについて情報共有するとともに、これからの対応策について、協議を行った。産婦人科医が全ての班の協議に参加していただき、たくさんの御助言をいただくことができた。さらに、ボードを使って内容をまとめた後、発表を行うことで、他校種の事例を知ることができた。

(2) 性に関する教育検討委員会

平成 25 年度から県内 6 地区の県立学校に産婦人科校医を配置し、性に関する教育を実施し、事業内容について報告及び検討を行なった。

- 【性に関する教育事業内容】
- ①性に関する講演会（県立学校の児童生徒対象）
 - ②性に関するセミナー（教職員等対象、県医師会共催）
 - ③性に関する教育指導者研修会（教職員等対象）

2. 事業の達成度について

(1) 性に関する教育指導者研修会

研修会では、前年度の研修会及び取組の検証を行った検討委員からの意見を参考に講義・演習内容を精選したことにより、受講者のアンケートによる満足度は、前年に引き続き、4段階評価の「3（満足）」及び「4（大変満足）」が合わせて100%であった。



【研修会参加者感想】

- ・蓮尾先生の講義は、とても分かりやすく、新しい学びが多かった。あと1時間くらい講義を聴きたい。
- ・体育教員や養護教諭だけでなく、もっと多くの教職員に参加して欲しい研修会だった。
- ・班別協議では、大きな収穫を得ることができた。高校部会では、参加している高校では各校1人LGBTの生徒がおり、カミングアウトされていない場合等、様々な苦勞がある中で意見交換ができた。
- ・発達段階に応じて、各校種で捉えられている問題が様々であることを知った。
- ・性の問題に関わらず、人としての多様性についてお互い理解し合う態度を育てていくことの大切さを改めて感じた。
- ・性違和感を感じはじめるのは、小学校以前が多い等、教師や大人の理解ある支援が幼い頃から必要だと感じた。
- ・各校でかなりのLGBTの相談があることに驚いた。本人からの申し出がなければ、介入しづらい問題ではあるが、生徒本人のみならず、周りの生徒も含め理解し合える教育をしていきたい。また、教職員研修もまだまだ必要であると感じた。

(2) 性に関する教育検討委員会

性に関する教育におけるいずれの取組も、産婦人科校医の配置という本県の特徴的な制度が良い影響を及ぼしていると言える。これまで継続的に実施してきた産婦人科医を交えての勉強会での課題の吸い上げや現状把握を経ていることで、研修会がより充実した内容となっている。産婦人科校医を交えての計画から実施、評価までのサイクルがうまく機能している結果と言える。

【学校担当者より】

- ・人格の基礎を形成する性教育は人間教育そのものであると感じている。できれば1年、2年、3年と段階的

に実施できれば望ましいのかと思うが、実際は難しいところがある。

- ・男子のための性教育という項目を入れて実施した。感想として男女お互いの理解が改めて必要だと思ったという感想が多くあった。
- ・LGBT について学校の受け入れ態勢がまだ整っていないことが課題。

【今後の方向性等】

- ・LGB が実は想像以上に多い（※「T」トランスジェンダーはほとんどいない）ので、学校ではこれから LGB にも注目をして子どもたちを見ていってほしい。
- ・地域によって性に関する知識や実態にも差がある。私立高校での性教育講話の実施について調査してはどうか。
- ・特別支援学校においても、性教育がとても大切だと実感した。産婦人科校医間で研修用スライドのやり取り等をしているが、産婦人科校医の普及のためにも、みんなである程度内容を共有する必要がある。教育指導者研修会はいろんな先生が参加できる大切な研修会だと思うので、続けてほしい。
- ・性ということを考えてときに、最終的には命の問題に行きつくのではないかと感じている。医学的な見地から新しい情報を与えてくれる性教育講話は非常に大切な場面になってくるのではないか。本校の課題としては、発達障害が疑われる生徒の性の逸脱行動などがある。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

性に関する教育事業を通して

- ①多様な性の在り方について教職員間で理解に大きな差があること
- ②保健体育教員や養護教諭のみが性教育を行っている学校があること
- ③小中学校から高等学校への性に関する情報の引継ぎ等が行われていない場合があること
- ④学校によって研修での学びが実践に結びついていない（時間の確保、教職員間の理解）ことが問題点として挙げられる。

検討委員会での委員の意見を踏まえ、各校の実情に合った内容や性的マイノリティについても触れ、今後も、産婦人科校医による性教育を継続して実施することとしている。指導者研修会等での学びを実際の学校現場における指導や取組に具体的に繋げていけるよう、地区別・校種別にするなど工夫し、実践に焦点を当て、性に関する指導者教育を推進していく。

令和元年度

学校保健総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

岩手県

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

(1) 協議会の構成員

全体で 14 人

内訳：岩手県医師会(学校保健技師)	1 人
岩手県医師会	1 人
岩手医科大学教授	1 人
岩手県歯科医師会	1 人
岩手県保健福祉部局	1 人
岩手県高等学校 P T A 連合会	1 人
岩手県高等学校協会	1 人
岩手県学校保健会	1 人
岩手県栄養士協議会	1 人
岩手県教育委員会 (事務局)	6 人

(2) 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input checked="" type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

生活習慣には「運動習慣」と「食習慣」を含む

(3) 地域検討委員会等の設置

ア 地域検討委員会のメンバー

(ア) 中高生の肥満予防及び改善指導資料検討委員会 (食習慣)

検討委員 24 人

(大学講師 1 人、教諭 8 人、養護 (助) 教諭 14 人、指導主事 (事務局) 1 人)

(イ) 中高生の肥満防止及び改善指導資料検討委員会 (運動習慣・生活習慣)

検討委員 24 名

(上席スポーツ医・科学専門員 1 人、教諭 10 人、養護 (助) 教諭 12 人、指導主事 (事務局) 1 人)

イ 実施日程

第 1 回検討委員会 (食習慣①)	令和元年 10 月 9 日 (水)
第 2 回検討委員会 (運動習慣・生活習慣①)	令和元年 10 月 24 日 (木)
第 3 回検討委員会 (運動習慣・生活習慣②)	令和元年 11 月 14 日 (木)
第 4 回検討委員会 (運動習慣・生活習慣③)	令和元年 12 月 19 日 (木)
第 5 回検討委員会 (食習慣②)	令和元年 12 月 23 日 (月)

(4) 当初の課題解決計画と実際の実施内容

＜岩手県の児童生徒の健康課題である「肥満」の改善と予防についての対策＞

ア 協議会の円滑な実施を行うための指導助言と、事業について評価を得る。

イ 中高生対象の肥満予防及び改善資料（平成 29 年度に作成した「岩手型肥満解消ぺっこアプローチ～軽度肥満対象個別相談指導資料～ハンドブック（小学生対象）」の中高生版）を作成し、小学校・中学校・高校を通して岩手型の指導を行う。

(ア) 運動習慣

(イ) 食習慣

(ウ) 生活習慣

※各構成において、行動変容ステージ（無関心期・関心期・準備期）毎にアプローチする内容。

「☆岩手っ子 カラダ改革☆
LAFF Challenge」

☆中高生向け
☆食事・運動・生活の3つのアプローチ
☆行動変容ステージによる3つのステップ

食事編 STEP1 よくかんで食べる「カミカミ運動」のススメ

☆早食いは満腹を感じる前におかわりしてしまうことにつながります。よくかんで食べましょう。同じものを同じ量食べても、どの順番で何を食べるかによって、食後の血糖値の変化に違いが出るといわれています。

ヒトの消化・吸収のシステムを考えると、まず、繊維質の豊富な野菜、続いて消化に時間のかかるたんぱく質、そして最後に糖質を食べることで、血糖値の上昇はゆるやかに抑えられるといわれることから、「野菜→たんぱく質→糖質」の順番で食べてみませんか。

カミカミ度

よくかんで食べるために、おやつに乾燥食品（小魚・ドライフルーツ等）を選んだり、野菜や果物を皮ごと食べたり、食材を大きめに切ったりするなど、工夫してみましょう。

♥おやつはナッツや枝豆もおススメ（※アレルギーのある人はおうちの方に確認しましょう）

ビタミン、ミネラル、食物繊維、不飽和脂肪酸が豊富！

たんぱく質、ビタミン、カルシウム、食物繊維が豊富！

よくかんで食べることの効果

- カ ● 過食（食べ過ぎ）防止
- ミ ● 味覚の発達
- カ ● 活発な脳の働き・脳の活性化
- ミ ● 未来の健康（しょうぶな体）
- 運 ● むし歯や歯肉炎予防・胃腸の働き促進
- 動 ● ラーメンと元気に!!

岩手型肥満解消ぺっこアプローチ
～軽度肥満対象個別相談指導資料～ハンドブック 参照

【食事編 2 ページ構成】

STEP2 砂糖の量を意識して飲み物を選ぼう！

☆のどが潤いたとき、どんな飲み物を選んでいきますか？清涼飲料水には、糖分が多く含まれているものがあります。飲み物に含まれている砂糖の量を確認してみましょう。

大きじ1＝9グラム カロリーは約35kcal

清涼飲料水を飲みすぎるとどうなる？

のどがかわく

血糖値が上がる

「砂糖」が多く含まれている清涼飲料水を飲み過ぎると、「ペットボトル症候群」(糖質毒性ケトアシトシス)に陥りやすくなるといわれています。

※厚生労働省 > eヘルスネット

運動編 STEP1 姿勢で変わるあなたのカラダ ~筋力UP&美しく~

Let's 姿勢 Check

座るとき 立つとき

正しい姿勢で代謝UP

正しい姿勢に Let's Try

姿勢づくりの Point

チェック① 後頭部
チェック② 肩甲骨
チェック③ おしり
チェック④ かかと

☆正しい姿勢で筋肉が引き締まる
☆正しい姿勢は美しく見える!

空に頭と背中、かかとがつくのがいい姿勢だよ☆

筋力で解放中

STEP2 ちょっとした時間にLet's Try ~Petit Exercise~

座っているときに Let's Try

立っているときに Let's Try

片足立ちに Let's Try

①背筋を伸ばす
②深呼吸しながら
③からだをひねる

力を抜いて、リラックスしながらからだをひねろう

筋力で解放中

【運動編 2 ページ構成】

☆QRコードにより動画を視聴しながら
チャレンジできる

【生活編 2 ページ構成】

生活編 STEP1 睡眠をしっかりとうろう!

☆「寝る時間をもったいない」なんて思っていますか?睡眠はとても大事です。必要と考えられている人間の年齢別睡眠時間(2015米国内立睡眠財団公表)

年齢	限界最長睡眠時間	望ましい睡眠時間	限界最長睡眠時間
6~13歳	7~8時間	9~11時間	12時間
14~17歳	7時間	8~10時間	11時間

睡眠不足・睡眠障害

睡眠の効果

- からだや心の疲労を回復させる
- 成長ホルモンが分泌される
- 骨を伸ばす
- 筋肉を強くする
- 代謝が高まる
- 免疫力を高める
- 心を強くする・安定させる
- 頭をよくする

睡眠は体と脳を休ませる大切な時間だよ。

☆「寝る前までスクリーンタイム(テレビ、スマートフォン、パソコン、ゲーム機等の使用)」という人はいませんか?

スマートフォンやゲーム機などのデジタル機器の液晶画面の光には、ブルーライトという青くて強い光が含まれているものがあり、寝る前にブルーライトなどの光を浴びると睡眠を促すメラトニンというホルモンが出にくくなり、なかなか眠れなくなったり、朝起きるのがつらくなるといったことが起こることがあります。寝る前のスマートフォンやゲームを控えましょう。

STEP2 朝ご飯を食べよう!

☆「朝ご飯はごはんやパンのみ」、「朝ご飯を食べない日がある」ということがありますか?

朝食の効果

- 集中力が高まる
- 記憶力が高まる
- やる気が出る
- 代謝が高まる
- 便秘が解消する
- 体内リズムが整う

朝食抜きの影響

- 体温が上がらず、授業に集中できない
- イライラしやすくなり、協調性に乏しくなる
- つかれやすく、運動や遊びでのけがが多くなる
- 代謝が下がり、昼食が脂肪になって蓄積される

☆食事は、三食とも栄養のバランスよく食べることが理想です。特に一日の始まりに食べる朝ご飯について、もっと考えてみませんか。

和食: 白米 + 味噌汁 or 納豆 or 漬物

洋食: パン + サラダ or 卵 or 野菜

- ウ 岩手県学校保健研修会の開催
- 肥満改善と予防を推進するため、学校保健推進者の資質向上を図ることを目的とする。
- (ア) 開催日: 令和元年 11月5日(火)
- (イ) 参加者: 108人
- ① 所属内訳: 小学校 64人、中学校 26人、高等学校 11人、特別支援学校 4人、県医師会 3人
 - ② 職種内訳: 指導養護教諭 1人、養護教諭 80人、教諭 22人、副校長 1人
- (ウ) 内容
- ① 行政説明ほか
岩手県の児童生徒の肥満傾向と「岩手型肥満解消ぺっこアプローチ」の周知。
 - ② 実践発表
 - ③ 講義「学校保健委員会を活用した健康課題解決のための学校保健組織づくり」
 - ④ グループ協議

【参加者の感想】

- ・肥満予防と改善の取組について、専門家による指導や家庭との連携等、学校だけでなくチームで取り組んでいくとよい方向に改善できそうだった。
- ・本校でも肥満傾向児童の割合が高いので、自尊感情にも配慮して、自動が主体的に改善しようと思える支援を考えていきたい。
- ・「ぺっこはじめようステージ」のようなカードの活用は、ふだん動くことを好まない子のやる気を引き出す方法であると感じた。
- ・ぺっこアプローチ、60 運動の資料等、子どもも保護者も分かりやすく見やすい資料なので、活用したい。
- ・肥満度 20%以上の児童を対象に個別面談をしていたが、実践発表を聞き、15～19%の予備群にも指導していく必要があると感じた。また、ぺっこアプローチをもう少し活用したい。
- ・岩手型肥満解消ぺっこアプローチを初めて知った。ぜひ活用したいし、活動量計も使ってみたい。
- ・小学校の実践発表だったが、高校でも活用できるものがあると思った。軽度肥満を対象として、ぺっこアプローチを高校バージョンで実施したい。

2. 事業の達成度について

- (1) 学校保健研修会を5年間開催したことにより、肥満が健康問題であることと、その課題解決に向けた取組方法について、県内全ての公立学校に普及啓発することができた。
研修者アンケート結果：「とても満足【A】」76.5%、「満足【B】」22.5%
- (2) 肥満指導資料について、小学校・中学校・高等学校に共通した指導資料が作成できたことで、指導者が同じ意識をもって指導に当たることが期待できる。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- (1) 関係機関と連携しながら、効果的な指導方法について検討を重ね、成果を上げること。
- (2) 指導資料の内容について、継続的な見直しを行うこと。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

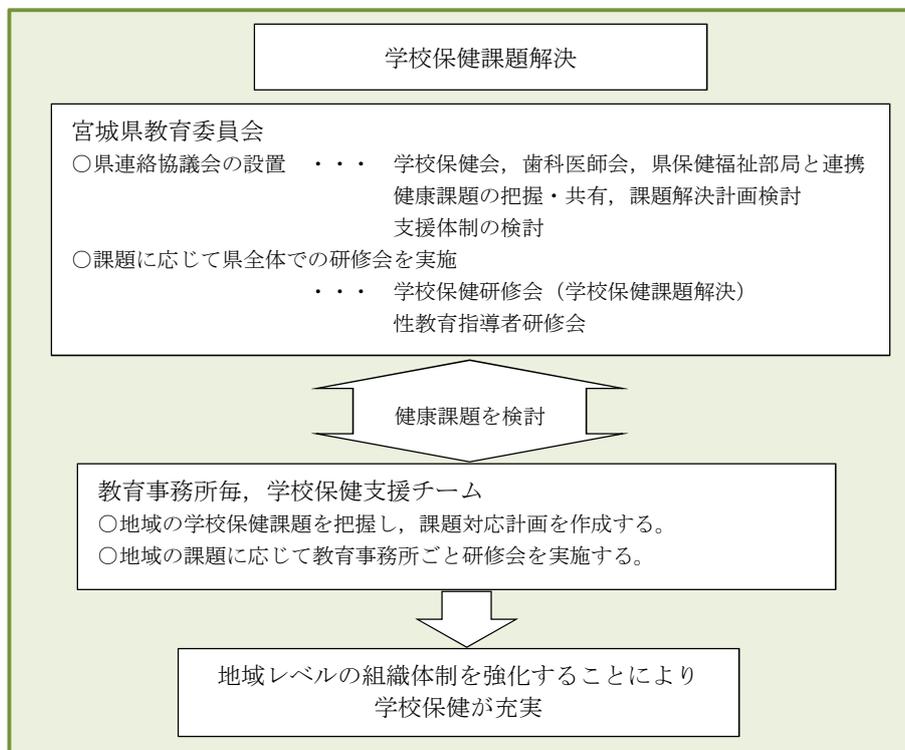
① 協議会の構成員

全体で15人

- ・医師1人
- ・歯科医師1人
- ・県保健福祉部局4人
- ・県教委4人
- ・各教育事務所指導主事5人

他の組織との連携

- ・学校保健会（医師会）
- ・歯科医師会
- ・子ども家庭支援課
- ・健康推進課
- ・精神保健推進室



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

◆大河原教育事務所構成員 全員で19人

地区学校保健会会長, 保健福祉事務所技術次長, 地区学校保健会養護教諭, 教育事務所長・指導主事

- 実施日程: 7月4日 第1回学校保健支援チーム連絡協議会
 8月29日 課題解決研修会「児童・生徒のメンタルヘルス」
 8月29日 第2回学校保健支援チーム連絡協議会

◆仙台教育事務所構成員 全員で16人

市町村代表養護教諭, 教育事務所指導主事, 保健福祉事務所担当者

- 実施日程: 7月16日 第1回仙台教育事務所連絡協議会
 12月4日 課題解決研修会「不登校の理解と支援」
 12月4日 第2回仙台教育事務所連絡協議会

◆北部教育事務所構成員 全員で21人

市町教育委員会学校保健担当者，市町代表養護教諭，保健福祉事務所・地域事務所担当者，地区校長会会長
教育事務所長・指導主事

実施日程： 8月22日 第1回北部管内連絡協議会
12月11日 課題解決研修会「子供の口腔の健康づくり」
12月11日 第2回北部管内連絡協議会

◆東部教育事務所構成員 全員で16人

保健福祉事務所健康づくり支援班技術主査，保健福祉事務所登米地域事務所成人・高齢班技術次長，市健康推進課技術主幹，市民生活部健康推進課長，管内教育委員会指導主事，地区学校保健会長，地区養護教諭部会
部長，栄養教諭，教育事務所指導主事

実施日程： 8月21日 第1回東部連絡協議会
11月21日 課題解決研修会「基本的生活習慣の確立」
11月21日 第2回東部連絡協議会

◆気仙沼教育事務所構成員 全員で19人

保健所所長，保健所主任主査，地方振興事務所技師，地区学校保健会副会長，市町教育委員会社会教育主事
市町保健福祉課健康増進係長，推進地区（小中学校長，中学校PTA会長，小学校栄養教諭，中学校養護教諭），
教育事務所

実施日程： 6月26日 第1回連絡協議会
9月12日 課題解決研修会①「肥満度において正常範囲にいる児童生徒を増やす」
10月10日 課題解決研修会②「肥満度において正常範囲にいる児童生徒を増やす」
11月21日 課題解決研修会③「肥満度において正常範囲にいる児童生徒を増やす」
12月6日 課題解決研修会④「肥満度において正常範囲にいる児童生徒を増やす」
1月10日 課題解決研修会⑤「肥満度において正常範囲にいる児童生徒を増やす」
1月10日 第2回連絡協議会

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

6月12日に第1回県連絡協議会開催し，宮城県の児童生徒の健康課題について協議し，肥満，う歯，心のケア，性に関する指導が課題であることを共通認識した。

教育事務所ごとに地域連絡協議会の体制を整え，健康課題の把握と課題解決に取り組むことを確認した。

◆県の研修会：10月25日に学校保健研修会（課題解決）において，「子どもの肥満・生活習慣病予防について」及び「子ども・若者のメンタルヘルスを支える～子ども若者の自死予防～」を健康課題とした研修会を開催した。また，1月16日に性教育指導者講習会においては，「性に関する現状」及び「“いろいろな性，いろいろな生きかた”を学ぶ意義と課題」について研修会を開催した。



10月25日開催 学校保健研修会（課題解決）



1月16日開催 性教育指導者研修会

2. 事業の達成度について

○県の研修会について（受講者からのアンケートより）

学校保健研修会 令和元年10月25日（金） 講義1：子どもの肥満・生活習慣病予防について
 〈参加者121人〉 講義2：子ども・若者のメンタルヘルスを支える～子ども若者の自死予防～

性教育指導者研修会 令和2年 1月16日（木） 講義3：性に関する現状
 〈参加者109人〉 講義4：“いろいろな性，いろいろな生きかた”を学ぶ意義と課題

（単位：％）

	質問項目	よくわかった とても役立つ	わかった 役立つ	あまり わからなかった あまり 役に立たない	わからなかった 役に立たない	無回答
講義1 子どもの肥満・生活習慣病予防について	内容は理解できたか	64.2	33.3	0.0	0.0	2.4
	内容は役立つか	57.7	35.8	3.3	0.0	3.3
講義2 子ども・若者のメンタルヘルスを支える	内容は理解できたか	80.5	13.0	0.0	0.0	6.5
	内容は役立つか	76.4	17.1	0.0	0.0	6.5
講義3 性に関する現状	内容は理解できたか	50.5	46.3	1.1	0.0	2.1
	内容は役立つか	46.3	44.2	3.2	0.0	6.3
講義4 “いろいろな性，いろいろな生きかた”を学ぶ意義と課題	内容は理解できたか	76.8	13.7	0.0	0.0	9.5
	内容は役立つか	67.4	22.1	0.0	0.0	10.5

○地域検討委員会（事後アンケート実施。報告書「取り組みにおける成果」より）

- ・自分自身のストレス反応を知ることが難しいと改めて思った。「ポジティブな活動の計画」という考え方は非常に大切だと思う。子供にも先生方にも広めたい。
- ・講義後にグループ協議を行った。不登校に対するアプローチは解決志向の方法で，児童・生徒の支援に当たっていきいたい等の感想が寄せられ，大変充実した研修会となった。
- ・むし歯や肥満といった子供の健康課題の改善に管内一体となって取り組むことにより，子供たちの健康を守っていこうという意識の高まりが見られた。
- ・保健所からの情報提供，中学校からの話題提供，講演を内容とし，いずれも高い評価を得た。エビデンスに基づいた講演講話は説得力があり，大変好評だった。
- ・大学教授や専門的な知識を有する方々に指導していただくことができた。保健所の食育推進班や市町の保健福祉課と連携したことで，地域への健康課題発信につなげることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

各教育事務所において保健福祉部局との連携体制は充実してきたが，健康課題は多岐にわたりまだまだ解決には至っていない。県の健康課題が肥満やう歯であることも長年続いている。講演や研修に留まらず，各校で具体的な課題解決の取組につながる工夫や働きかけがさらに必要と感じた。健康課題解決研修への意欲が高まっている現状であり，事業継続を強く希望する意見が寄せられた。今後，県事業として継続して実施することができないか検討をしていく。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

○県連絡協議会メンバー：全員で18名

内訳：秋田大学大学院特別教授、県医師会(小児科医)、県歯科医師会、県薬剤師会、県PTA連合会、県小学校長会、県中学校長会、県高等学校長協会、県教育研究会保健主事部会、県養護教諭研究会、県健康福祉部健康づくり推進課、指定地域教育委員会、県教育庁生涯学習課、指定地域所管教育事務所、県教育庁保健体育課(課長・班長・担当2名)

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

○指定地域：横手市増田地区

○学校保健支援チーム会議

・第1回会議～令和元年7月16日(火)

県担当者から事業概要についての説明、横手市及び増田地区各学校の取組についての協議

・第2回会議～令和2年1月21日(火)

事業の進捗状況の報告、成果と課題の検証、次年度以降の取組についての協議

○学校保健支援チームメンバー：全員で20名

内訳：学識経験者、学校医(内科)、PTA代表(中学校)、市保健師、保育園長、小学校長、中学校長、小学校教頭、中学校教頭、小学校養護教諭、中学校養護教諭、指定地域所管教育事務所、県教育庁生涯学習課、県教育庁保健体育課(班長・担当2名)、指定地域教育委員会4名

④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

○課題解決計画

- ・横手市増田地区の小・中学校を指定地域とし、望ましい生活習慣の確立を目指したアウトメディアの取組を実践する。
- ・指定地域において、健康課題解決に向けた研修会を開催する。
- ・県や指定地域の取組の成果や課題を報告書にまとめ、県内の市町村教育委員会及び学校等に配付する。

○実際の取組

(1) 横手市全体での取組

- ・横手市教育推進委員会(情報モラル委員会)の活動
各校での取組を把握するためのアンケート調査を実施する。
情報通信『ぼけっと』の全児童生徒への配付
- ・養護教諭部会の活動
各中学校区毎に連携し、保健だより等による保護者への啓発
各校において、委員会活動での日常的な働きかけ



(2) 指定地域（横手市増田地区）の小学校における取組

- ・毎週水曜日の「アウトメディアデー&ブックデー」の実施
電子メディアを使わずに、時間を有効に使う方法を提案し、実践する。
- ・児童集会「アウトメディアデー&ブック集会」の実施
健康委員会と図書委員会とで共同開催し、「アウトメディアデー&ブックデー」の意識を高める。
- ・「アウトメディア通信」の発行
アウトメディアに関する情報や取組の報告を掲載する。



(3) 指定地域（横手市増田地区）の中学校における取組

- ・「アウトメディアチャレンジDays」の実施
平日と夏期休業中の6日間を設定し、それぞれで目標を決めて、アウトメディアチャレンジを実施する。
- ・中学校保健委員による保健集会の開催
中学生が小学校6年生を対象として保健集会を開催し、小中連携による交流を行う。
- ・教職員研修会の開催
小・中学校合同で、教職員を対象とした研修会を開催し、メディアに関する知識を深めるとともに、グループワークで情報交換をして、取組の方向性を確認する。



(4) 健康課題解決研修会の開催

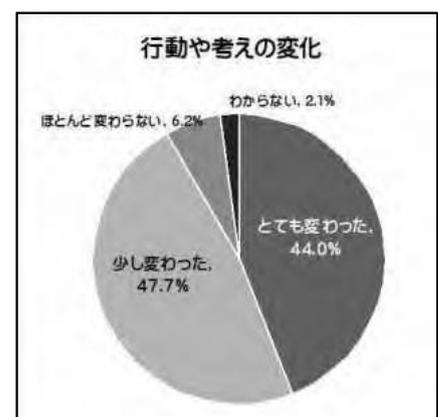
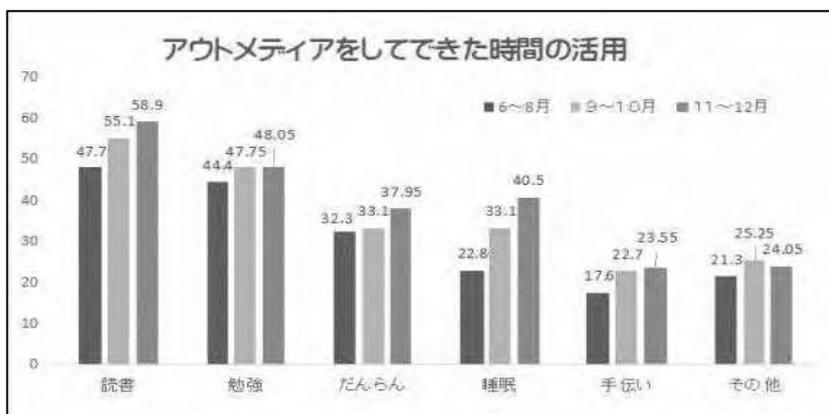
- ・横手市教育委員会及び増田地区小・中学校から、実践に関する発表
- ・「デジタルメディアと子どもの成長への、われわれ大人の関わり方」を題した専門家による講演
- ・参加人数 104名（学校関係者、保護者、教育委員会関係者）



2. 事業の達成度について

① 指定地域（横手市増田地区）の小学校における取組

- ・定期的に継続してアウトメディアに取り組むことで、メディアとの接し方について、児童の意識の向上や行動の変化が見られた。
- ・時間の使い方や過ごし方を工夫する児童が増え、「ひま＝ゲーム」の感覚が衰退し、家族で過ごす時間や会話などの楽しみが増えたという取組の感想が見られた。
- ・大多数の保護者は、高い関心を持って子供たちのアウトメディアを支援し、今後も家族で協力して継続したいと考えている。



② 指定地域（横手市増田地区）の中学校における取組

- ・生徒自身が目標を設定して、アウトメディアチャレンジを実施したことにより、普段の生活を振り返ることができ、生活を見直そうという意欲につながった。
- ・保護者の感想から、家庭での子供たちの様子や心配する家族の思い、保護者のメディアへの依存傾向等を知ることができた。
- ・小・中学校が合同で取り組むことにより、家庭の協力が得やすくなった。

③ 健康課題解決研修会の開催

- ・専門家による講演では、デジタルメディアを利用している実態や健康への影響、子どもへの働きかけのポイントなどについて、具体的にわかりやすくお話しいただいた。

研修会参加者のアンケートより

大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった
91.2%	8.8%	0.0%

【増田小・中学校の取組について】

- ◆中学生が小学生に集会を実施したり、集会後のアンケートへコメントを書いたりすることが、児童生徒相互の学習へとつながっていてとても有効であると思い、勉強になりました。
- ◆ノーメディアやアウトメディアの取組を続けてきてはいましたが、マンネリ化を感じていたため、たくさんのヒントをいただきました。

【講演について】

- ◆小学生のこの数年のネット利用増加率の大きな変異に驚かされました。子供たちの関わり方を考えていく以前に、同様にユーザーである我々大人の利用の仕方を見つめ直す機会が必要だと改めて思いました。
- ◆ゲームの置き換えや生活全般について見直すことなどについて教えていただき、ありがとうございます。学校に持ち帰り活用していきたいと思えます。
- ◆家庭でルールを決めてもすぐに崩れてしまい、新しい対策の視点が見付かることを期待して参加しました。子供をメディアから遠ざけることばかり考えていましたが、時間の使い方を工夫するという別の視点をもつことができました。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

① 県の取組について

本県学校保健の課題については、「望ましい生活習慣の確立」、「歯と口の健康づくりの推進」、「心の健康づくりへの対応」、「性に関する指導の充実」、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の推進」、「食物アレルギーへの対応」、「がん教育の推進」の7つを課題として捉え、これまで本事業を活用するとともに、関係機関等と連携・協力を図りながら、取り組んできた。今後は、それぞれの健康課題解決に向けた各事業を継続し、これまでと同様に、関係機関等と連携しながら引き続き取り組んでいく必要がある。

② 取組の成果の普及について

各事業における指導者研修会等において、本事業の指定地域の取組を紹介するとともに、これまでに作成した報告書を県ホームページに掲載し、取組の成果を発信していく。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全員で11人

内訳：医師2人（県医師会常任理事・栃木県臨床整形外科医会会長）

養護教諭3人（小学校養護教諭・中学校養護教諭・高等学校養護教諭）

県保健部局1人（健康増進課長）、宇都宮市教育委員会1人（学校健康課係長）

県教育委員会4人（義務教育課長・高校教育課長・特別支援教育室長・学校安全課長）

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input checked="" type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

運動器検診検討委員会

(1) 医師部会

委員構成：5人（県医師会常任理事1人・県医師会代表整形外科医1人・県臨床整形外科医会会長1人・大学病院教授2人）

実施日程：第1回運動器検診検討委員会（医師部会）令和元年10月24日（木）

第2回運動器検診検討委員会（医師部会）令和2年1月21日（火）

(2) 学校部会

委員構成：12人（養護教諭6人（小学校2人・中学校2人・高等学校1人特別支援学校1人）、保健体育科教諭3人（小学校1人・中学校1人・高等学校1人）、市教育委員会事務局学校保健担当職員1人・県教育委員会事務局学校保健担当職員2人）

実施日程：第1回運動器検診検討委員会（学校部会）令和元年8月5日（月）

第2回運動器検診検討委員会（学校部会）令和2年1月14日（火）

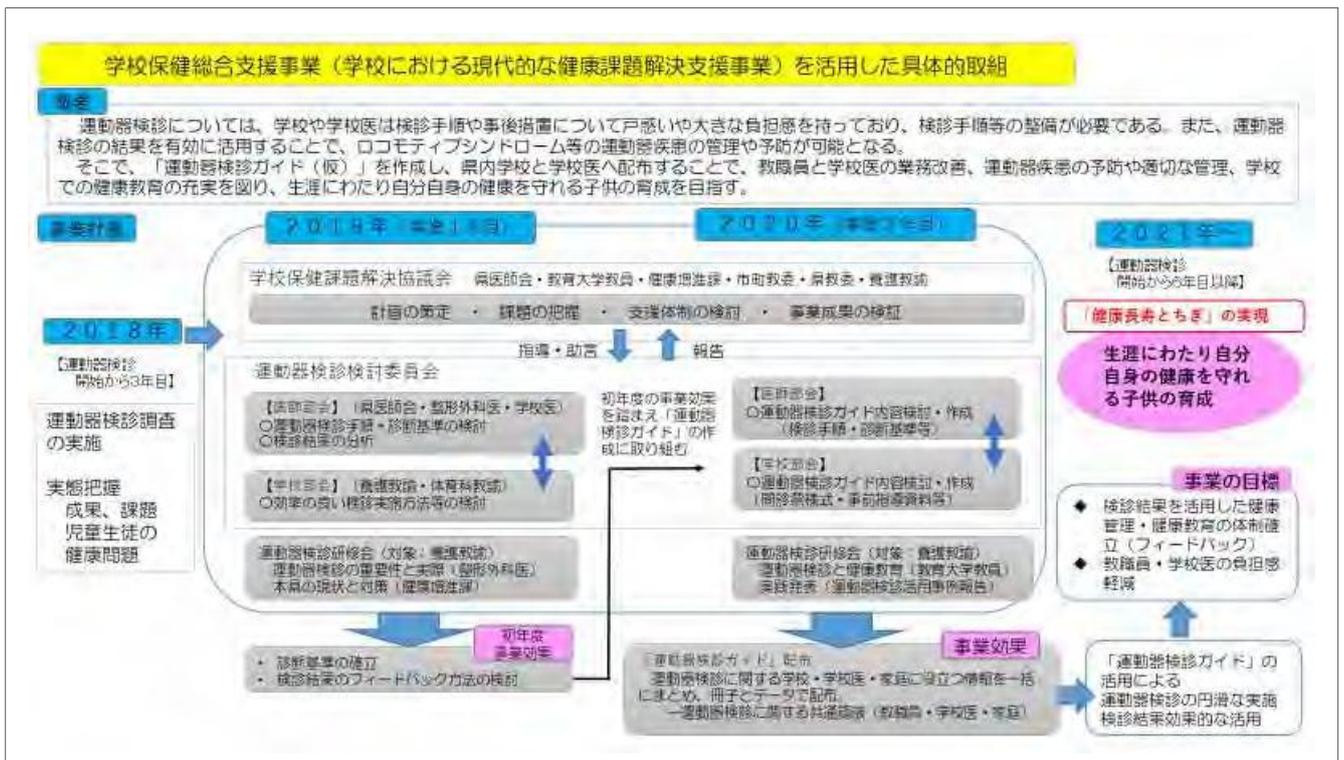
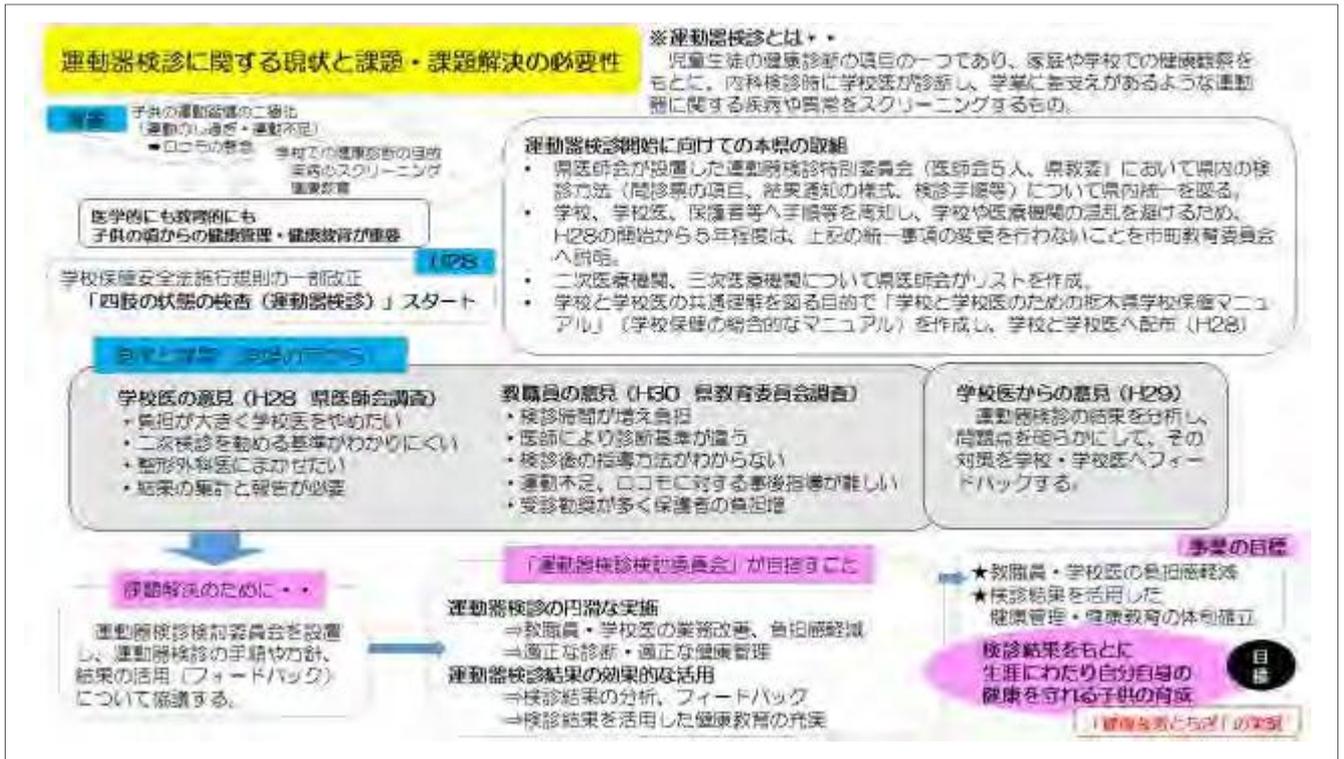
④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

(1) 本県の課題

本県では、運動器検診の開始にあたり、県医師会と連携し、検診方法の基準を定め、県内統一で実施してきたが、運動器検診に対する現場の声として「時間的負担が増した（学校医・養護教諭）」「二次検診を勧める基準がわからない（学校医）」「所見があった場合、その後の具体的な指導（運動不足等に対する指導方法等）がわからない（養護教諭）」等があり、関係者が負担感や不安感を抱えている現状があった。また、各学校においては、検診結果が適切な医療や個別指導等に結びついていない、などの問題を抱えており、これらの課題を解決するためには、検診方法等の見直しや検診結果の分析、また、検診結果をどのように健康教育に結びつけるか等を協議する場を設ける必要がある。

そこで、運動器検診検討委員会を設置し、医師部会・学校部会の各ワーキンググループにおいて専門的な視点から課題の検討を行い、新たな検診方法（問診票の項目、検診手順、結果通知の様式等）の基準等を提示する。新たな検診方法の基準等の周知により、各学校において「運動器検診の円滑な実施」と「運動器検診結果の効果的な活用」がされ、教職員や学校医の業務改善（負担感の軽減）と健康教育の充実を図ることを目指すこととした。

(2) 計画



(3) 実際の取組内容

- 運動器検診検討委員会【医師部会】
検診手順、診断基準の検討、検診結果の分析と活用方法の検討
- 運動器検診検討委員会【学校部会】
効率の良い検診方法等の検討、運動器検診に関わる様式の見直し
運動器検診の機会を活用した健康管理・健康教育の検討
- 運動器検診研修会の実施
養護教諭等を対象とした研修会を開催
講師：整形外科医 「運動器検診の重要性と実際」
講師：県保健福祉部職員 「本県の運動器障害の現状と対策」

運動器検診研修会 講演内容

1. 運動器検診の必要性
2. 運動器検診の実際（栃木県）
3. 側弯症検診
4. 運動器検診
5. 運動器検診の結果
6. 運動器の障害
— 1)上肢（野球検診） 2)下肢
7. 運動器検診の重要性

実施月日	実施事項
令和元年8月1日(木)	<p>①第1回学校保健課題解決協議会</p> <p>運動器検診や運動器疾患の課題を中心とする本県の学校保健の課題を把握し課題解決に向けた事業計画の検討を行った。課題解決に向けた取組の一つとして、教職員・学校医・家庭等の関係者が運動器検診に関する共通認識を持てるよう、「運動器検診ガイド(仮)」を作成することとし、運動器検診検討委員会の各部会において、ガイドの発行を目指した実践を行うこととした。</p>
令和元年8月5日(月)	<p>②第1回運動器検診検討委員会学校部会</p> <p>運動器検診の成果や課題の確認と今後の取組内容の検討を行った。運動器検診の結果を活用した健康教育の取組について協議し、各学校や地域で取組を進めることとなった。また、医師部会への提案等は、事務局から医師部会へ報告し調整を図った。</p>
令和元年9月25日 ～11月1日	<p>③運動器検診事後措置調査</p> <p>運動器検診の結果が適切な医療や個別指導等に結びついていないという課題について、実態を把握するため、県内の市町立学校(小・中・義務教育学校)及び県立学校(中・高・特別支援学校)を対象に、運動器検診後に医療機関受診を勧めた児童生徒の追跡調査を実施した。</p>
令和元年10月24日(木)	<p>④第1回運動器検診検討委員会医師部会</p> <p>運動器検診実施状況調査の結果を分析し、現在の運動器検診システム(手順・診断基準等)の成果や課題の確認を行った。</p>
令和元年11月8日(金)	<p>⑤運動器検診研修会(参加者:548名)</p> <p>運動器検診や運動器疾患についての理解を深めるため、養護教諭等を対象にした研修会を開催した。</p> <p><研修会内容> 会場:宇都宮市文化会館</p> <p>「運動器検診の現状と課題」(県教育委員会事務局職員)</p> <p>「本県のロコモティブシンドローム予防事業」(県健康増進課職員)</p> <p>「運動器検診の重要性」(栃木県臨床整形外科医会 会長 小野 誠 氏)</p>
令和2年1月14日(火)	<p>⑥第2回運動器検診検討委員会学校部会</p> <p>各委員の取組内容を共有し、運動器検診の結果を活用した健康教育の取組や「運動器検診ガイド(仮)」の作成に向けた協議と、検診方法の見直しを行った。</p>
令和2年1月21日(火)	<p>⑦運動器検診検討委員会医師部会</p> <p>運動器検診事後措置調査の結果を分析し、運動器検診結果を活用した適切な健康管理や「運動器検診ガイド(仮)」の作成に向けた協議を行った。</p>
令和2年1月30日(木)	<p>⑧第2回学校保健課題解決協議会</p> <p>本事業全体の成果や課題を検証し、次年度も引き続き、運動器検診や運動器疾患に関する課題解決の取組を継続し、「運動器検診ガイド(仮)」の発行を目指すこととした。</p>

2. 事業の達成度について

① 運動器検診に関する実態把握

運動器検診に関する実態調査や事後措置調査結果の分析により、本県の運動器検診に関する現状を把握することができ、課題に応じた取組を検討することができた。

また、H28とH30の調査結果比較により、運動器検診システムが定着し、適切な検診と受診勧奨が行われ、早期発見早期対応につながっていることが確認できた。一方で、受診勧奨しても医療機関を受診しない児童生徒も多いことがわかった。

② 関係者の共通理解と連携

運動器検診検討委員会に医師部会・学校部会を設置し、それぞれの協議内容を共有・調整したことにより、双方で共通認識を持つことができた。

学校部会においては、養護教諭・保健体育科教諭・教育委員会事務局職員の異職種及び小中高特の異校種間の情報共有を行ったことにより、保護者・児童生徒・教職員への周知、検診方法や事務処理の工夫、運動器検診結果を活用した健康教育等において、関係者が連携した取組が積極的に行われた。

③ 円滑な運動器検診の実施に向けた新たな検診方法の検討

運動器検診検討委員会医師部会及び学校部会において、現在の検診方法の課題を整理し、学校医及び教職員の業務改善と円滑な運動器検診の実施に向けた新たな検診方法を検討した。

④ 運動器検診の結果を活用した適切な健康管理と健康教育の充実

「運動器検診研修会」において、整形外科医の講話を実施し、運動器検診の意義や運動器疾患対応に対する養護教諭の理解を深めることができた。健康増進課から本県の現状等の説明を行い、児童生徒の将来を見据えた健康教育についての意識を高めることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

① 運動器検診の結果の継続的な管理や個別指導への活用及び教職員間での結果の共有が不十分であることや、学校保健担当教員以外の教職員及びスポーツ指導者等の運動器検診（目的や運動器疾患との関連等）に関する理解が不十分であることから、関係者が共通認識を持つための「運動器検診ガイド（仮）」の作成に向けた取組を継続したい。

② 専門医受診率が低いなど、運動器疾患に対する保護者や児童生徒の理解や意識が不十分であることから、運動器検診事後措置調査を継続実施して、実態を把握したい。

③ 運動器検診に対する学校医の心的負担（目視による見落としの不安等）が大きいことから、引き続き県医師会等と連携して、検診方法や基準についての再検討を行いたい。

④ 生涯にわたり、自主的に健康管理ができる児童生徒を育成するため、養護教諭と保健体育科等との連携を強化し、運動器検診の結果を活用した適切な健康管理と健康教育の充実を図りたい。

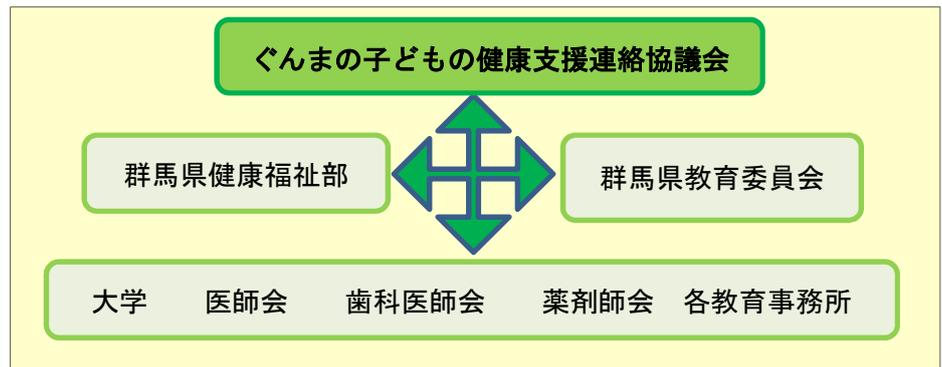
⑤ 本事業で明らかになった成果や検討した新たな検診方法について、学校医や教職員へ周知し、共通理解を図りたい。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

- 13人 【内訳】 教授1人(小児科医)、医師1(小児科)人、歯科医師1人、薬剤師1人、健康福祉部主監1人、指導主事5人
 【組織】 群馬大学、群馬県医師会、群馬県歯科医師会、群馬県薬剤師会、群馬県健康福祉部局、各教育事務所



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

生活習慣病予防対策検討委員会

【肥満予防・改善部会】 委員10人

〈内訳〉

〈実施日程〉 令和元年12月11日(木)

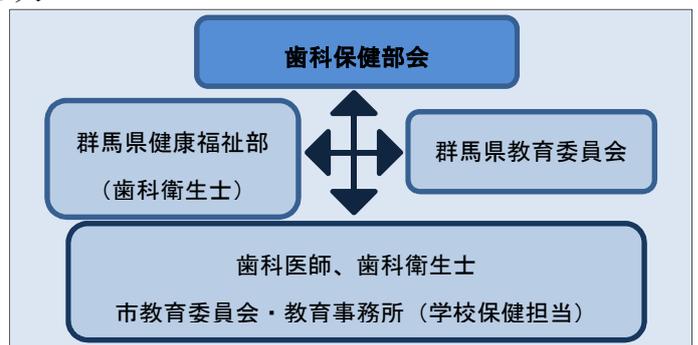
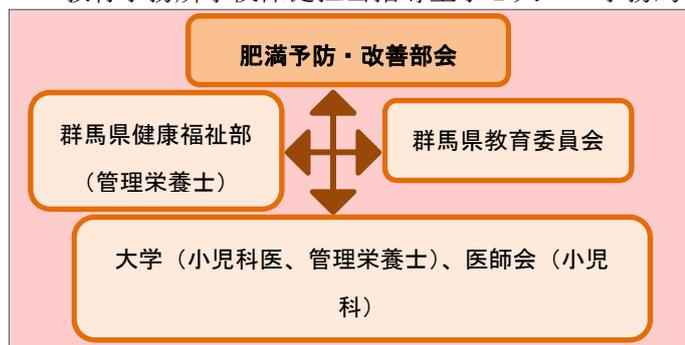
- ・ 医師6人：県学校医会長(小児科)、群馬大学大学院教授(小児科) 群馬大学大学院助教(小児科) 市代表医師(小児科)
- ・ 高崎健康福祉大学教授(健康栄養学科) 1人
- ・ 保健予防課(管理栄養士) 1人
- ・ 市教育委員会指導主事2人(学校給食担当、学校保健担当)
- ・ 事務局4人

生活習慣病予防対策検討委員会【歯科保健部会】 委員6人

〈内訳〉

〈実施日程〉 令和元年9月6日(金)

- ・ 歯科医師2人：県歯科医師会代表、郡市歯科医師会代表
- ・ 歯科衛生士2人：県歯科衛生士会代表、保健予防課
- ・ 市教育委員会学校保健担当指導主事1人
- ・ 教育事務所学校保健担当指導主事1人
- ・ 事務局3人



④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

【本県の健康課題】

課題1：生活習慣病予防対策

「肥満予防・改善」・・・・・・・・肥満傾向児出現率の高さ

「歯科保健」・・・・・・・・中学生、高校生における歯肉に炎症所見を有する生徒の増加

課題2：メンタルヘルス・・・・・・・・心や身体に課題を抱える児童生徒の対応

課題3：性に関する指導・・・・・・・・特別支援学校における性に関する対応

【課題解決計画】

- ・本県の児童生徒の健康課題について、「生活習慣病予防」「メンタルヘルス」「性に関する指導」を重点とし、その課題解決に向け、検討委員会の設置や研修会を開催する。

【取組内容】

課題1 生活習慣病予防

(1) 肥満予防・改善部会

- ・小・中学校における生活習慣病予防対策実施状況2年目評価
- ・改善策の周知

(2) 歯科保健部会

- ・系統的な歯科保健教育に向けた啓発資料の作成と周知

課題2 メンタルヘルス（生活習慣病予防含む）

研修会【子どもの体と心を理解するための実践講座】

- ・日 時：令和元年8月22日(木)
- ・参加者：340人（教職員、学校歯科医、学校薬剤師、市町村教育委員会関係者等）
- ・内 容：
講義1：「小児の不登校・ゲーム障害・肥満症」
医療法人モクシン堀田修クリニック
在宅診療主任部長 永野 千代子
＊群馬県学校医会共催、群馬県学校医会費負担
講義2：「子どもの豊かな心の成長を支援する」
横浜国立大学大学院教育学研究科 教授 泉 真由子

課題3 性に関する指導

研修会【群馬県特別支援学校養護教諭研修会】

- ・日 時：令和元年7月23日(火)
- ・参加者：34人（県内の特別支援学校に勤務する養護教諭）
- ・内 容：「特別支援学校における性に関する指導」
首都大学東京健康福祉学部 非常勤講師 中下 富子



2. 事業の達成度について

【生活習慣病予防に関すること】

(1) 肥満予防・改善

県内の小・中学校を対象に、2年目となる「肥満の予防・改善に向けた生活習慣病予防対策に関する状況調査」を実施し、検討委員会で評価を行い、成果と課題及び解決策等についてまとめ、関係機関に周知ができた。

検討委員会で行った評価

- ・高度肥満児の受診率が昨年度よりも下がっている。高度肥満は継続した指導が必要であることを学校医療機関双方で確認し、支援していく。
- ・部活動によっては、体重を落とせないとといった意見がある。科学的な見地からの指導が求められる。食育と体力向上をセットで考えたり、メリットを示したりすることで、理解を深めてもらう。
- ・学校の統廃合に伴うバス通学等で、運動量の確保が難しい。学校によって様々な状況があるので、運動量が確保できるような運動の工夫や、運動が難しい場合は食事の工夫も大切。実態に応じた対応が求められる。
- ・指導が難しいといった意見がある。指導を受ける側が、体形ではなく「健康のために」という意識をもってもらえるようになることが大切である。
- ・学校での指導体制については、学校によって差はあるが、よい面での成果がたくさん見られる。こういった取組を継続し、更なる予防につなげていく必要がある。

(2) 歯科保健部会

系統的な歯科保健教育に向けた啓発資料を作成し、全県下の学校及び学校関係機関に周知できた。

【メンタルヘルス（生活習慣病含む）に関すること】

研修会参加者のアンケート結果から、97%の参加者が「参考になった」と回答した。

参加者の感想

- ・学校の肥満対策にとっても参考になった。
- ・遊びの大切さがよく分かった。子どもに伝えていきたい。体育と連携していきたい。
- ・「規則正しい生活」を子どもに指導するうえで、大変参考になった。
- ・事例を通してインクルーシブ教育について、具体的に理解できた。
- ・学校での合理的配慮に関しては、再検討する必要があると感じた。
- ・多様な性について聞くことができてよかった。

【性に関する指導に関すること】

群馬県特別支援学校養護教諭研修会からの要望で、特別支援学校における性に関する指導に関する講師の派遣を行った。参加者の講義の感想は下記のとおりである（研修会の報告書より）。

介助を要する子どもと接していると、生活年齢に合わせることがおろそかになりがちである。しかし、子どもが自分で性被害等から体を守るようになるためには、生活年齢に合わせ、プライベートゾーンを意識させる指導が必要だと知った。今後は、より生活年齢を意識して、学校と家庭で連携した指導を行っていきたい。

また、人を好きになるという気持ちを尊重するという観点で性指導をしたことがなかったので、今後は、性指導の領域を広く捉え、子どもの気持ちを尊重しながら指導をしていきたい。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1 生活習慣病予防対策

① 肥満の予防・改善：基本方針を踏まえた学校での取組の評価と医療機関との連携

- ・県で策定した基本方針を踏まえ、学校医と連携した受診勧告と受診結果報告に基づく保健管理の徹底。
- ・保健・食育・体力向上のつながりをもたせた組織的な保健教育の推進。
- ・基本方針を踏まえた家庭・地域連携。
- ・望ましい生活習慣の定着による身体の健康の保持増進と、それに基づく心の健康の保持増進の推進。

② 歯科保健の推進

- ・作成した啓発資料を活用した歯科保健教育の推進
- ・地域連携の推進

2 特別支援学校における健康課題の解決

- ・昨年度の「肥満対策」、本年度の「性に関する指導」に続き、特別支援学校の児童生徒の特性に応じた保健教育の課題解決
- ・特別支援学校以外の学校における、特別な配慮を要する児童生徒の対応についての情報提供

令和元年度

学校保健総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

埼玉県

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

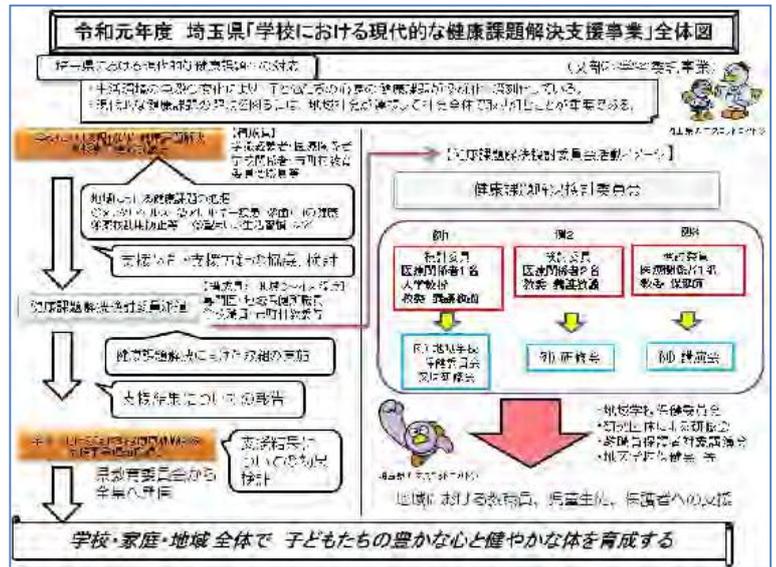
全員で12人

【内訳】

大学教授1人、医師1人（内科・小児科）、
歯科医師1人、薬剤師1人、校長2人、
養護教諭2人、市教育委員会1人、
県保健医療部1人、県教育委員会2人

【連携した組織】

- ・埼玉県医師会 ・埼玉県歯科医師会
- ・埼玉県薬剤師会
- ・埼玉県公立小学校校長会
- ・埼玉県高等学校校長協会
- ・埼玉県養護教諭会 ・川口市教育委員会
- ・県保健医療部保健医療政策課



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

【地域学校保健委員会（県立川口東高等学校・川口市立戸塚綾瀬小学校）】

○健康課題解決委員

全員で9人 【内訳】大学教授1人、学校歯科医3人、教頭2人、養護教諭2人、県教育委員会1人

④ 当初の課題解決計画と実際の実組内容

小・中・高等学校それぞれに歯科保健活動が実施されているが、縦のつながりが薄く、系統的な指導を実施することが難しい。特に高等学校入学後は、昼食後の歯みがき習慣が減少するなど、これまで義務教育諸学校で実践されてきた歯・口腔に関する保健教育のながれが停滞する傾向が見られる。そのため、地域の小・中学校等と交流事業や地域保健委員会を開催し、発達段階に即した歯科保健活動の実践を目指した。

地域学校保健委員会（埼玉県立川口東高等学校・川口市立戸塚綾瀬小学校）
「切れ目のない学校歯科保健活動の実践」

<実際の実組内容>

ア 健康課題解決検討委員会

日時 令和元年10月16日（水）11：00～12：00

会場 川口市立戸塚綾瀬小学校会議室

(ア) 埼玉県の学校における現代的な健康課題解決支援事業の概要について

(イ) 川口市立戸塚綾瀬小学校・県立川口東高等学校の歯・口腔に関する健康課題について

(ウ) 課題解決に向けた方策の検討

県立川口東高校・戸塚綾瀬小学校交流事業（ハートフルデー）における歯みがき講座

- 健康課題解決検討委員会での情報交換及び委員からの助言をもとに、「わかるだけでなく『できる』を育む保健教育」に焦点をあて、年間3回の交流事業を行っている川口市立戸塚綾瀬小学校と連携し、高校生による歯みがき講座を実施。
- 小学生への歯科保健指導を通し、自らの歯・口腔の健康状態を改めて見直すことや身の回りの人に健康情報を伝達する能力を養うことを目的とした。
- 人に何かを伝えるためには、その何倍もの知識や技能が必要となる。教えることにより教えられるという「学び合い」を目指した。

《県立川口東高校・戸塚綾瀬小学校交流事業（ハートフルデー）における歯みがき講座》

1 日 時 令和元年11月6日（水）3校時目

2 対 象 1学年（3クラス）

3 サポーター 県立川口東高等学校保健委員（12人）

4 サポーターの役割

- (1) 1学級につき4名の高校生サポーターがつく。サポーターの生徒は、3校時目の歯みがき講座だけでなく、登校時から下校まで同じ学級で活動する。
- (2) 4人の内1名がチーフとなり、チーフが染め出しの手順を説明する。あとの3人は補佐役として児童への声掛けや染め出し、歯みがきの補助を行う。

5 準備する物 歯ブラシ、プラークテスター、手鏡、記録用紙、赤鉛筆

6 使用する教材

- (1) 「よ坊さんとまなぼう」 公益社団法人日本歯科医師会HP
- (2) 「はははのはなし」 福音館書店
- (3) 歯っぴーふぁいる 埼玉県歯科医師会

7 歯みがき講座に向けた準備

(1) 事前学習

歯みがき講座サポーターは、生徒保健委員の中から立候補者12人によって編成した。12人のサポーターに対し、養護教諭による事前学習を実施した。参加した生徒は小学1年生になりきって歯垢の染め出しを体験した。事前学習では、歯垢の染め出しの手順の他に、児童へ声掛けする際のポイントや歯みがきの補助の仕方について実践を交えて学習した。

(2) 歯みがきメダル作り

歯みがき講座の最後に対象クラスの児童全員に歯みがきメダルを配付することとした。歯みがきメダルの作成は、生徒保健委員及び有志の生徒が担当した。

8 歯みがき講座当日の様子

当日は事前学習での学びを生かし、楽しく積極的に歯みがき講座を実施することができた。どの生徒も体がかがめて小学1年生の目線に合わせ、わかりやすく丁寧な言葉遣いで歯みがき指導を行うことができた。



イ 健康課題解決検討委員会（地域学校保健委員会）

日時 令和元年12月13日（金）14:30～16:30

会場 川口市立戸塚綾瀬小学校体育館

参加者 川口市立戸塚綾瀬小学校・県立川口東高等学校の教職員、児童・生徒、保護者、
学校歯科医、学校薬剤師（参加人数 76人）

内容 ○各校の歯科保健取組状況報告

○講演 現代的な健康課題を解決するために～歯科保健教育を通じて子供たちの資質能力を育む～
講師 女子栄養大学 教授 大沼 久美子 氏

○児童・生徒保健委員による発表

○懇話会

2. 事業の達成度について

① 小学校との交流事業における歯みがき講座

- 歯みがき講座に参加した高校生に、積極的な発言や臨機応変な対応ができるようになるという変化が見られ、自己有用感の向上に結び付いた。
- 歯みがきの大切さを改めて実感し、自らの生活を振り返り、行動変容に結び付けることができた。
- 小学生にとって身近な存在である高校生と歯みがきを学ぶことにより、新鮮な気持ちで歯科保健指導に臨むことができた。
- 歯みがき講座サポーターの生徒を各クラスに複数配置したことにより、個々の児童の疑問にタイミングよく答えることができた。

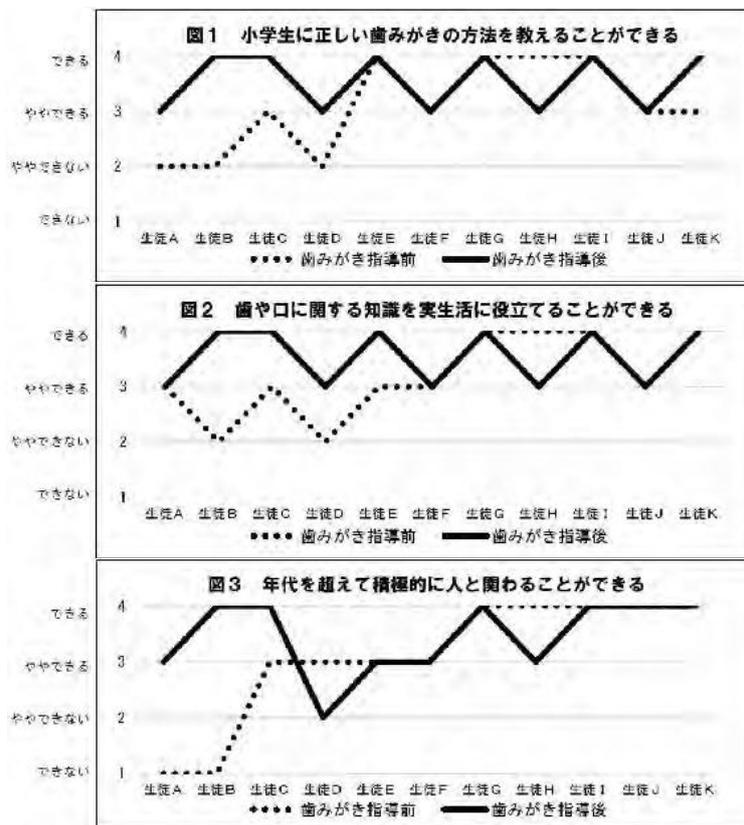
【歯みがき講座サポーターへのアンケート結果】

*歯みがき講座前日及び歯みがき講座の2週間後に1回ずつアンケートを実施。サポーター12人中、有効回答11人。

アンケートの質問事項は、文部科学省『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援』の中で、健康な生活を送るために、児童生徒に必要な力として掲げられている「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」の4項目に沿って設定した。

「心身の健康に関する知識・技能」に関する項目は、歯・口腔の健康に関する問題（全7問・○×で回答）を設定した。歯みがき講座実施前の平均点が5.45点に対し、実施後は5.63点に上昇した。

「自己有用感・自己肯定感」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」に関する項目は、4件法を用いて自己評価し、その結果をグラフに表した（図1～3）。



生徒A・B・C・Dが高校1年生、生徒E・Fが2年生、生徒G・H・I・J・Kが3年生である。「自己有用感・自己肯定感」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」の3項目全てにおいて、特に高校1年生に変化が見られ、歯みがき講座実施後の方が「できる」と回答する人が増加した。小学生への歯科保健指導を通し、教える側の高校生自身も「できる」感を高めることに繋がった。

【歯みがき講座実施後のサポーターの感想】

一年生に歯みがき指導をしてみて感じたことは、自分が想像していたよりも上手に教えることが難しいということです。歯みがき指導の前に、一年生の担任の先生の話し方を見て、自分が思っているよりもうまく理解できるような喋り方、説明の仕方をしなければならぬし、話し方も柔らかくしなければならぬと感じました。そのため、説明をする時に、なるべく優しい言葉を使い、一年生が興味を持てるように身振り手振りをしながら話しました。結果はほとんどの一年生が上手に歯を綺麗にすることができ、戸惑っていた子には担任の先生や同じクラスを担当していた仲間と一緒に対応することができました。今回、歯みがき指導をしたことによって、自分自身も普段雑になりがちな「歯みがき」について見直すことができました。

②地域学校保健委員会

- 各校の取り組みについて共通理解を図ることができ、発達段階に即した歯科保健指導の重要性を改めて認識することができた。
- 様々な年齢層の人が一堂に会することで、多種多様な意見交換を行うことができ、学びの幅が広がった。
- 他校種と合同で委員会を開催することにより、それぞれの校種のイメージや児童生徒の様子を具体的に掴むことができ、相互理解を深められた。
- 地域学校保健委員会参加者より、他の学校にも働きかけをし、学びの輪を広げる計画がなされている。本事業により地域の学びの輪が拡充された。

【地域学校保健委員会参加者の感想】

●保護者

- ・小学校と高校との合同で、委員会は大変面白かったです。小学1年生の保護者ですが、川口東高校の生徒の皆さんが一生懸命考えてくれた活動がとても素晴らしかったです。
- ・小学校保健委員会の子どものクイズや発表、とてもわかりやすかったです。高校生の指導は、1年生の子どもたちには、とても勉強になったと思います。

●教職員

- ・小学校と高校という異年齢による交流が、健康教育にどのように影響するのか、想像ができませんでしたが、地域学校保健委員会の様子を拝見し、とても深い学びに繋がっていることがわかり驚きました。高校生にとっては、過去の自分を振り返り、今後の生活を見つめ直す良い機会になったと思います。小学生にとっては地元の高校生が活躍する姿を間近に見て、将来を考えるきっかけになったかもしれません。このような素晴らしい結びつきが広がることを期待しています。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

令和元年度は県立川口東高等学校が主体となり、地域の小・中学校等と交流事業や地域保健委員会を開催し、発達段階に即した歯科保健活動の実践を目指し事業を実施した。県で行う研修会で実践報告や事業報告を行い、本事業による取組や地域学校保健委員会の開催について全県に周知する機会となっている。県内公立学校（さいたま市を除く）の地域学校保健委員会設置学校数は、平成29年度238校、平成30年度274校、令和元年度314校と増加している。

現代的な健康課題解決のためには、地域社会が連携して社会全体で取り組むことが重要である。本事業の目的や方法を継承し、引き続き埼玉県として学校における現代的な健康課題解決支援を継続していくための予算措置、組織体制の整備を図っていく。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

○ 全員で13人

[内訳：医師2人、県健康福祉部局1人、県教委1人、PTA2人、養護教諭4人、教職員3人]

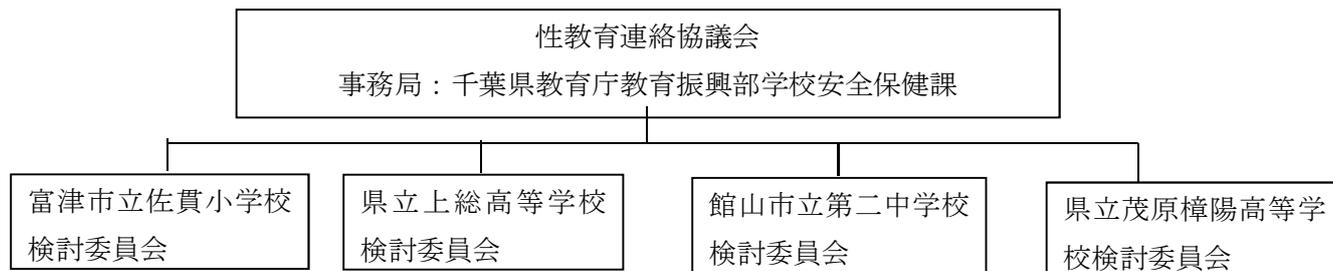
- ・ 医師会理事
- ・ 産婦人科医
- ・ 富津市立佐貫小学校PTA会長
- ・ 富津市立佐貫小学校PTA副会長
- ・ 富津市立佐貫小学校教諭
- ・ 富津市立佐貫小学校養護教諭
- ・ 千葉県立上総高等学校教諭
- ・ 千葉県立上総高等学校養護教諭
- ・ 館山市立第二中学校養護教諭
- ・ 千葉県立茂原樟陽高等学校教諭
- ・ 千葉県立茂原樟陽高等学校養護教諭
- ・ 千葉県健康福祉部疾病対策課技師
- ・ 千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課主席指導主事

② 課題の内容

○ テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣病	<input type="checkbox"/> がん
<input type="checkbox"/> 喫煙・飲酒・薬物	<input type="checkbox"/> その他※		

③ 地域検討委員会等の設置



※ 運営・委員構成等については、各地域検討委員会の計画により決定する。

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

○ 当初の課題解決計画

思春期における性に関すること

エイズや梅毒など
性感染症に関すること

特別な支援を要する
児童生徒に対する
性に関すること



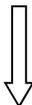
発達段階に応じた指導

<性に関する課題解決計画の作成> → 学校安全保健課

<地域検討委員会による実践>

- ① 富津市立佐貫小学校検討委員会 → 令和元年度第2回性教育連絡協議会で発表
- ② 県立上総高等学校校検討委員会 → 令和元年度第2回性教育連絡協議会で発表
- ③ 館山市立第二中学校検討委員会 → 令和2年度発表
- ④ 県立茂原樟陽高等学校検討委員会 → 令和2年度発表

<性教育の専門家による講演会>



第2回性教育連絡協議会を県内公立学校教職員対象に（研修会を兼ねて）公開

<エイズ教育用パンフレットの公開>

<事業成果の検証と提言>

<県健康福祉部の取組>

○ 実際の実施内容

実施月日	実施事項
7月 3日	<p>第1回性教育連絡協議会</p> <p>目的 性に関する課題解決に向けた計画を立てることができる。</p> <p>会場 千葉県教育会館</p> <p>対象 連絡協議会委員</p> <p>内容 性に関する課題解決に向けた計画検討した。</p>
7月16日	<p>千葉県立上総高等学校検討委員会</p> <p>目標 相手と親密な関係ができると、相手を様々な形でコントロールしようとする、いわゆるデートDVが問題となっている。そこでデートDVとはなにか、よりよい関係を築くにはどうしたらよいかなどを考える機会とする。</p>

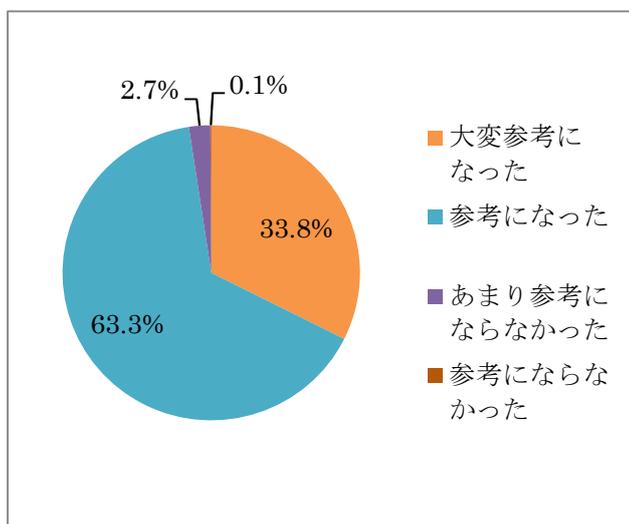
	<p>会場 千葉県立上総高等学校</p> <p>対象 全校生徒 教職員</p> <p>内容 「それって『愛』なの？ 若者のためのデート DV 防止セミナー」</p> <p>①デート DV Q&A ②なぜデート DV が起きるのか。</p> <p>③よりよい関係を築くには（ロールプレイ） ④まとめ学校検討委員会</p>	
8月22日	<p>第2回性教育連絡協議会</p> <p>目的 性教育についての理解を深め、指導力の向上を図ることができる。</p> <p>会場 千葉県文化会館大ホール</p> <p>対象 連絡協議会委員、県内公立学校教員等</p> <p>内容 ①富津市立佐貫小学校検討委員会及び、千葉県立上総高等学校検討委員会の取組について実践発表を行った。</p> <p>②ダイバーノン代表 飯田亮瑠氏を講師に「性別で見る多様性と人権～見えない／見せないしんどさを抱える子どもに向き合う～」というテーマで講演会を実施した。</p>	
10月11日	<p>富津市立佐貫小学校検討委員会</p> <p>目標 父と母のいのちのもとから自分の命ができ、家族の愛情と保護により育まれてきたことに気づかせるとともに、自他の生命を大切にしようとする気持ちを持つことができる。</p> <p>会場 富津市立佐貫小学校</p> <p>対象 2年生</p> <p>内容 「おへそのひみつ」</p> <p>①（導入）誰から生まれてきたの？ ② 胎児の成長過程</p> <p>③ 臍帯について ④ いのちの音を感じよう！ ⑤ 妊娠10ヶ月の妊婦体験</p>	
11月21日	<p>第3回性教育連絡協議会</p> <p>目標 本年度の事業成果を確認し、今後の取組みを充実させることができる。</p> <p>会場 千葉県教育会館</p> <p>対象 連絡協議会委員</p> <p>内容 ①事業成果の確認をした。</p> <p>②館山市立第二中学校検討委員会、県立茂原樟陽高等学校検討委員会及び、県健康福祉部の取組を発表した。</p> <p>③エイズ教育用パンフレットの内容を検討した。第3回性教育連絡協議会</p>	

2. 事業の達成度について

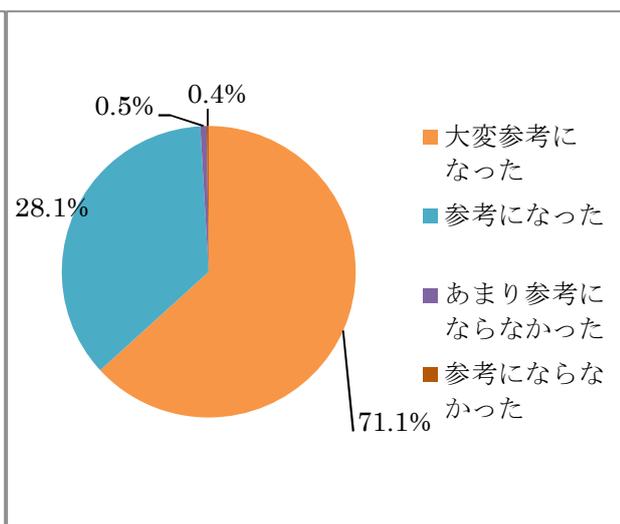
① 研修会等の実施の成果（性教育研修会）

【アンケートの結果】

【実践発表】



【講演】



実施後のアンケートでは、実践発表は、「大変参考になった33.8%、参考になった63.3%、あまり参考にならなかった2.7%、参考にならなかった0.1%」で、講演は、「大変参考になった71.1%、参考になった28.1%、あまり参考にならなかった0.5%、参考にならなかった0.4%」であった。

② 連絡協議会での話し合いから

- ・ 年々変化する現代的な性に関する課題解決のために、学校を対象に関係機関がそれぞれ事業を実施している。今回の連絡協議会の実施により、互いの実施している取組みを知り、理解することができた。
- ・ 性教育連絡協議会と性教育研修会を合同で開催したことで、県内から多くの学校関係者が参加し、富津市立佐貫小学校検討委員会、千葉県立上総高等学校検討委員会の取組が広く伝わった。
- ・ 性教育連絡協議会から県の行っている性に関する事業に対し提言をいただいたことで、次年度の計画に生かすことができる。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ それぞれの関係機関で実施していることを連携させることにより、実施効果がより向上すると考えられるので、その役割を連絡協議会が担っていく必要がある。
- ・ 性に関する指導は、学校教育活動全体を通して行うことが必要であることから、管理職及び指導的立場の教諭によるカリキュラムマネジメント能力を向上させる取組を、協議会でも取り上げていく必要がある。
- ・ 若年層における性感染症、特別支援を要する児童生徒への性の指導、性同一障害児童生徒への対応等、性に関する課題はますます複雑化しており、地域における課題解決に向けた取組を充実させていく必要がある。

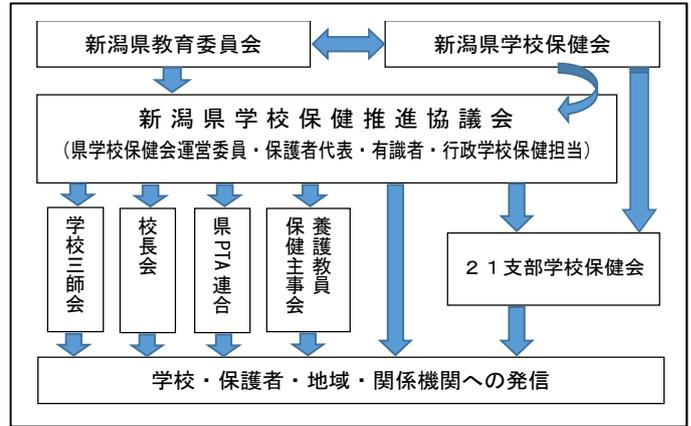
(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

<委員17人>

- ・医師1人
- ・歯科医師1人
- ・薬剤師1人
- ・大学教授1人
- ・校長3人(小・中・高)
- ・PTA1人
- ・養護教諭1人
- ・保健主事1人
- ・県学校保健会事務局1人
- ・新潟市教育委員会1人
- ・教育事務所1人
- ・新潟県教育委員会(事務局)4人



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

○食物アレルギー検討対策委員会 <委員17人>

[内訳] 医師1人、薬剤師1人、大学教授1人、県福祉保健部1人、PTA1人、校長3人(小・中・高)、教諭1人、養護教諭1人、栄養教諭1人、教育事務所1人、県教育委員会6人

④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

【課題解決計画】

生活習慣については、県の学校教育の課題を受け、学力向上並びに体力向上を支える基盤として、児童生徒の生活習慣の改善に全県体制で取り組んでいる。各学校や県学校保健会の支部を中心に「学校保健推進計画」に基づいた取組を行う。また、取組について、県学校保健会の支部を通じて調査を行い、学校保健推進協議会において評価を行う。

アレルギーについては、県の方針を示した「食物アレルギー対応指針」を作成して2年が経過した。市町村教育委員会の食物アレルギーに関する対応マニュアルが策定されたり、各学校においても校内体制が整備されたりしている中で、食物アレルギーの発症報告が増加傾向にある。発症報告の中には、学校給食における誤食や誤配等の報告もあることから、食物アレルギー検討対策委員会において、学校等の対応について検討する。また、教職員や給食従事者、給食関係者等を対象に、食物アレルギー疾患に関する情報や学校での対応について研修会を開催する。

【実際の取組内容】

(1) 学校保健推進協議会

○第1回・・・7月16日(火) 出席者15人

- ・平成30年度事業報告
- ・令和元年度事業計画
- ・学校保健推進計画に基づく取組

○第2回・・・2月12日(水) 出席者16人

- ・学校保健推進計画に基づく取組状況
- ・県学校保健会支部研修の概要
- ・学校保健課題総合支援事業報告

(2) 食物アレルギーに関する研修会

○学校給食運営研修会

日時：令和元年7月12日（金）13：30～16：20

会場：県立教育センター

参加人数：180人〔内訳〕管理職10人、教諭等20人、養護教諭28人、
栄養教諭等98人、教育委員会24人

内容：講演「学校における食物アレルギーの指導と対応」

講師 昭和大学医学部小児科学講座 小児アレルギーエデュケーター 長谷川 実穂



○食育運営研修会

日時：令和元年10月31日（木）13：20～14：10

会場：県立教育センター

参加人数：131人〔内訳〕管理職1人、教諭等5人、養護教諭2人、
栄養教諭等111人、教育委員会12人

内容：演習「学校における食物アレルギーの対応と研修について」

講師 県教育庁保健体育課 指導主事 西山 智子



(3) 食物アレルギー検討委員会

2月12日（水）13：30～ 出席者17人

- ・食物アレルギーに関する研修について
- ・誤食事例等の傾向と分析

(4) 「食物アレルギーに関する研修のまとめ」発行

児童生徒に関わる教職員が正しい知識をもち、情報共有を図り、適切な食物アレルギー対応を一層推進するための活用資料として各学校に配付した。

2. 事業の達成度について

【生活習慣について】

「学校保健推進計画」に基づき、健康的な生活習慣の確立に向けて、学校教育活動全体を通じて健康教育が推進されるよう、研修会等を通じて、管理職や養護教諭等に周知できた。県学校保健会と連携し、各支部の研修会では、現代的な健康課題解決に向けた取組が実施された。学校保健推進協議会では、現代的な健康課題を中心に協議することができた。

<学校保健推進計画に基づく取組状況調査結果>

○学校における朝食摂取率向上の取組

- ・早寝早起き朝ごはん運動の実施 47% (H30:52%)
- ・朝食に関する指導の実施 72%(H30 80%)
- ・便り等での保護者への啓発 87%(H30 89%)
- ・食育講演会の実施 14%(H30 13%)
- ・PTA活動での実施 4%(H30 5%)

校内で連携を図り、生活習慣改善の取組とタイアップし、生活カードチェック等の内容に朝食の項目を入れるなど学校全体で取り組んでいる学校が多くみられた。

○学校における薬物乱用防止等教育の取組

- ・外部講師による薬物乱用防止教室の実施 77%(H30 68%)
- ・保健体育での計画による実施 82%(H30 73%)
- ・保健体育と特別活動を関連付けて実施 48%(H30 43%)
- ・保護者への働きかけを実施 51%(H30 45%)

○学校における歯科保健教育の充実、改善への取組

- ・学校保健計画への歯科保健教育の位置付け 93%(H30 92%)
- ・歯科保健指導計画を作成し、指導を計画的に実施 43%(H30 48%)
- ・歯科保健を学校保健委員会のテーマとして取り上げた 19%(H30 18%)
- ・歯と口の健康週間(6月)やにいがた健口文化推進月間(11月)での取組を実施 84%(H30 80%)

○学校における心の健康問題への取組

- ・教育相談やメンタルヘルス等について、校内研修を実施 42%(H30 45%)
- ・定期的に教育相談や健康相談を実施 92%(H30 92%)
- ・校内体制による組織的な対応 93%(H30 93%)
- ・児童生徒の実態把握(アンケート)の実施 93%(H30 91%)
- ・医療機関や地域関係者との連携を図りながら対応 81%(H30 76%)
- ・心のケアについて危機管理マニュアルへの位置づけ 51%(H30 43%)

○生活習慣改善の取組

- ・学校評価と関連させた組織的な取組 75%(H30 76%)
- ・学校保健計画に位置付け、計画的に実施 81%(H30 83%)
- ・発達段階に応じた保健指導を実施 71%(H30 71%)
- ・体育科・保健体育科と関連させて実施 68%(H30 67%)

【アレルギーについて】

○食物アレルギーに関する研修会

- ・1回目の研修では、小児アレルギーエデュケーターの立場から、食物アレルギー原因物質の特定方法、食物アレルギー原因物質の除去、誤食、食物アレルギーの食事指導のポイントなどを講義いただいた。食物アレルギーに対する正しい知識、アナフィラキシーに対する適切な対応、事故を予防するための体制づくりの重要性等、学ぶことの多い研修となった。
- ・2回目の研修では食物アレルギーを有する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、日頃から教職員の備えや緊急時対応について、食物アレルギー対応の振り返りやヒヤリ・ハットの演習を通して研修した。食物アレルギーの事故報告事例等を示し、学校で食物アレルギー症状が発症した児童への対応について、適切でなかった場面をグループで発表したり、ヒヤリ・ハットの寸劇の検証と合わせて、改善点について話し合ったりした。事故防止のためには、起きてしまった事故やヒヤリ・ハットの後は、今後の事故防止のためリスクを減らすための改善が必要であるという意識を高めることができた。
- ・2回の研修会を「食物アレルギーに関する研修のまとめ」として冊子にし、学校での食物アレルギー対応や校内研修のための活用資料として各学校に配付することで、適切な対応を一層推進することができた。

○食物アレルギー対策検討委員会

誤食事例等の傾向分析結果から、学校における食物アレルギー対応の現状と対策や事故防止のための多様な対応等について、検討委員会の中で深めることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

【生活習慣について】

- ・令和2年度は「学校保健推進計画」の基となる「健康にいがた21(第2次)」計画の策定年度となっている。それに伴い、学校保健推進計画の内容についても検討をする必要がある。
- ・健康教育を推進するにあたっては、県学校保健会の組織を活用し、県内各学校に対して学校保健推進計画に基づいた取組推進への共通理解を図るとともに、今後も毎年度の取組状況について調査を実施し、取組の評価改善を行う。
- ・県学校保健会支部での取組状況を集約し、適宜各支部に情報提供することで、各支部、各学校の健康教育の活性化を推進する。

【アレルギーについて】

- ・今後も食物アレルギー事故防止の徹底にあたっては、ヒヤリ・ハット事例についての状況や問題となった原因等について検証を行い、改善方法を検討しながら、教職員全体で共有していくよう周知していく。
- ・教職員が正しい知識をもち、情報共有を図っていくためには、アレルギー研修会の継続と充実が重要である。誤食事故についての報告様式や方法を検討し、詳細に報告されるようにして実態把握に努める。その実態をもとに、アレルギー研修会では、実際の誤食事例等を基にした内容を積極的に入れるなどして、内容の充実を図る。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全員で13名

(構成員) 県医師会会長、県医師会副会長、県歯科医師会代表、県学校薬剤師会会長、
 県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長協会代表、県学校保健会事務局長
 県教育委員会

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input checked="" type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

- ・児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の活用

③ 地域検討委員会等の設置

ア 学校における食物アレルギー対応支援チーム会議 19名

専門医(小児科)、学校歯科医、学校薬剤師、関係課(消防課・健康課)代表、教育事務所指導主事
 養護教諭代表(小・中・高・特)、栄養教諭代表(単独校・共同調理場)、県教育委員会

イ 児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の活用支援チーム会議 8名

専門医(小児科)、県医師会代表、養護教諭代表(小・中)、富山市教育委員会、県教育委員会

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

ア 学校における食物アレルギー対応

- ・県内全ての学校や共同調理場に食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例について県教育委員会に報告を求めている。それらについて支援チーム会議で検証し、学校等における食物アレルギーによる救急搬送の情報共有や改善策を検討した。事例報告やヒヤリハット一覧は、次年度の主幹課長会議や養護教諭研修会、栄養教諭や学校栄養職員の研修会で報告し、事故の防止につなげている。

- ・「学校における食物アレルギー対策基本方針」(マニュアル等)を策定・見直しを進めている自治体(市町村)に事業の支援を行った。今年度は1市(滑川市)で実施した。

○連絡協議会

○講演・演習「学校における食物アレルギー対応について」

- ・アナフィラキシーについて・緊急時の対応(エピペンの使い方を含む)について
- ・学校における給食対応について

講師 おのうえこどもクリニック 院長 尾上 洋一 氏

イ 児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の活用

- ・全小・中学校を対象に健康診断の実施後、平成 28 年度末に県で作成した『子供の健康管理プログラム』を利用した成長曲線・肥満度曲線の活用状況及び事後措置について調査を実施した。調査結果から、異常群の該当率、受診率等や活用に際しての改善点等が明らかになった。
- ・調査結果をもとに支援チーム会議で協議し、今年度の健康診断を終えて見えてきた課題の把握、情報共有と改善策を検討した。

<事業実施日程>

実施時期	実施内容	備考
5月	第1回学校保健総合支援事業連絡協議会（事業計画の検討）	出席者 13名
6月	学校における食物アレルギー対策支援事業（滑川市） 連絡協議会・講演会	出席者 23名
11月	学校における食物アレルギー支援チーム会議（学校関係者）	出席者 8名
11月	児童生徒の成長曲線等の活用支援チーム会議（学校関係者）	出席者 8名
12月	学校における食物アレルギー支援チーム会議（委員）	出席者 16名
12月	児童生徒の成長曲線等の活用支援チーム会議（委員）	出席者 7名
2月	第2回学校保健総合支援事業連絡協議会（事業成果の検証）	出席者 13名

2. 事業の達成度について

ア 学校における食物アレルギー対応

- ・毎年、支援チーム会議で当年度に起こったアレルギー事故の検証や市町村のマニュアルの作成や見直し等の支援を行うことで、市町村や学校での対応のばらつきは縮小傾向にある。
- ・万が一の事故に備え、関係機関との連携を図っている。保護者の了承のもと、県や市町村の教育委員会が中心となり、消防機関へ情報を提供している。今後も県、市町村単位での連携を継続することを確認した。
- ・放課後児童クラブ（学童保育）においても弁当やおやつを摂食するため、指導員は食物アレルギーやエビペンについて理解しておく必要がある。そのため、指導員が対応できるよう研修会を開催している。毎年、200名程度が受講し、有事に備えて対応できるようにしている。

イ 児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の活用

- ・調査結果から、富山県内の小学生・中学生の異常群の該当率、受診率等や活用に際しての改善点等が明らかになった。県の対応指針の基準は現行のままとしたが、受診勧奨については、令和元年度の県主催の養護教諭研修会や本県で作成している学校保健・学校安全の手引に掲載し、周知を図った。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

ア 学校における食物アレルギー対応について

- ・食物アレルギーを有する児童生徒は、年々増えている。全ての学校において対応が必要であると捉え、どの学校においても対応指針に沿った対応ができるよう、研修会等の機会を通して繰り返し普及啓発を実施していく必要がある。
- ・各市町村教育委員会が学校における食物アレルギー対応において一定の方針を示し、どの学校においても食物アレルギー対応が統一されるよう、また、広域的な対応が必要な消防機関との連携等において今後も市町村教育委員会を支援していく必要がある。

イ 児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の活用について

- ・事後措置の在り方等については、養護教諭からの意見をもとに、支援チーム会議で改善策を検討し、養護教諭研修会を通して周知を図っている。児童生徒の成長曲線・肥満度曲線の必要性について今後も学校に周知し、学校医や医療機関と連携を図っていくことが大切である。

令和元年度

学校保健総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

石川県

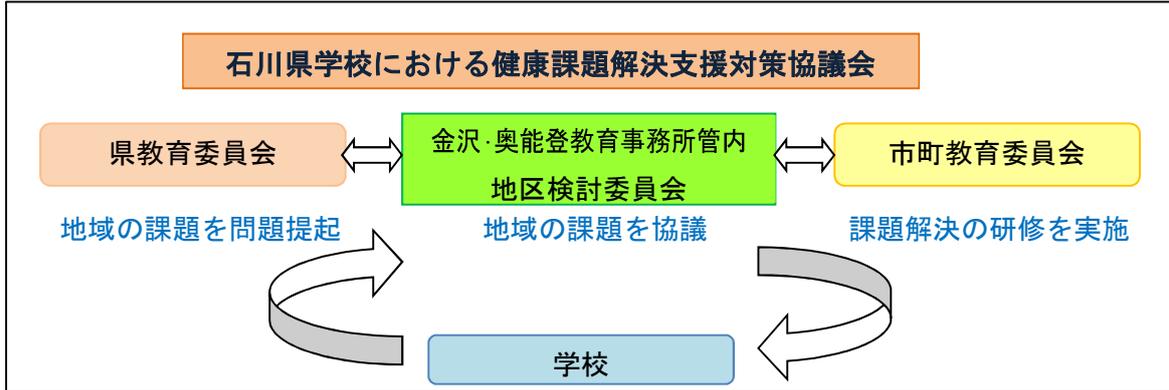
(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全体で17人

(内訳：アレルギー専門医2人、小児科医1人、消防2人、校長2人、養護教諭1人、栄養教諭1人、市町教育委員会2人、教育事務所指導主事2人、県教育委員会4人)



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※	<input type="checkbox"/>		

③ 地域検討委員会等の設置

【食物アレルギー】

○金沢市地区（金沢市立中村町小学校）…全体で9人

(内訳：アレルギー専門医1人、金沢市消防局1人、校長1人、教諭1人、養護教諭1人、金沢市教育委員会1人、金沢教育事務所指導主事1人、事務局2人)

○珠洲市地区（珠洲市立緑丘中学校）…全体で9人

(内訳：アレルギー専門医1人、珠洲消防署1人、校長1人、養護教諭1人、栄養教諭1人、珠洲市教育委員会1人、奥能登教育事務所指導主事1人、県教育委員会2人)

【地域健康課題】

○津幡町…全体で14人

(内訳：校長1人、教頭1人、養護教諭11人、県教育委員会1人)

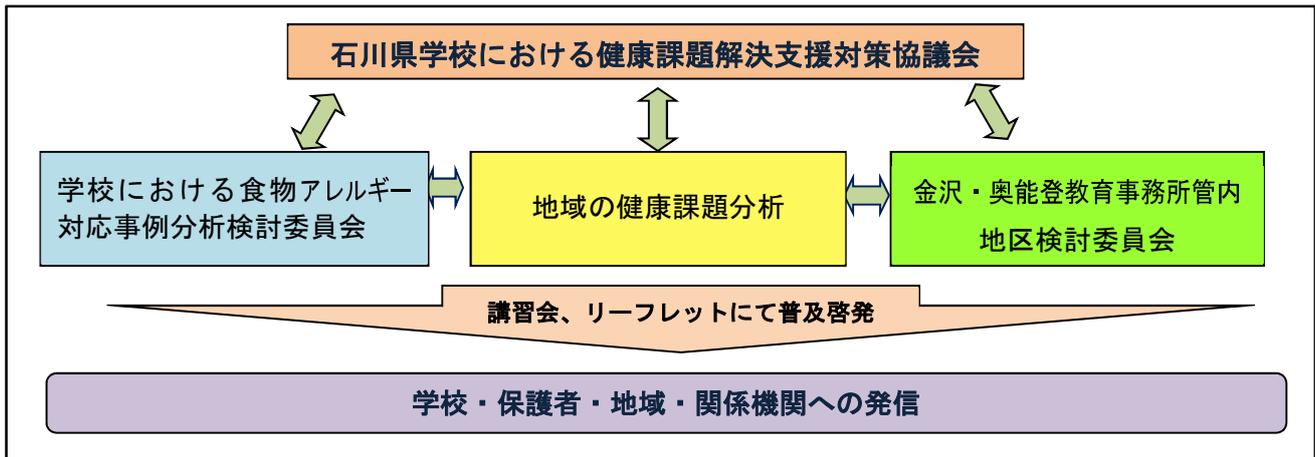
④ 当初の課題解決計画と実際の実行内容

【食物アレルギー】

『学校におけるアレルギー対応指針-石川県版-(H27)』に基づき、事故防止の取組は行っているものの、軽微なヒヤリハットや救急搬送される事例が報告されている。『学校における食物アレルギー対応ヒヤリハット事例集 (H28)』の活用を図り、さらに、各学校での研修を充実させ、アレルギーへの対応力を高めるため、『学校に

おける食物アレルギー対応校内研修事例集(H29)』を活用し、金沢地区(金沢市)・奥能登地区(珠州市)にて校内研修を実施し、地域の学校に公開した。

また、過去4年間に学校より報告のあった食物アレルギー対応事例について、「データ分析検討委員会」で事例検証を行ったところ、発生原因の半数が誤食であったことから、リーフレット「誤食を防ぐルーティンづくり」を作成し、教職員の未然防止意識の向上と日常的な対応の基本的行動について共有を図った。



【地域健康課題】

児童生徒の健康課題は多様化しており、地域によって異なる。今回は、津幡町を指定地域とし、津幡町児童生徒の健康課題である「歯科保健」について課題の分析を行い、実情に応じた対策のため学校歯科医や専門医を派遣し、地域の保健活動の充実を図った。

実施時期	実施内容	備考
7月25日	食物アレルギー対応地区検討委員会打ち合わせ(金沢市立中村町小)	出席者3名
7月26日	食物アレルギー対応地区検討委員会打ち合わせ(珠州市立緑丘中)	出席者4名
7月27日	地域健康課題解決支援連絡会	出席者12名
8月26日	食物アレルギー対応校内研修会・地区検討委員会(珠州市立緑丘中)	出席者22名
8月27日	食物アレルギー対応校内研修会・地区検討委員会(金沢市立中村町小)	出席者25名
9月13日	第1回協議会(課題解決に向けた計画の検討)	出席者15名
10月3日	食物アレルギー対応公開校内研修会(金沢市)	出席者75名

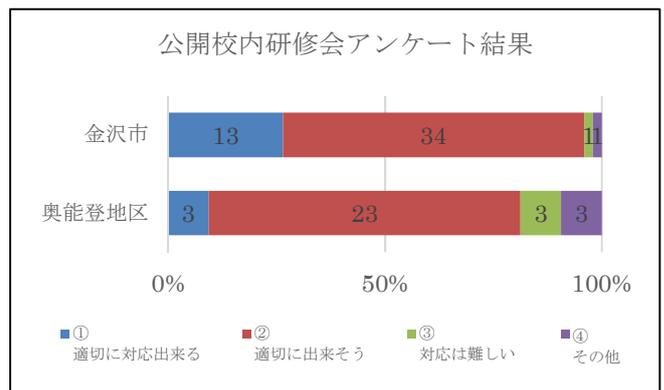
10月3日	食物アレルギー対応地区検討委員会(金沢市)	出席者6名
10月4日	食物アレルギー対応公開校内研修会(奥能登地区)	出席者50名
10月4日	食物アレルギー対応地区検討委員会(奥能登地区)	出席者7名
10月29日	地域健康課題解決支援連絡会	出席者14名
11月29日	食物アレルギー対応事例報告データ分析検討委員会	出席者5名
12月9日	食物アレルギー対応事例報告データ分析検討委員会	出席者3名
12月18日	食物アレルギー対応事例報告データ分析検討委員会	出席者3名
1月21日	地域健康課題解決支援連絡会	出席者14名
1月23日	地域健康課題解決支援対策連絡会(津幡町地域学校保健委員会)	出席者66名
1月31日	第2回協議会(課題解決に向けた取組報告)	出席者17名
2月	食物アレルギー対応リーフレット発行	

2. 事業の達成度について

【食物アレルギー】

各学校での校内研修の活性化を図るため公開校内研修会を開催した。今後のアレルギー対応について、右図のとおり約92%が適切に対応できると回答している。専門医による講演も習得すべき知識と技術がわかりやすかったと好評を得た。また、実際に学校でどのように研修できるかを示したことで自校でも取り入れたいとの感想を多く得ている。

さらに、過去4年間に報告のあった食物アレルギー対応事例についてデータ分析を行った。その結果から、誤食を防ぐための教職員用リーフレットを作成し、全教職員に配布することができた。



【地域健康課題】

津幡町における地域課題解決支援では、既存の町学校保健部会を主体とした会議を活用することで、負担感の軽減を図りながら取り組むことができた。歯科保健について専門医による講演や地域学校保健委員会を開催し、地域の幼・保・小・中・高が連携し協議することができた。また、専門医から説得力のあるアドバイスを受け、今後の課題に気が付くことができたとの感想を得ている。

3. 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

今年度、2地区で公開校内研修会を開催したことにより、県内全ての地区で研修会を開催することができた。今後は、今までに発刊した対応指針や事例集、指導用教材DVD、リーフレットを普及・活用し、各学校において、安全・安心な食物アレルギー対応ができるよう課題解決を図っていきたい。

また、今後も各地区の健康課題に応じた解決に向け、新たな健康課題の洗い出し及び分析を行う必要がある。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全体で16人

医師3人(県医師会理事・がん専門医)(歯科医)
(眼科医)

薬剤師1人(県薬剤師会学校薬剤師副会長)

PTA1人(福井県PTA連合会)

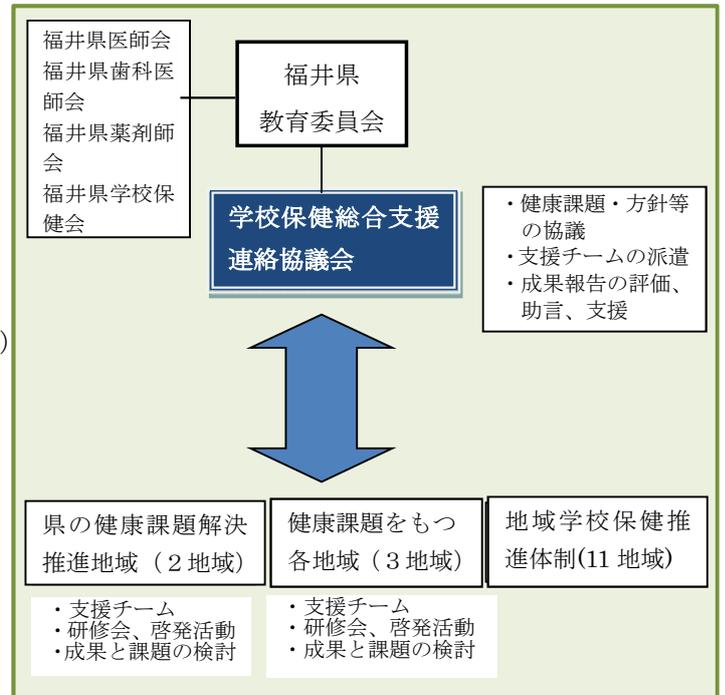
小・中・高等学校校長3人

養護教諭1人、県健康福祉部2人

市町教育委員会学校保健担当者2人

県教委3人(保健体育課長、GL主任、養護教諭主任)

- ※ 医師は県医師会、県歯科医師会
- 県薬剤師会より推薦、校長3人は
- 県小教研・中教研・高教研の保健安全部会長
- 養護教諭は県養護教諭研究会会長



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input checked="" type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣病	<input type="checkbox"/> がん
<input checked="" type="checkbox"/> 喫煙・飲酒・薬物	<input checked="" type="checkbox"/> その他※		

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

- ・命の大切さ
- ・睡眠マネジメントと生活習慣の改善について
- ・リハビリテーション科と学校現場との連携

③ 地域検討委員会等の設置

○地域名：越前市

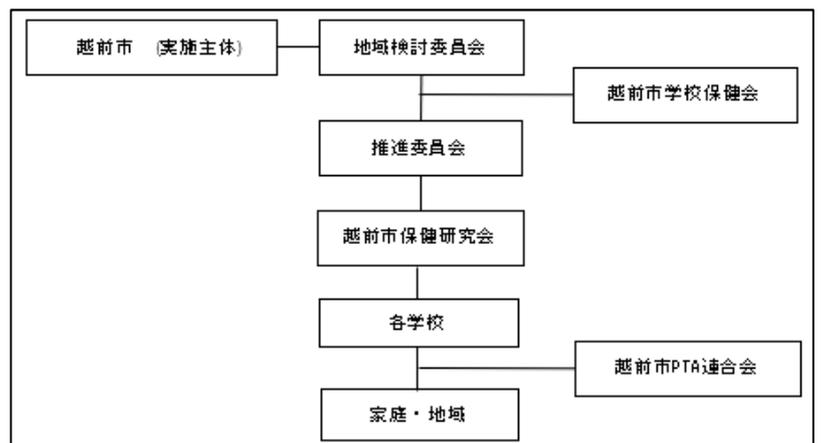
「地域検討委員会」全体で19人

学校眼科医1名、保護者代表1名

保育園代表1名、保健師1名

校長2名、養護教諭7名、保健主事2名

市教委2名

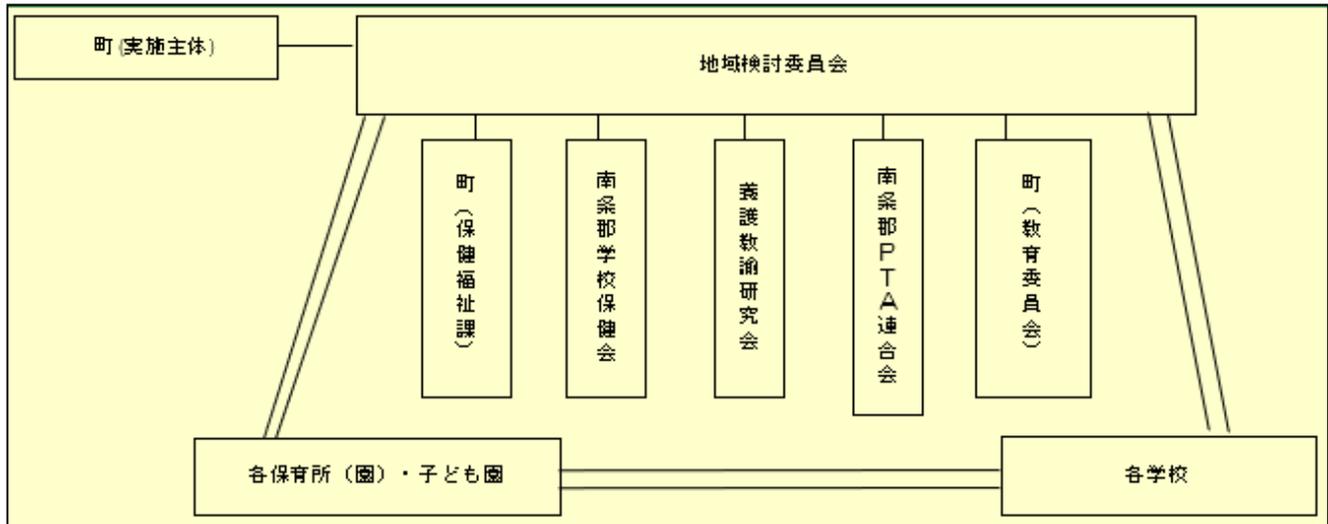


○地域名：南越前町

「地域検討委員会」 全体で 15 名

- ・ 学校保健会歯科医部長（歯科医師）
- ・ 南条郡 P T A 連合会会長
- ・ 南越前町保健福祉課（保健師）
- ・ 子ども園の代表
- ・ 養護教諭研究会部会長
- ・ 小中学校養護教諭（7名）
- ・ 町教育委員会（学校教育係次長・学校保健担当職員）
- ・ 体育指導主事（南越地方教育委員会連絡協議会指導主事）

合計 15 名



④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

【本県の課題解決計画】

○本県の健康課題（目と歯の健康）に対する推進地域（越前市・南越前町）を指定するとともに、推進地域の取組を啓発する研修会を開催し、各地域への波及効果を目指す。

【越前市の取組内容（目の健康）】

実施月日	実施事項
7月11日	<p>◆第1回地域検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画（取組内容）の検討 ・ 「目の健康」についての課題の把握 <p>【学校医1人、保護者代表1人、保育園代表1人、保健師1人、校長2人、養護教諭7人、保健主事2人、市教委4人 計19人】</p>
7月25日	<p>◆保健主事・養護教諭合同研究協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演 「子どもの目、主として近視等について」 講師：奥村眼科医院 眼科医 奥村 忠 氏 ・ 「目の健康」に関する情報交換会 <p>【校長2人、保健師1人、保育園関係者2人、認定こども園関係者3人、幼稚園教諭1人、保健主事24人、養護教諭24人、市教委2人 計59人】</p>
8月29日	<p>◆第1回推進委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「目の健康を守る3か条」ポスター内容等の検討 <p>【養護教諭8人、市教委1人 計9人】</p>
9月17日	<p>◆「目の健康を守る3か条」ポスター送付</p> <p>【小中学校・幼稚園・保育園・認定こども園・適応指導教室・図書館・健康増進課・子ども福祉課】</p>

11月1日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2回推進委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・地域別研修会の進め方について検討 ・事業実施報告のまとめ方について検討 <p>【養護教諭8人、市教委2人 計10人】</p>
11月7日	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域別研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・講演 「最近気になる子供の眼の健康」 講師：平井眼科内科クリニック 眼科医 平井 玲子 氏 ・情報交換会 市の健康課題について（保健師より） 今年度の目の健康についての実践紹介（養護教諭より） <p>【校長1人、保健師1人、養護教諭24人、市教委1人 計27人】</p> 
12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3回推進委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回地域検討委員会への事業実施報告内容の検討 <p>【養護教諭8人、市教委2人 計10人】</p>
1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2回地域検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施報告（取組内容、成果と課題） <p>【学校医1人、保護者代表1人、保育園代表1人、保健師1人、校長2人、養護教諭7人、保健主事2人、市教委4人 計19人】</p>

【越前市の取組内容（目の健康）】

実施月日	実施事項
委員会・検討委員会での取組	
6月11日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第1回委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画（取組内容）の事前検討 ・各校での活動内容検討、講演内容検討 <p>【養護教諭7名・教育委員会1名 計8名】</p>
6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第1回地域検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画（取組内容）の検討 ・各機関への協力依頼 <p>【地域検討委員会委員 計15名】</p>
7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2回委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・各校での取組 ・地域講演会、座談会の進め方 <p>スケジュール、役割分担、参加者の把握 【養護教諭7名・体育指導主事1名・教育委員会1名 計9名】</p>
8月2日	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3回委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・学校での取組の進捗 ・地域講演会、座談会準備 <p>タイムスケジュール、会場レイアウト 【養護教諭7名・教育委員会1名 計8名】</p>
8月3日	<ul style="list-style-type: none"> ◆むし歯のない子表彰 ◆地域講演会「はっ！と驚く 初耳学 ～子どもの元気な笑顔のために～」 講師：福井県歯科医師会学校保健部理事 高橋均歯科医師 ◆座談会 「はっ！と気がつく、令和を生きる子どもの〇〇」 <p>【教職員・保護者等 計53名】</p> 

9月26日	◆第4回委員会 ・むし歯のない子表彰、地域講演会、座談会まとめ ・各校の取組状況 ・事業報告案の作成 【養護教諭7名・教育委員会1名 計8名】
11月19日	◆第5回委員会 ・各学校での取組の進捗 ・事業報告案の作成 【養護教諭7名・教育委員会1名 計8名】
1月16日	◆第2回地域検討委員会 ・事業報告 ・次年度に向けた課題について 【地域検討委員会委員 計15名】
各学校での取組	
6月～7月	・歯の保健指導（栄養教諭、学校歯科医との連携） ・はあとふる新聞リレー（中学校で作成した保健新聞を小学校において展開） ・保育所訪問（劇「むし歯菌 対 ハブラシマン」） ・歯の健康集会（自由参観日に保護者も交えた集会を実施）
10月～12月	・子ども園訪問（歯に関する紙芝居、絵本の読み聞かせを実施） ・保育園訪問（歯に関するおもちゃ作り） ・歯の保健指導（歯みがき名人、噛む力、グループトーク） ・親子歯みがき教室（染出し、仕上げ磨きについて保護者会にて実施）

【地区別研修会の取組】

- 各地域の様々な健康課題に対して、児童生徒の発達段階に応じた効果的な指導を行うために、養護教諭としての資質向上と力量形成等、養護教諭に求められる力を養うことを目的とする。

（地域学校保健推進リーダー研修会）

	団体名	専門医等	実施日 時間	内容	対象者
1	第1回 研修会	県薬剤師会 学校薬剤師部会副会長	7月4日 14:00～15:00	学校薬剤師と養護教諭との 連携について	リーダー研修者
		県教育総合研究所長	7月4日 15:10～16:10	研修の企画・運営	リーダー研修者
2	第2回 研修会	金沢学院大学助教	11月14日 13:30～15:30	児童虐待に対する学校の対 応について	リーダー研修者
3	第3回 研修会	県立学校養護教諭	12月13日 13:40～16:40	学校保健マネジメントの向上 をめざして	リーダー研修者

（リーダー地区別研修会）

	団体名 (会場)	専門医等 (診療科)	実施日 時間	内容	対象者
1	福井市 (至民中学校)	広島国際大学教授 (睡眠学)	12月3日(火) 13:50～15:40	睡眠マネジメント(睡眠授業) を中心とした生活習慣の改 善について	養護教諭、保健 主事、教職員、 全校生徒
2	永平寺町 (上志比小学校)	福井大学臨床心理士 (臨床心理)	11月1日(金) 15:00～16:30	子どもの育ちと親子関係	養護教諭、保健 主事、教職員
3	大野市 (結とびあ)	がん体験者 (命の教育)	11月20日(水) 15:00～16:30	命の大切さ ～ありのまま生きる～	養護教諭、保健 主事

4	勝山市 (勝山市福祉健康センター「すこやか」)	福井勝山総合病院医師 (小児科)	11月22日(金) 15:00~16:45	学校における食物アレルギーの緊急時対応について	養護教諭、保健主事、市内こども園、幼稚園教諭、勝山市保健師、勝山消防署
5	あわら市・坂井市 (三国南小学校)	国立あわら病院医師 (小児科)	10月10日(木) 15:00~16:30	神経発達障害と薬物治療について	養護教諭
6	鯖江市 (文化の館)	鯖江市齋藤病院医師 (小児科)	11月11日(月) 13:30~15:00	養護教諭が行うフィジカルアセスメントを事例から考える	養護教諭
7	丹生郡 (越前町生涯学習センター)	みどりヶ丘病院医師 (児童精神科医)	11月12日(火) 14:30~16:30	児童・思春期のこころの問題を考える	養護教諭
8	越前市・池田町 (越前市福祉健康センター)	平井眼科内科眼科医 (眼科)	11月7日(木) 14:00~16:00	児童生徒の目の健康を守るために	養護教諭、市保健師
9	南越前町 (今庄住民センター)	県歯科医師会理事 (歯科医)	8月3日(土) 10:00~11:30	口・口腔の健康 ～子どもの元気な笑顔のために～	養護教諭、保健主事、教職員、保護者
10	敦賀市・美浜町 (粟野公民館)	市立敦賀病院医師 (消化器外科)	11月12日(火) 16:00~17:30	生活習慣に起因する疾病とその予防について	養護教諭
11	小浜市・高浜町・おおい町・若狭町 (嶺南教育事務所)	公立小浜病院作業療法士 (リハビリテーション科)	11月28日(木) 15:00~16:30	医療機関との連携を考える ～リハビリテーション科について理解し、学校現場に活かそうII～	養護教諭、教職員

【専門医研修会の取組】

○喫緊の健康課題をもつ地域に専門医等を派遣し、研修会、講習会等を開催し課題解決のための支援体制の強化を図る。(県内3地域に専門医を派遣：若狭町養護教諭部会、大野市開成校区研究会、県高教研保健部会特別支援ブロック会)

(3地域)の取組内容

実施月日	実施事項
8月9日	1「吃音の理解・啓発」(福井県高教研保健部会 特別支援ブロック会) 福井県特別支援教育センター所長より、以下の内容について学んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・吃音の正しい知識の習得 ・当事者の保護者の心情の理解 ・吃音の早期支援の重要性と理解・啓発 【参加人数：養護教諭 14名、教諭 6名、県教委1名 計21名】
8月23日	2「よい姿勢と体のバランスをよくするために」(大野市開成校区研究会) 子どもたちへの姿勢指導のポイントやエクササイズ、正しい姿勢の在り方について、エゴスキュージャパン協会トレーナーより学んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・エゴスキューとは ・エゴスキューメソッドの基本概念 ・エクササイズメニュー 【参加人数：保護者2名、教職員15名 計17名】
8月27日	3「心電図検診と心臓疾患について」(若狭町養護教諭部会) 福井循環器病院医師により、以下の内容について学んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校心臓検診について、心電図検査から分かること ・心電図検診の必要性、検査を受けるとよい年齢について ・小児循環分野で取り扱われる疾患、運動制限等、学校での対応について 【参加人数：管理職1名、養護教諭12人 県教委1名 計14名】



2. 事業の達成度について

○課題解決支援事業について

(参観者アンケートより)

①健康課題を抱える各地域での研修会（県内3地域）について

- ・「教職員や保護者、関係機関が共通理解を深め、地域の各学校において見通しを持った取組につながった」との報告があった。
- ・専門的な立場から、吃音の具体例を多く提示していただいたことで、参観者から「吃音について正しい知識を得ることができた」という声や、吃音には個人差があることから、一人一人の向き合い方について今後の参考になったという声があった。
- ・循環器病院から心臓の専門医の話聞く機会を設けてもらったことで、普段なかなか聞くことができない心電図の読み取りや運動制限等、突然死等について専門的な話を聞くことができた。

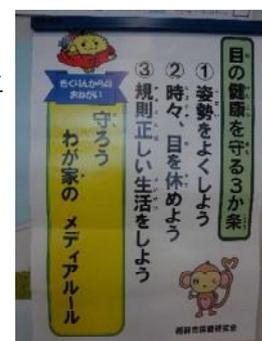
②推進地域2地域の取組について

- ・成果と課題を検証し、今後の取組について専門家より指導助言をいただいた。
- ・推進地域を設定したことで、学校、家庭、地域の関係機関等が健康課題について関心を高め、解決のための意識化、保健指導の充実、取組の工夫の情報共有化、保幼小・保護者との連携強化等が図られ、解決に向けて高い意識で取り組む姿勢が見られた。

越前市

【目の健康に関する取組】

- ・市内の小中学校、幼稚園、保育園、認定こども園、健康増進課、家庭が目の健康に関する課題や情報を共有することができ、連携を深めることができた。
- ・「目の健康を守る3か条」ポスターを作成し、学校や図書館、市役所などに掲示することで、目の健康に対する意識を高めることができた。
- ・中学校区内の小中学校が連携してメディアコントロールデーに取り組んだことで、家庭からの協力が得やすくなり、効果的な実践につながった。



南越前町

【歯の健康に関する取組】

- ・地域講演会を開催することで、新たな視点から口腔内の健康について理解を深めるきっかけを作ることができた。
- ・地域講演会では、幅広い関係者が参加することで、広い範囲で情報の共有ができ意識の向上に繋がった。
- ・学校での取組では、児童生徒が自らの歯の健康について考え、異学年交流や保育所（園）・子ども園への訪問を通じて、歯の健康の重要性を理解することができた。
- ・推進地域の取組については、2月の福井県健康教育指導者研修会において周知した。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・健康課題の把握とその対応について、学校・家庭・地域・関係機関が連携し、計画・実践につなげていくことができるか。
 - 今後は、教育振興基本計画に掲げている「学校保健委員会の活用」や「学校・家庭・地域の専門機関等の連携の仕組みの構築」による課題解決に向けた取組の充実。
 - 県で作成した学校保健総合支援事業実践集に掲載されている各地域の専門医による研修会を参考にし、今後の各地域の研修会等の計画・実践につなげる。
- ・幼稚園・こども園・保育園等と連携した低年齢からの取組の必要性。
 - 学校保健総合支援事業の経験を生かして、保護者への啓発を含む早い段階からの取組を行う計画を立てる。
- ・学校保健の中核となる養護教諭自身のさらなる専門的な知見の習得や資質向上等。
 - 福井県教員育成指標の求められるステージと資質・能力の確認。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全体で10名

(内訳：学校医代表、学校歯科医代表、学校薬剤師代表、保護者代表、養護教諭代表、保健主事代表、県健康増進課長、スポーツ健康課長、学校保健技師、学校体育担当指導主事)

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

山梨県学校保健総合支援事業 協議会 事業の検討・課題解決計画の協議・評価

I 子供の生活習慣改善検討会

大学教授、大学関係者、養護教諭代表

- * 教職員・保護者・地域保健関係者への啓発活動の推進 (学習会開催支援)
- * 地域を中心に子どもの健康課題分析の調査実施 (ワーキングチーム会議2回)

II アレルギー疾患対応検討会

医師、養護教諭代表、消防関係者

- * 学校における対応の全県調査と課題解決の支援
- * 食物アレルギー対応支援体制の確立に向けて

教職員・保護者・地域学校保健関係者を対象に学習会や事例検討会の開催

III 子どもの心の健康づくり検討会

臨床発達心理士(発達障害児者地域支援コーディネーター)、養護教諭代表

- * 各種研修会の在り方検討
- * 教職員・保護者・地域学校保健関係者を対象に学習会や事例検討研修会の開催
- * 養護教諭等学校保健関係者対象の研修会開催支援
- * しなやかな心の育成シンポジウム開催支援

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

協議会

- 第1回 令和元年6月27日 山梨県学校保健課題の検討と解決に向けた計画の検討
第2回 令和2年2月13日 山梨県課題解決支援事業報告と評価、学校保健推進基本計画の評価

I 子供の生活習慣改善検討会

【課題】

- 肥満傾向児童生徒の出現率は、全国平均を上回っており肥満傾向児童生徒のうちほぼ半数は、軽度肥満であるが、高度肥満の割合は、年齢とともに増加している。小中学校では、地域差がある。
○う歯の被患率は減少しているが、全国平均を上回っており、さらなる取組が必要である。

【取組】

○検討会会議

開催月日	協議内容
8月9日	第1回 ・今年度の取組目標の設定 ・実態把握（調査の実施）について

○ワーキングチーム会議

8月9日	第1回 調査項目の検討・作成

○研修会開催支援

日時	団体	講師	演題
8月9日	都留市教育協議会 保健研究会学習会	岡山大学大学院 芳我ちより 先生	平成30年度体格推移調査の結果と 今後の取組について

II アレルギー疾患対策検討会

【課題】

- アレルギー疾患の有病率は高率で、特に食物アレルギーにより学校で特定の食材を除去している児童生徒は、依然として多く、その対応については、校種による特徴がみられる。学校での対応の充実が不可欠である。

【取組】

○検討会会議

開催月日	協議内容
7月26日	第1回 ・今年度の目標の設定 ・研修会内容について ・実態把握について

○研修会開催支援

日時	団体	講師	演題
11月29日	学校保健ステップ アップ事業 地域事例検討研修会 (南アルプス市)	山梨厚生病院 小児科部長 池田 久剛 先生	講義・演習 保育所・小・中学校の対応について 現状と課題の情報を共有する

Ⅲ 子供の心の健康づくり検討会

【課題】

○「心の健康」についての課題を見立てる力の育成と、支援体制づくりの充実をはかる必要がある。

【取組】

○検討会会議

開催月日	協議内容
7月31日	第1回検討会 ・子どもの心の健康状況と課題について協議 ・学校保健ステップアップ事業、事例検討研修会の開催に向けて ・子どもの心の健康づくりフォーラム支援に向けて

○研修会開催支援

派遣月日	派遣先・参加者	学習会内容	派遣委員
11月1日	事例検討研修会①	【演習】 事例を通して考える 子供の課題の見立てと養護教諭の 役割について	大塚直美 先生 芦沢令子 先生
12月12日	学校保健ステップ アップ事業 地域事例検討研修 会（峡南地区）	【演習】 事例を通して考える 子どもの課題の見立てと養護教諭 の役割について	三尾 馨先生、 有野久美 先生
1月29日	事例検討研修会②	【演習】 事例を通して考える 子どもの課題の見立てと養護教諭 の役割について	芦沢令子 先生

12月13日	テーマ「人と人との関わりを考える ～自己理解について～」 講義：「子どもの心と脳の育ちについて」 相原 正男先生（山梨大学大学院教授） フォーラム シンポニスト：大学教授、臨床発達心理士、小学校教頭、中学校養護教諭
--------	---

2. 事業の達成度について

I 子供の生活習慣改善検討会

① 専門家派遣の評価

評価項目	はい
今回の研修会等で得た知識を子どもたちのために役立てることができるか	1件（100%）
各学校と保護者との連携を深めることができたか	1件（100%）
各学校と医療機関、関係機関との連携を深めることができたか	1件（100%）
生活改善が必要な子どもへの指導の手がかりが見つけられたか	1件（100%）

② 各派遣による学習会開催の成果

- ・地域ごとの課題に特化した研修は、具体的な指導のポイントや留意点について、今後の個別指導・集団指導での手がかりを確認することができた。
- ・町福祉保健部、町教育委員会の参加により、子どもの健康課題が成人の健康課題にもつながっているという意見交換ができることは効果的である。
- ・関係機関と合同で学習会を行うことで、それぞれの役割の確認をすることができた。

③ 今後取り組みを進めるために必要なこと

- ・地域に応じた課題解決に向けて、研修の機会を続けて設けていく。
- ・課題を明確にし、具体的な役割分担を含めた体制づくりを行い、県全体の指導に役立てていく。

II アレルギー疾患対策検討会

① 専門家派遣の評価

評価項目	はい
今回の研修会等で得た知識を子どもたちのために役立てることができるか	1件（100%）
各学校と保護者との連携を深めることができたか	1件（100%）
各学校と医療機関、関係機関との連携を深めることができたか	1件（100%）
アレルギーを持つ子どもへの指導の手がかりが見つけられたか	1件（100%）

② 各派遣による学習会開催の成果

- ・地域によって対応が違うので、年齢、校種、地域それぞれの情報交換の意味で有意義な研修である。事例を通じたの演習は、具体的な課題や対応を考えることや、危機感を持つことができるので貴重な機会である。
- ・市の教育委員会が主になり、運営してくださったことで、保育園の先生方との合同研修会が開催できた。

③ 今後取り組みを進めるために必要なこと

- ・校内対応体制の充実（校内緊急対応訓練・緊急時指示カードの活用）
- ・地域での医療機関、消防機関との連携体制づくり
- ・発症症例の分析による対策検討

Ⅲ 子供の心の健康づくり検討会

① 専門家派遣の評価

評価項目	はい
今回の研修会等で得た知識を子どもたちのために役立てることができるか	1件（100%）
各学校と保護者との連携を深めることができたか	1件（100%）
各学校と医療機関、関係機関との連携を深めることができたか	1件（100%）
子どもの心の健康づくりの指導の手がかりが見つけられたか	1件（100%）

② 研修会開催の成果

- ・ 事例を通して演習を行うことで、自らが考え、見立て、対応についての協議を行うことで、自らの判断根拠を見直す貴重な機会となった。
- ・ 課題を見立てることに重点を置いて研修を進めることで、養護教諭の資質向上につながる効果的な研修である。

③ 今後取り組みを進めるために必要なこと

- ・ 継続的な事例検討の研修会開催
- ・ 事例の精選、研修の趣旨説明
- ・ 地域関係者（福祉等）との定期的な情報交換と協議の場の設定

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 地域へ専門家を派遣することにより、身近でより具体的な解決方法を模索したり、課題について議論したりできるのは、各自が自分事として捉えることが出来るので、効果的である。今後は、構築した関係者との連携体制を生かし、多様化する課題に対応していく必要がある。
- ・ 重点的に取り組んだ地域の成果を県全体に波及させるための手立てを進めていく必要がある。
- ・ 学校保健総合支援事業の終了にともない、県の事業も見直す中で事業の成果を継続させていくてだてを考える必要がある。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

【学校における現代的な健康課題検討委員会】

学校保健課題解決支援協議会として、設置要項に基づき設置。

全 16 名

県医師会学校医会代表 (1) (精神科)、SSW (1)、

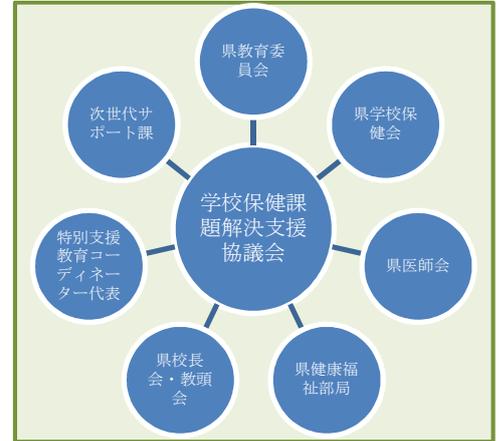
県健康福祉部・保健疾病対策課 (1)

県県民文化部次世代サポート課 (1)、県教育委事務局 (5)

中学校校長代表 (1) 小学校教頭代表 (1)

特別支援教育コーディネーター代表 (1)、

養護教諭代表 (小1、中1、高1、特1)



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

<活動内容>

- ・ 県教育委員会は地域の実情を踏まえ、学校保健の課題解決を図るための「課題解決計画」を作成。
- ・ 「学校における現代的な健康課題検討委員会」において健康課題への対応について検討し取り組みを実施。
- ・ 課題解決の重点地域に設置された「地域検討委員会」を設置し課題解決のための研修会等を支援。
- ・ 健康課題に対応する全県研修会を実施。
- ・ 協議会からの提言をまとめ、地域内の市町村教育委員会及び学校等に広く周知し事業成果の普及に努める。

<地域協議会（研修会）への支援>

○須高等学校保健会 心のケア検討会

参加者：須坂市教育委員会（学校教育課指導主事・子ども課指導主事・家庭児童相談員）、須坂市健康づくり課（保健師）、小布施町健康福祉課（保健師）、高山村村民生活課（保健師）、須高等学校保健会（保健主事部会・養護教諭部会世話係校長）、上高井郡内小・中・高・須坂支援学校養護教諭

助言者：須高地区精神科医師 2名

ねらい：現代的な健康課題を解決していくためには、学校・保護者・地域が連携し、発達段階に応じて継続的な支援を行っていくことが重要である。事例の検討を通じて、学校だけでは対応困難な事案にどのように

対応・連携することができるかを関係機関と協議し、それぞれの立場に応じた役割分担の確認と対応を学ぶ機会とする。事例検討の際には、専門的見地から、精神疾患や発達障害、心のケアなどについて専門医よりアドバイスを受け、問題の未然防止、初期対応、児童生徒の自立に向けた適切な支援、自校の支援体制に生かしていく。

○東信地区高等学校 学校保健課題検討委員会

参加者：東信地区高等学校保健主事部会・養護教諭部会の世話係校長、東信地区高等学校保健主事・養護教諭
講師：救急救命センター医師 1名

ねらい：災害が起きた際に学校（避難所含む）における緊急対応の場面で、医療チームによるトリアージの方法や、医療チームにつなげるアセスメント方法など、実際の救急体制について学ぶことを通して、学校での災害時に適切な対応ができるためのリスクマネジメントと、災害時のアセスメント等について見直す。

④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

現在の児童生徒には、発達障害、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題、さらには ICT 教育が進んでいる現代社会で、ネット依存症や視力低下など、多様な課題が生じている。また、身体的な不調の背景に、いじめ、児童虐待、不登校、貧困などの問題が関わっていることもある。

このような多様化・複雑化する児童生徒が抱える現代的な健康課題については、専門的な視点での対応が必要であり、養護教諭が専門性を生かしコーディネーター的な役割を果たすことが期待される。さらに、これらの健康課題に対応する取組は、学校における教育活動全体を通じて行うことが必要であり、学校のすべての教職員が連携して取り組むことが重要である。

児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るためには、規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、日常的に起こる健康課題やストレスに対して適切な対処ができる力や、自分自身を大切にすること、物事を様々な角度から慎重に考え判断すること、目標を決めて実現のために努力すること、家族や仲間と良い人間関係を保つことなど、自らの心身の健康の保持増進を図るために必要な知識・技能を身に付けることが必要である。これらの力を育成するために、学校保健委員会等を学校保健安全計画に基づき、家庭や地域にも取組を促すとともに、個別の事案に対しても、特別支援コーディネーターや担任・顧問などの教職員や学校医等と連携し、学校においてチームで支援することが求められる。

以上のことを踏まえて、本協議会では、主に「心の健康」への支援に着目し、養護教諭の資質向上のための研修会を企画する他、現代社会に多い精神疾患や年々増加する傾向にある発達障がい等の早期発見・早期治療につなげるための基礎となる状況把握の見立ての場面を検討することとした。

そこで、学校内で組織する支援チームが、児童生徒の健康課題を共通理解し、支援方針や支援方法を見定め実践するために、学校や家庭の情報の整理や支援体制の整備をどのように行うか、観点を明確化する必要があると考えた。また、専門機関に相談する際に、短時間でポイントをおさえて情報を伝えられるよう統一の様式を検討した。

また、現代的な健康課題の一つである、性に関する指導については、各学校における指導力・対応力の向上が求められており、実践的な指導に向けた研修会の実施が望まれているため、関係機関と連携し、次のとおり研修会を計画した。

さらに、各地域の課題解決のための支援の充実を図るため、次のとおり研修会等を計画した。

1 課題解決に向けた取組計画の検討：

<実際の取組>

○本県の課題に対し、専門家と連携した取組の検討（学校保健課題解決支援協議会）

・学校における現代的な保健課題への対応

（児童生徒の心身の健康問題等、性に関する課題等）

・地域協議会への支援

2 課題解決のための研修会の実施：

＜実際取組＞ 養護教諭等を対象に県内2会場で計画・実施

3 課題解決のための各地域協議会（研修会）への支援と希望のとりまとめ：

＜実際取組＞ 希望する地域の課題把握と専門医の選出

4 課題解決のための各地域研修会への支援

＜実際取組＞ 各地域の課題解決のための研修会支援

5 課題解決支援事業の検証：

＜実際取組＞ 事業の検証と次年度に向けての課題把握

具体的な取組

実施月日	実施事項
8月6日	1 性に関する指導研修会（塩尻市：県総合教育センター） 教職員を対象に、性に関する指導の授業づくりの基本と、生きづらさを抱える子どもたちの現実を学ぶことを通して、なぜ、性に関する指導が必要なのかを考えるための研修会を開催した。【参加人数 203人】
8月27日	2 学校保健課題解決支援協議会①【出席者 16人】 健康課題解決のための協議会及び課題解決の研修計画を検討した。
10月31日	3 須高学校保健会 心のケア検討会（須高地区） 須坂市・上高井郡の小・中・高・支援学校の養護教諭、世話係校長、地域の保健師、市教委指導主事、家庭児童相談員で構成され、地域の精神科医師を助言者として招き、事例から児童生徒の支援と関係機関の連携について考え、専門医の助言を受けながら、専門的な知識を深め、問題の未然防止、初期対応、児童生徒の自立に向けた適切な支援、自校の支援体制に生かすための事例検討会を開催した。また、台風19号による災害発生もあったため、災害時の心のケアについて、事例を通して、研修を行った。【参加人数 26人】
11月5日	4 学校保健課題解決支援協議会 小委員会【出席者9人】
11月15日 11月21日	5 現代的な健康課題解決のための研修会：養護教諭研究協議会 県内小・中・高等学校・特別支援学校の養護教諭を対象に、現代的な健康課題解決のための研修会を行った。 【参加者】625人（中南信地区300人、東北信地区325人） ○講義（両日） 「学校保健の現状と課題」 保健厚生課 保健・安全係 指導主事 小田切優美 …災害時の対応（台風19号）、アレルギー対応、ヒヤリハット事例 等 ○講演（両日） ゲートキーパー研修～養護教諭の役割～ 「死にたい」にどう対応するか

	～自殺のリスクアセスメントと危機介入～ 特定非営利法人 OVA 代表理事 伊藤次郎氏
12月5日	6 東信地区高等学校 学校保健課題検討委員会 東信地区高等学校の養護教諭部会及び保健主事部会、各部会の世話係校長を対象に、DMAT の活動をしている伊那中央病院統括副院長救命センター長 北澤公男氏を講師に招き、未曾有の自然災害が起きた際、保健主事・養護教諭が安全な場所への誘導や傷病者への対応などにおいてチームワークをもって迅速かつ的確に陣頭指揮を取り、被害を最小限にできるよう、知識・技術を備えるための研修会を開催した。【参加人数 40 人】
1月21日	7 学校保健課題解決支援協議会②【出席者 14 人】 健康課題解決のための協議及び本年度事業の評価を行った。
2月	8 報告書作成・事業完了

2. 事業の達成度について

1 研修会の開催により、現代的な健康課題解決に向けた対応を推進することができた。

(性に関する指導について)

県外で実施される研修会に教員を派遣し、指導力の向上を図るとともに、実践発表等を含めた指導研修会を実施した。基本的な性に関する指導だけではなく、特別な支援を要する児童生徒や男の子、また幼少期からの性に関する指導についても扱ったところ、大変参考になったという声が多く聞かれた。研修会后、参加者が自校での職員研修を企画するための講師紹介や授業実践のための資料提供依頼の問い合わせがくるなど、各学校における指導力・対応力の向上を図ることに一定程度寄与することができた。また、指導案や資料等をホームページに掲載し、各学校での授業づくりに役立つよう情報提供に努めた。

(感想)

- ・知っているようだったが、スマホでこんなに簡単にアダルトな動画が見られることを認識した。学校で、どのレベルまで扱えるか検討する必要がある内容もあったが、大事な点がたくさんあったので、今後の指導に役立てたい。
- ・子どもから性について聞かれた時、ついつい「ごまかして」、「逃げて」しまいたくなるが、純粋な疑問、子どもの未来を守る為に必要な機会を逃していたのだと感じた。今後はこの大切なチャンスを逃さないよう、子どもと性の話が出来るよう魔法のフレーズを使いながら明るい性教育が出来るように努めたい。
- ・衝撃でした。今までずっと、男の子は自分で学んで体得していくものと思い込み、ほとんどの男性が当たり前前に射精出来るようになってと決めつけていた。そして、多くの男性が、本当に困っているということを初めて知り、男の子達が学ぶ環境をしっかりと整えないと大変なことになると思った。どうしたら良いか考えていかなければならないと思った。

2 児童生徒等の「心の健康」に関する関係機関との連携と課題把握について

今年度、養護教諭対象に実施された研修において、「SOSの出し方に関する教育」「児童虐待の対応・学校と児童相談所の協働」「発達に課題を抱える子どもへの支援」「SSWと連携するこどもの家庭支援」「ゲートキーパー研修」など、児童生徒等の心の健康に関わるものを多く開催し、さらに本事業において、学校内でのチーム支援や医療につなげる際の様式についての検討を行う中で、校内における連携（担任・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・管理職それぞれの見方を情報共有できているか）や保護者との情報共有をどう進めていくか、校内支援の手立てや取り組みが大切であることが確認され、養護教諭向け・特別支援教育コーデ

イネーター向けそれぞれに出されていたガイドラインなど共通理解することができた。

様式については、今後も再検討を行い、養護教諭だけでなく、チーム支援の中で作成していくこと、支援会議等を経て保護者と今後の支援の在り方などについて共有した上で、医療につなげる際の資料としても、活用できる一助となるものにしていきたい。

3 地域協議会への支援により健康課題解決につなげることができた。

○心のケア検討会（須高学校保健会）

学校だけでなく、市町村の関係者など校種、職種を超えた検討会を行い、さらに医師に助言者として参加いただくことで、専門的観点から事例検討ができるとともに、参加者が支援の役割を確認することで支援の幅を広げることにつながっている。学校が、日々の子どもの心の問題に真摯に向き合うために、地域（幼少期）・小・中・高と連携して子どもたちの発達段階に応じた課題解決にあたる必要があるという思いのもと、その連携が子どもの成長過程の途中で立ち消えることなく継続的に、支援できるよう関係機関で連携し子どもの心のケアにあたっている。

（成果）

一つ一つの事例に対して精神科医よりの確な助言をいただき、疾病についての支援への意欲、実践につながった。また、台風 19 号の被災直後ということもあり、災害時の心のケアについても話し合いがもたれ、今まさに必要とする対応につなげることができた。

（感想）

- ・親の安定を望むためにも、保健師等地域のケアにあたっているスタッフとの連携を初期段階で行うことも必要だと感じた。
- ・今取り組むべき問題は何で、どのように解決していくかの見通しを持ち、教務会、職員会、学年会で連絡調整しながら、合意を形成していくことが、まさに、職員が一枚岩になって対応していくことのカギになることを学んだ。

○災害時における救助の実際とリスクマネジメント（東信地区高校 学校保健課題検討委員会）

（成果）

DMA Tの現場で実際に活躍されている医師を招き、日本の災害の現状と過去の災害、DMA Tについて、また災害時の救急搬送に混乱を来たさず、より多くの命を迅速的確に救い最善の医療へつなぐことがトリアージの目的であることを学ぶことができた。その際、学校が備えておくべきことについても教えていただくことができた。学校安全の役割の明確化と各校の災害時のリスクマネジメントと災害時の学校でのアセスメントを見直すきっかけとなり、アセスメントの研修へつなげることができた。

（感想）

- ・今回の救急・医療班の準備、活動を学んだことで、防災訓練の実施を含め、多面的にあらゆる状況を想定しイメージを持ち、災害時の対応をシミュレーションできる機会となった。
- ・自然災害が多い国、日本において、より多くの命を迅速的にさらに的確に守り、最善の医療へつなぐために、医療チームが行うトリアージの占める重責は大きく、学校がそのトリアージにつなげるためのアセスメントを的確にできるよう備えが必要であることを再認識できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1 性に関する指導について

基本的な研修に加えて、性的マイノリティー等特別な支援が必要な児童生徒への指導についてのニーズが高いことから、今後も多くの参加者のニーズに応える研修企画を行う必要がある。また、各学校の研修支援の充実を図っていくためにも、他部局との連携をさらに推進し、現職教諭の研修の機会を確保する。研修会参加者の8割が養護教諭であるが、健康教育という大きな枠で見たときに性に関する指導を養護教諭の協力のもと、保健主事のマネジメントを生かし組織的・継続的に学校の年間計画に位置付けていくためには、教諭や管理職にも参加してもらえるようにしていく必要がある。

2 児童生徒等の「心の健康」に関する関係機関との連携について

協議会および小委員会で検討してきた学校内での支援の方法・方針や医療との情報共有する様式について、県内養護教諭に伝達するまでは至っていないため、学校と医療がスムーズに連携できるよう協議を重ね、県医師会とも連携を図り医療機関に周知していきたい。また、学校が活用できる関係機関やサポート事業等を載せたフローチャート等について各学校で利用できるよう検討したい。

（前年度末の時点では6月の県養護教諭研修会において様式及びフローチャート等について伝達できるよう検討を進める予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、検討をすすめる小委員会および研修会自体の予定をたてることができず、書面での検討にとどまり、様式完成に至っていない。）

3 地域協議会について

各地域の学校保健課題を検討する協議会に対して支援を行うこの事業を活用することで、協議会が活性化され、全県下に情報発信し、その他地域にも情報共有をすることができた。学校や地域の現場からは、専門的な医師を招き有意義な研修会が実施できると好評であるため、県独自で実施している健康相談支援体制整備事業と連携し、専門医の専門的知識を含めた学校でのチーム支援につながるよう、より多くの機会に発信をしていく必要がある。

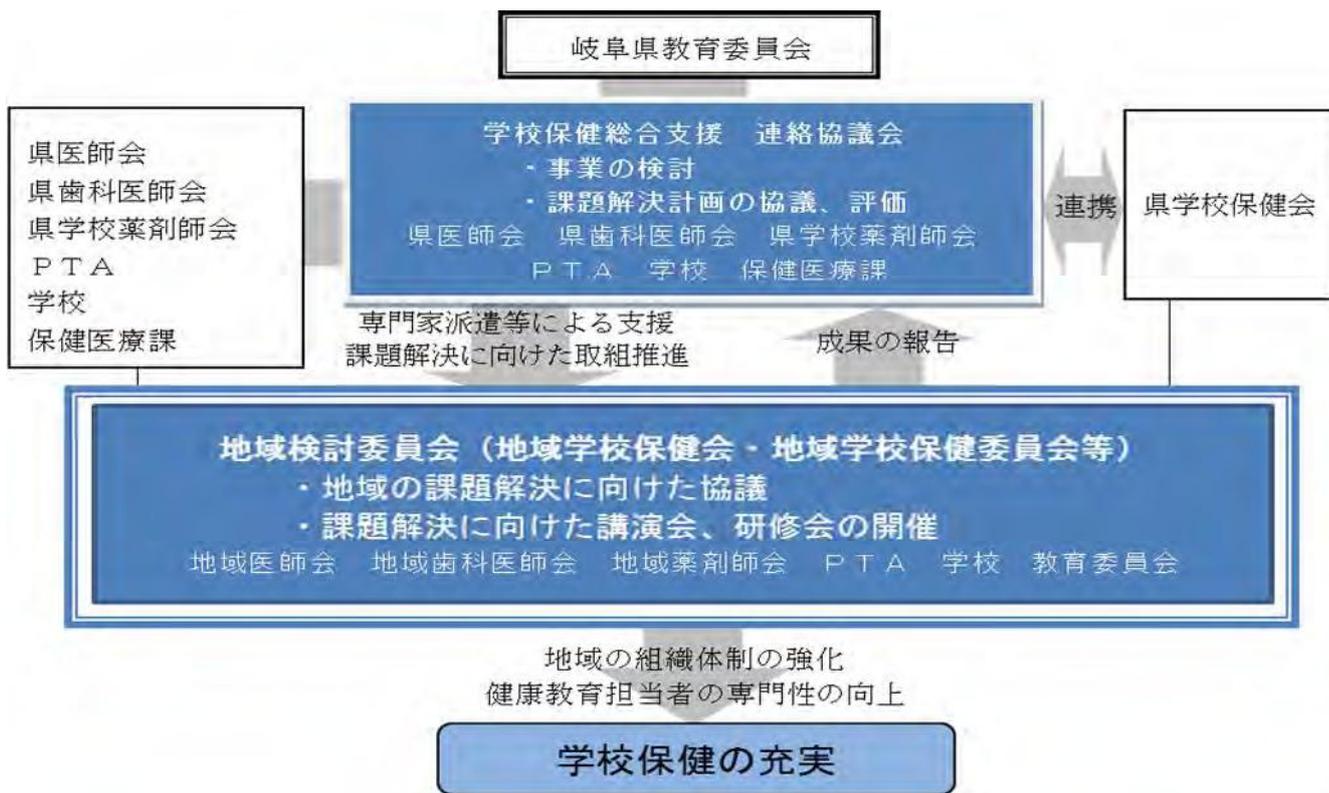
(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全体：15名（委員13名・事務局3名）

委員：岐阜県医師会1名、岐阜県歯科医師会1名、岐阜県学校薬剤師会1名、学校長会（高等学校・小中学校・特別支援学校）3名、幼稚園長1名、PTA代表1名、養護教諭（小中学校・高等学校）2名、栄養教諭1名、岐阜県健康福祉部保健医療課1名



② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input checked="" type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

- 「地域検討委員会」（郡市学校保健会・地域学校保健委員会）による協議
学校・家庭・地域の医療関係者等からなる「地域検討委員会」において、地域の課題を明らかにするとともに解決に向けた取組を確認する。
- 「地域検討委員会」における具体的な取組への専門家派遣
 - ・健康教育担当者の専門性の向上に向けた研修会の実施
 - ・学校、家庭、地域が連携した課題解決を図るための講演会の開催
 - ・地域の学校保健に関する取組の交流

④ 当初の課題解決計画と実際の取組内容

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与えており、本県においても生活習慣の乱れ、いじめや不登校など心の健康に関する問題、アレルギー疾患、性に関する問題行動など、学校において新たな課題が顕在化している。

これらの課題解決を図るために、学校・家庭・地域の連携した組織体制を構築し、各地域における課題を明らかにし、解決に向けた取組の充実を図る。

【組織体制の構築に向けた計画】

- ・岐阜県学校保健総合支援連絡協議会を設置し、学校保健課題の解決に向け関係機関との支援体制づくりについて協議する。
- ・県教育委員会は、岐阜県学校保健総合支援連絡協議会において、各種調査等に基づく県内の児童生徒の実態や健康増進計画である「第3次ヘルスプランぎふ21」等を踏まえた課題解決に向けた取組について協議し、方策等を示す。
- ・地域学校保健会等の「地域検討委員会」に対し、学校・家庭・地域が連携した体制を強化し、地域の児童生徒が直面する学校保健の課題の把握やその解決に向けた取組を推進するよう依頼する。
- ・県教育委員会は、「地域検討委員会」に対し、地域の専門家を派遣し、課題解決へ向けた取組の充実を図る。取組テーマ：「性」「食物アレルギー」「感染症」「生活習慣病」「運動器」「メンタルヘルス」「歯・口腔」
- ・岐阜県学校保健総合支援連絡協議会は、「地域検討委員会」から提出された報告をもとに、成果について協議する。

【課題解決に向けた取組】

- ・岐阜県学校保健総合支援連絡協議会や地域検討委員会は、上記テーマに関わって、県内や地域の児童生徒が直面している学校保健課題について明らかにするとともに、解決に向けた取組を確認する。
- ・学校・家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かしながら学校保健の課題解決に取り組むことができるよう、地域の専門家等講師を派遣し、教職員等の関係者に対する研修会、講演会の開催や調査研究に対する支援を行う。
- ・地域検討委員会は、学校保健総合支援連絡協議会に取組の成果を報告する。

【学校保健総合支援事業 連絡協議会】

実施日	実施内容
8月26日	第1回 学校保健総合支援事業 連絡協議会 ・昨年度の事業報告 ・昨年度の調査の結果から、児童生徒の健康課題について交流（性に関する指導、メンタルヘルス、運動器疾患） ・インターネット、スマートフォンの使用と子どもたちの健康、ネット依存症について意見交流
2月16日	第2回 学校保健総合支援事業 連絡協議会 ・今年度の事業報告 ・各地域における専門科派遣による成果と課題 ・インターネット、スマートフォンの使用と子どもたちの視力低下、姿勢、生活習慣について意見交流

【各地区での取組】

- ・各地区の地域検討委員会に、健康課題の解決に向けた研修会等へ講師を派遣した。

○メンタルヘルス（10/31）〔参加者：三師会 教職員 PTA関係者 25名〕

- ・地域学校保健委員会の研修会に大学教授を派遣し、「心の健康・不登校・発達障がいへの指導・対応」と題して研修を行った。
- ・不登校の現状と課題、発達障がいへの指導について理解を深めた。そのなかで「社会性を身に付けるには、学校と家庭が一緒に行くことが大切である。家庭でしかできないこと（身辺自立、家事）、学校でしかできないこと（コミュニケーション）、両方で行うこと（自己統制）がある。だから学校と家庭で一緒に子どもを育てるという意識でありたい。」と聞き、連携の大切さを理解した。
- ・いじめ問題について児童生徒の心に寄り添った具体的な対応について研修した。具体的に「子どもが将来、自立するために大切な3つのこと。①8時間働くことができる気力、体力を付ける。②家事ができる、自分の身辺自立ができる。③ヘルプサインが出せる」特に③が今、注目を浴びている。抱え込まないで助けを求めることができることも自立するとき大切なことであり、すべて自分で解決することや自分の力だけでやることは無理である。ヘルプサインを出せること。」について指導をするようにする。

○性に関する指導

(6/26 6/28 7/2 7/6 7/9 7/12)

[参加者：保健主事 養護教諭 保健体育担当者 6会場 合計743名]

- ・「エイズ・性感染症の現状について」と題して、感染症の専門医が養護教諭、保健体育担当者等に講義を行い、現状と課題について理解を深めた。
- ・学校で子どもたちに指導するに当たり、正しい知識を持つことや差別・偏見をなくすことも子どもたちに指導する必要があることを研修した。

【参加者の感想】

- ・性感染症の専門の先生からくわしい話を聞くことができ、有意義な時間であった。治療の現場から現実的な話を聞く貴重な時間であった。また県内にすばらしい先生がみえることも新たに知ることができてよかった。
- ・現代の問題につながる内容だったと感じた。性感染症については、医師によるリアルなデータ、実態を聞くことができ、とても勉強になった。自校でも伝達講習を行いたいと思った。
- ・多くの症例を扱ってみえる先生からの講義は、大変参考になる内容で、性に関する指導を進めるにあたり貴重な講義であった。
- ・最新の話聞くことができ、大変勉強になった。①岐阜県の様子 ②エイズの治療の進歩 ③エイズのこれから抱える問題点、差別・偏見について この3つのことが理解でき、今日学んだことを活かしていきたいと思った。

HIV/AIDS 総括

- ・ 死の病ではなくなった。
- ・ 抗HIV薬も1日1回1錠の時代。副作用も軽減。
- ・ 抗HIV薬をしっかり服用すれば、通常の健康人と同レベルの寿命が得られる。
- ・ 長期合併症（心血管疾患、CKD、認知症、悪性腫瘍…）…
- ・ HIVの感染はほとんどない。
- ・ 感染活動が不十分。
- ・ 高齢化、後援老人問題。
- ・ 検疫制度（身体障害者制度）における問題点。
- ・ 依然として存在する偏見・差別。

差別・偏見を無くすには？

エイズパニックの歴史、怖い、いがかわしい、治らない、性に関係、男性同性愛、などがマイナスイメージを作り、偏見・差別の対象になっている。

- ・ HIV感染症に関する正しい知識を持つこと。
まずは医療従事者から意識改革を。
- ・ 性行為感染症に対する偏見の打破と性教育の在り方を見直す。
- ・ LGBTに対する理解。

○運動器 (6/26 8/2) [参加者：教職員 部活動外部指導者 養護教諭 2会場合計51名]

- ・身体的に成長段階である中学生によく起こるけがはどのようなものがあるのか、また、けがの予防のために留意することについて学ぶことができた。さらには、けがをした際の応急処置について実習を取り入れながら知識を習得し、子どもたちを指導する立場として必要な知識を得ることができた。

【参加者の感想】

- ・今後、講習会で学んだ知識を実際の現場で発揮し、子どもたちが健やかに成長していくことを願う。
- ・正しい姿勢とは、私達が考える姿勢とは違うということが、具体的な図や写真などを用いて説明が行われたためよく理解することができた。
- ・実際に参加者が簡単なストレッチの仕方を実習することができた。同時に、先生の技法によって前後の効果違いにも非常に驚かされた。
- ・子どもたちと教室で行うことができる簡単なストレッチを教えていただいたので、保健主事として各校で広め、実践していく。
- ・学校だけでなく、家庭とも保健便りなどを通じて姿勢についての関心を高めていく必要がある。



2. 事業の達成度について

- ・県内各地に専門家を9回派遣し、質の高い研修会を開催することができた。県の共通したテーマとして「エイズ・性感染症の現状について」専門家を講師として研修を行い、性感染症の予防など県内で共通したテーマで研修を実施し、性に関する指導について指導を見直すことができた。
- ・郡市学校保健会、地域学校保健委員会等の「地域検討委員会」が主催する研修会に対し、講師を派遣することができ、地域の課題に応じた研修会を実施できた。各地域からの郡市学校保健会や3回の専門家を派遣の希望があり、そのうち2回は「運動器の疾患」がテーマであった。運動とけが予防に対する意識が高まり、けがの防止のストレッチングやテーピングの実習など理学療法士から学ぶことができた。
- ・連絡協議会を通じて、インターネット、スマートフォンを使用する児童生徒が増加していることについて協議した。学校、家庭がどのように対応するといったのか、依存にならないための予防について検討でき、現代的な課題について協議することができた。

【過去6年間の地域の講習会への派遣とその内容】

年度 内容	H26	H27	H28	H29	H30	R01
疾病	・	・	・	8	・	・
運動器	1	・	1	・	2	2
アレルギー	1	2	・	・	・	・
発達障がい	5	1	・	1	1	1
生活習慣・食育	・	・	・	1	2	・
薬物・飲酒・喫煙防止	・	・	・	・	・	・
性に関する指導 (LGBT含む)	・	6	7	1	3	6
その他	・	1 (感染症)	・	・	・	・
合計	7	10	8	11	8	9

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・各市町の課題に応じた専門医派遣を3回実施したが、そのうちの2回は昨年度に引き続きの同じ市町であった。例年、同じ市町になる傾向である。広く県内の市町村に周知し、質の高い研修会を実施できるような体制を整える。
- ・連絡協議会で協議されたインターネット、スマートフォンについては、視力低下や児童生徒の姿勢など健康課題もある。また「ネット依存」についても危惧されるよう状況であり、課題として引き続き、検討を重ねていくようにする。
- ・研修会の参加対象を見ると、小・中学校の保健主事や養護教諭を対象としているものは多くある。しかし、健康課題の解決には、幼・小・中・高の連携が大切であり、保育園や幼稚園教諭の参加、高校の教諭との連携も大切であり、校種間連携を進め、子どもたちの健康課題の解決に向けて事業を進め方を改善していきたい。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全員で15人（内科医1人、小児科医1人、消化器内科1人、保健所1人、保健師1人、
県教育委員会1人、教育事務所3人、PTA2人、学校長2人、主任養護教諭2人）

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

なし

④ 当初の課題解決計画と実際の実行内容

ア ねらい

近年、児童生徒を取り巻く生活環境の急激な変化を背景として、生活習慣、メンタルヘルス、アレルギー疾患、性に関する様々な健康課題が生じており、学校における対応も多様化、複雑化している。このような健康課題の解決のためには、学校、保護者、地域が連携して取り組むことが大切である。

そこで、地域の実情を踏まえた専門家との連携など課題解決に向けた計画の策定、それに基づき、地域学校保健委員会等に専門家を派遣し、地域の健康課題に向けた取組への支援及び組織の連携強化を図ることを目的とする。

イ 概要

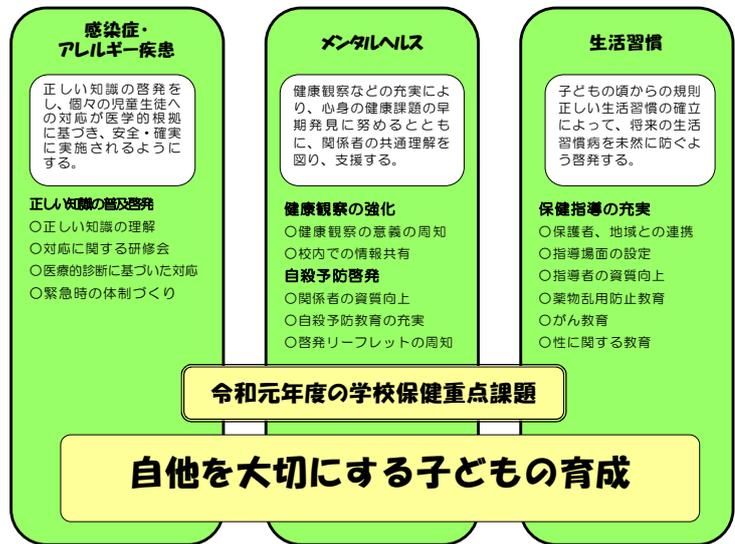
<性に関する支援>

正しい知識を啓発し、思春期の子どもたちが抱える興味関心、不安などを発達段階や医学的根拠に基づいて指導をすることで、子どもたちが適切な対応をすることができるようにする。また、思春期の子どもたちの保護者や教員が、適切な対応ができるよう指導方法を学ぶ機会とする。

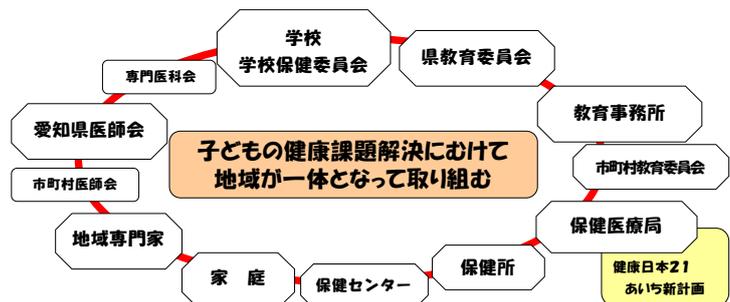
<いのち・こころの支援>

思春期特有の心身の健康課題の発見に努めると共に、関係者の共通理解を図り、支援をする。（自己有用感の強化、自殺予防啓発）

令和2年度愛知県学校保健課題



連携の充実・強化 連携体制の構築



<生活習慣の支援>

日頃の規則正しい生活習慣の確立によって、生活の質の向上や感染症による疾病を予防することを啓発する。

ウ 専門家派遣の実際

<性に関する支援8校>

- 生徒、保護者、教職員、地域の保護司、地域の中学長などが出席する総合的な学習の時間「人権講話」に、婦人科医師を講師に招き、性感染症やデートDVをはじめとして、様々な暴力などを講演会として実施した。その後、生徒を除いた出席者で、地域の性や健康に対する子どもたちの意識や課題を協議した。
- 生徒（特別支援学級）、保護者、教職員、地域の養護施設職員を対象に、学級活動として、二次性徴、性被害防止、命のバトンについて講師より授業を実施した。その後、教員研修として、支援する上での注意点や学校と家庭との連携の方法、子どもへの日頃の関わり方などを講師を交えて協議した。
- 生徒（特別支援学校高等部）、保護者、教職員、地域の就労センター等職員が出席した人権講話にて、「ふたりの関係～恋愛～」をテーマに講演会を実施した。支援側を対象としたワークショップでは、事例を元に協議を実施した。
- 生徒、教職員、地域の教員が出席する総合的な学習の時間「思春期講座」と地域連携協議会を実施した。「すてきな大人になろう～性感染症の予防～」と題した講演会后、各校の性に関する課題の情報共有を行い、個別指導の方法を確認した。
- 生徒、保護者、教職員、地域の子育て支援職員が出席した学級活動において、「わかりやすいからだの学習」と題して、自分の存在や大人として社会で生きること、将来のことを考える、トラブルが起きたときの相談相手など具体的な授業を実施した。
- 児童（知的障害特別支援学校）、保護者、教職員、地域の児童クラブ職員を対象にした保健講座にて、思春期の発達や親からの自立などの授業を実施した。その後、支援側を対象に性を伝える目的や困っている事例について情報共有と意見交換を実施した。
- 児童（特別支援学級）、保護者、教職員、地域の福祉関係者を対象に発達段階に応じたからだの変化の授業を実施した。
- 生徒、保護者、教職員、地域の教員や専門家が出席した総合的な学習の時間「命の学習」において、「心とからだ～これからの生き方を考える～」をテーマに講演会と協議会を実施した。



<いのち・こころの支援6校>

- 生徒、保護者、教職員、学校薬剤師、民生児童委員、自治会長等地域の関係者が出席する学校保健委員会の場で、自分らしく生きるためのメッセージの内容で講演会があった。その後、病気療養後の復学をする生徒への支援を協議した。
- 生徒、保護者、教職員を対象に、総合的な学習の時間「健康といのちの大切さを育む教室」として、講師より夢を持ち続ける大切さを学ぶ講演会を実施した。
- 生徒、保護者、教職員、地域の教育関係者が出席する学校保健委員会の場で、道徳の授業で学んできた内容を生徒が発表をしたり、講師から「温かくてたくましい私たちの命」と題した講演会を実施した。
- 生徒、保護者、教職員、地域の教員を対象にした地域学校保健委員会の場で、臨床心理士を講師としてマインドフルネスやレジリエンスの鍛え方などの講演会を実施した。その後、地域の教員との協議において各校の実情に応じて講師が助言した。
- 生徒、保護者、教職員、地域の推進委員を対象に、総合的な学習の時間において、自分を守ることにについて、ワークシートを活用した学習をした。（2校）



<生活習慣の支援2校>

- 児童、保護者、教職員が出席する学校保健委員会の場で、実態調査から得られたゲーム依存について、講師より講演や親子によるゲーム依存率の調査、児童による目標の発表などを実施した。その後、保護者を対象に医療の場での実態を伝えられ、ゲーム依存について再度確認をした。
- 3・4年生の児童、保護者、教職員、学校関係者、地域の専門家が出席する学校保健委員会の場で、「早寝・早起き・朝ごはん・排便習慣」の内容で講演会を実施した。その後、生活習慣に関する児童の実態や課題、感染症への対応等について意見交換し、地域連携を推進することを確認した。



2. 事業の達成度について

<性に関する支援>支援後の感想文から児童生徒の変化の様子を知る学校が多い。

- 生徒の感想文は、枠外にまではみ出して文章が記載されていた。パートナーは自分の「もの」ではないことを納得して聞いていた。
- 個別相談を希望された特別支援学級の保護者から「本を読んでも、家族に相談してもわからなかったことが、講師の先生と話をして解決できた」と話され、教員にとっても指導者として子どもたちに伝えていくべきことが示唆された。
- 講話前後でのアンケートの結果より、性の知識が増えた82%、異性の気持ちを知る必要がある85%、今回の話は、まだ早い(関係ない)と思う24%(関係がある76%)という結果と同時に、「妊娠することは子孫を残せて嬉しい反面、責任を持つということも感じた」など講話内容を自分の中でふりかえる感想もあった。
- 支援後の感想文から「自分のからだは自分で守り、取り返しのつかなくなる前に、大人の人と相談して・・・」「初めて知ったことがあった」「今までの知識が間違っていたことがわかった」など正しい知識を得る大切な機会となった。
- 保護者からは日頃、話しづらい内容を子どもと一緒に聞くことで、話のきっかけを得ることができたなどの感想が寄せられた。
- 子どもたちの成長に対し、家庭でも配慮する必要があるという保護者の意識が、協議会で情報共有をすることで高まった。
- 「知的に障害のある児童の保護者として、性教育の必要性があるとは感じつつも難しいと感じていたが、講師の言葉の使い方を学び、参考になった」など感謝の言葉が寄せられた。

ある中学校での指導前後の調査

「命の授業」事前事後アンケート結果

R1.12

1. エイズなど感染症について、自分にも関係あることだと思いますか。

	1組		2組		3組		4組		合計	
	事前	事後								
思わない	6	1	4	4	9	0	4	3	23	8
あまり思わない	3	1	2	2	3	3	2	1	10	7
少し思う	6	9	2	7	3	8	6	7	17	31
思う	2	14	1	13	2	10	0	18	5	55
わからない	14	6	21	3	14	9	20	4	69	22

2. 中学生の男女交際はどこまでゆるされるとと思いますか。

	1組		2組		3組		4組		合計	
	事前	事後								
おしゃべり、メール、一緒に帰る	2	2	3	4	7	2	3	7	15	15
手をつなぐ	2	10	3	10	1	5	4	11	10	36
キス	4	4	9	8	1	3	6	6	20	21
性行為	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2
なりゆきしたい	5	5	7	0	4	2	2	1	18	8
わからない	17	9	7	6	17	15	17	8	58	38
その他(許されない)					1	3			1	3

3. 高校生の男女交際はどこまでゆるされるとと思いますか。

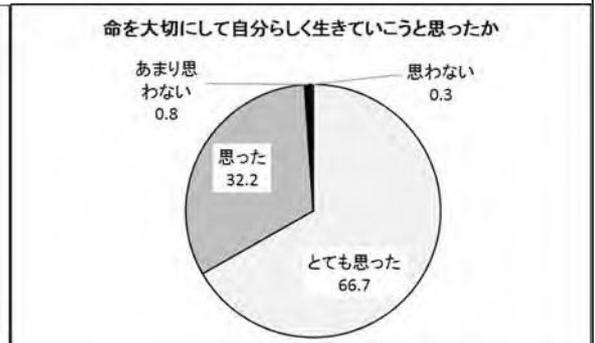
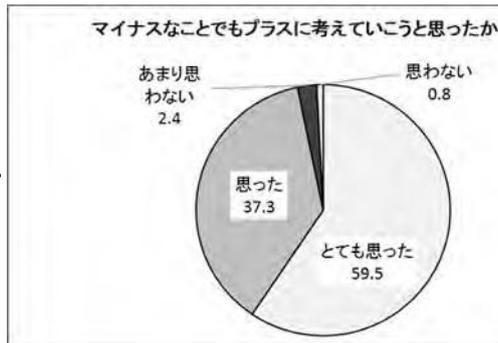
	1組		2組		3組		4組		合計	
	事前	事後								
おしゃべり、メール、一緒に帰る	1	1	0	2	4	1	1	3	6	7
手をつなぐ	0	5	1	5	3	1	0	4	4	15
キス	2	8	4	11	2	4	5	9	13	32
性行為	5	3	6	1	0	0	1	0	12	4
なりゆきしたい	5	6	10	2	4	2	6	1	25	11
わからない	18	8	9	8	17	19	19	16	63	51
その他(許されない)					1	3			1	3

※3組で自ら「許されない」欄を作成して○をつけた生徒がいました

<いのち・こころの支援>支援後の感想文から児童生徒の変化の様子を知る学校が多い。

- 講師の肯定的なメッセージを生徒が素直に受け止め、感想文などからも心に届いている様子が見えた。

ある学校の指導後の生徒アンケート



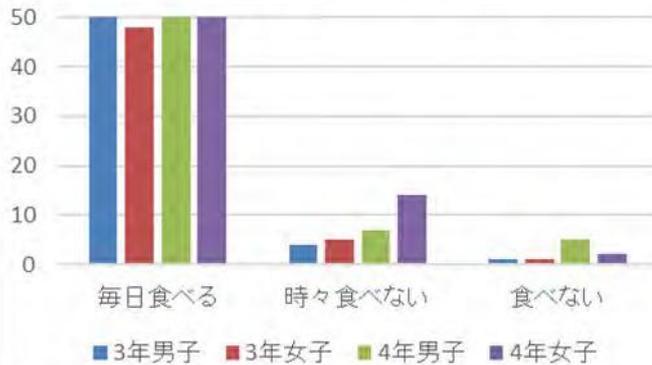
- 「生きているだけで価値がある」「自分の限界を決めない」という感想が多かった。
- 「健康で長生きしたい」と思う生徒が87.5%から98.8%に増加するなど数値的变化が見られた。
- 「命を大切にすることは〇〇ということ」を生徒に考えて自由記述した結果が右の図のとおりでした。
- 自分のいいところが記入できなかった生徒もアンケートの結果から「自分はいいいところがないと思うけど、友だちがたくさんいいところを言ってくれて嬉しかった。これからは自分のいいところをみつけていきたい」など自己肯定感の低い生徒も「強み」をみつけることに前向きになれた。



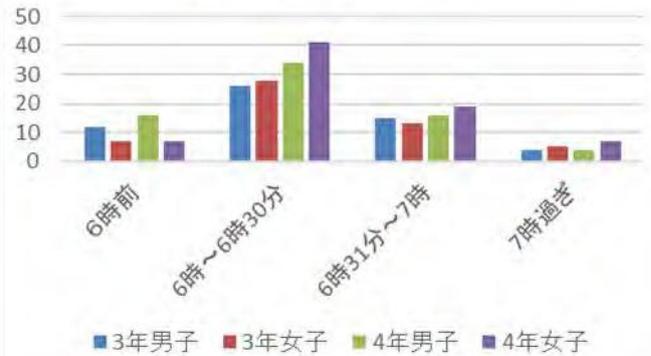
<生活習慣の支援>

- ・ 「ゲームをしない時間に料理の手伝いをたくさんしてくれたり、絵を描いたりとゆったりと過ごせたと思います。普段は、ゲームで口調が荒くなる時がありますが、そうした時間がなかったことが嬉しかったです」と家庭での事後の様子が保護者の感想から得られた。
- ・ 事後調査結果では、朝ごはん欠食や排便が3日以上ない児童がひとりもない結果となった。
(生活習慣事前調査結果「朝ごはん・起床時間」)
(事後調査結果「自分で毎日実行しようと思った目標が守れましたか」(下図グラフ))

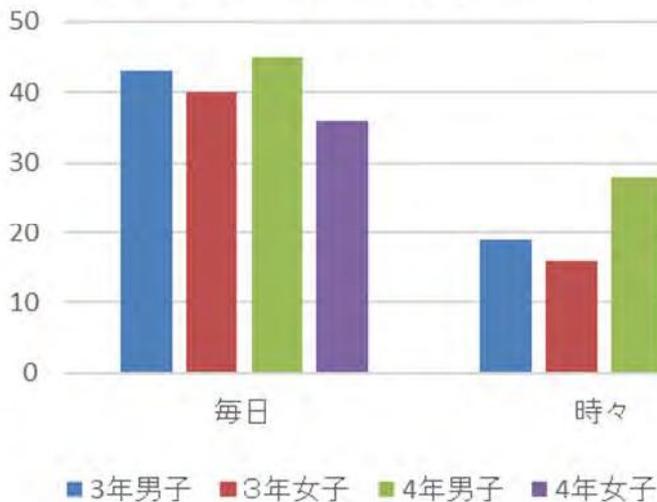
朝ごはんは食べますか？



何時に起きますか？



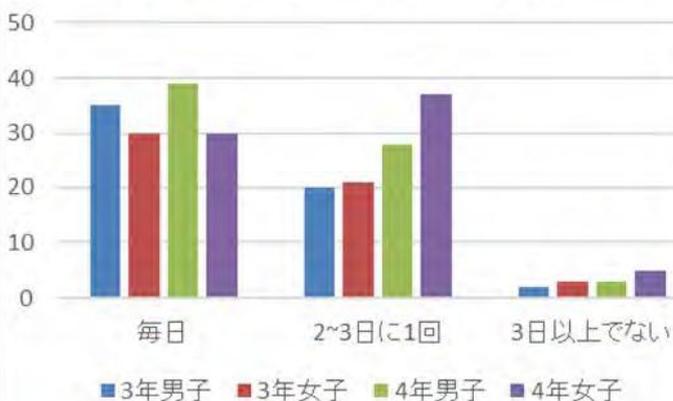
早寝早起き朝ごはん(事後)



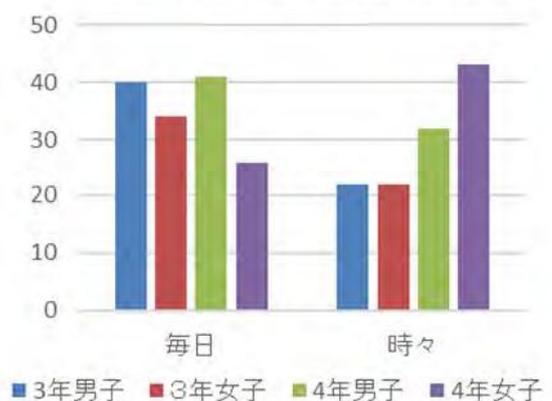
「早寝・早起き・朝ごはん喫食」の中で、児童自身に目標を一つ考えさせ、実践した。

(「すっきりウンチ大作戦！」指導前後の比較)

排便(うんち)は毎日しますか?(事前)



排便(うんち)は毎日しますか?(事後)



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

令和元年度は、要望が多かった特別支援学校や特別支援学級の児童生徒及び保護者を対象とした性に関する支援に対して充実を図った。障害のある子どもたちへの性に関する指導については、特別支援学校の教員の中で、長年、模索している状態であることが課題であった。

今回の総合支援事業をきっかけに、指導の方法の習得や地域とのつながりができたため、継続指導や支援を実施する予定である学校が多かった。ただし、新型コロナウイルス感染症による影響で、年間指導計画の練り直し等があり、進んでいない現状がある。

県のホームページに今回の事業を掲載しているが、特別支援学校研究会等に出席した際には、直接、効果があった内容を伝える予定である。また、実施した学校においては、地域の研究会や研修会の場で、各校の取組について報告してもらう場を設定するよう依頼している。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全員で16人(県教育委員会事務局含む)

内訳:医師4人(内科医1人、小児科医1人、産婦人科医1人、歯科医1人)、小学校長1人、養護教諭2人、市町教育委員会2人、県医療保健部1人、事務局6人

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

県教育委員会は、本県の3つの重点健康課題(メンタルヘルス、歯と口の健康づくり、性に関する指導)について、地域検討委員会を組織し、推進地域・推進校への委員の派遣・支援を行った。また、県立学校においては、協議会が地域検討委員会の機能を兼ね、委員・専門医等の派遣・支援を行った。

【メンタルヘルス地域検討委員会】

○推進地域(津市) 地域検討委員会委員 4人

精神科医(1人)、市教育委員会事務局(1人)、県教育委員会事務局(2人)

【歯と口の健康づくり地域検討委員会】

○推進地域(伊賀市) 地域検討委員会委員 10人

歯科医(1人)、歯科衛生士(2人)、小学校教頭(1人)、養護教諭(3人)、市教育委員会事務局(1人)、県教育委員会事務局(2人)

○推進校(県立北星高等学校) 地域検討委員会委員 4人

歯科衛生士(2人)、養護教諭(1人)、県教育委員会事務局(1人)

【性に関する指導】

○推進校(県立学校 16校) 地域検討委員会委員 15人

産婦人科医(4人)、助産師(4人)、大学准教授(1名)、その他関係機関相談専門員(1人)、県教育委員会事務局(5人)

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

【メンタルヘルス】推進地域:津市

○課題解決計画

子どもたちの心の問題は、多様化、深刻化しており、心の健康づくりは重要な健康課題となっている。

この課題を解決するためには、学校のみならず社会全体での取組が必要とされている。

当事業では、メンタルヘルス地域検討委員会が地域を支援していくことで、学校、教育委員会、地域の専門医等が連携し、各地域における課題解決に向けた組織体制モデルの検証を行うとともに、教職員等対象の講習会を行う。

○取組内容

津市を推進地域に指定し、2校にのべ6回の地域検討委員会委員の派遣を行った。Q-U検査・クーパースミス（自尊感情）検査・精神面の健康症状チェックを行い、小児科医の助言を得ながら、メンタルヘルス面で課題のある児童生徒を把握し、その支援方法や課題解決方法等を協議した。

教員からは、自分たちが考えていた児童生徒の実態と、メンタルヘルス調査及び講師からの助言とを比較検討し、児童生徒への見方を再度見直して、指導方法について考えるようになったと報告があった。すなわち、学級の個々の児童生徒について、改めて対応方法を考えたり、内面を深く理解しようとしたりすることにつながった。

さらに学級全体の指導も、振り返り見直しを図ることができた。児童生徒が激変したということではないが、教員にこのような知識があることで、児童生徒への観察や取組の意識が高まり、今後の児童生徒対応に活かすことができると考える。

【歯と口の健康づくり】推進地域：伊賀市

推進校：県立北星高等学校

○課題解決計画

本県における12歳の一人平均DMF指数は0.84本（平成30年度集計結果から）で、全国平均（0.74本）との差は顕著であり、更なる指導が必要である。また、県内の市町別12歳一人平均DMF指数では地域差が見られる。さらに、県立学校においても、むし歯・歯肉炎等、歯と口の健康に係る問題が見られる。

以上のことから、各校種において歯と口の健康づくり推進地域及び推進校を指定し、県で設置した歯と口の健康づくり地域検討委員会委員を派遣することで、意識の向上を図る取組を進めた。

当課題については、県教育委員会と県歯科医師会、県歯科衛生士会等との連携を強化することで、体制の構築を図るとともに、取組の好事例について地域内に広く周知をしていく。

○取組内容

〔伊賀市〕

歯みがきの大切さを学習したうえで、一人ひとりが染め出しを体験することで、自分の口に合った歯みがきの仕方を学ぶことができた。ほとんどの児童が、これまでに染め出しをした経験がなく、一本一本丁寧にみがかないと歯垢を落とすきれいなことや歯垢を落とすには時間がかかること、歯ブラシの当て方を工夫しないといけないことなどを知るとてもよい機会となり、歯や口に対する意識が高まったと考える。

また、学校関係者・歯科衛生士・行政関係者の参加による「歯と口の健康づくり地域検討委員会（協議会）」を開催し、学校における「歯と口の健康づくり」に関する連携体制の構築について協議を行った。

今回の事業をひとつの好事例として、今後さらに様々な事業を活用するなどして伊賀市全体として、「歯と口の健康づくり」の取組を進めていけるよう支援していきたい。

〔県立北星高等学校〕

講演形式が中心であったが、クイズなどを織り交ぜたり、質問に答えたりといった生徒が参加できる講

義はとても効果的であり、「正しい知識を身につけたい」「歯科受診の大切さを知った」など、生徒自身の自覚や意識の変化が見られ、歯と口の健康づくりについての理解を深めることができた。

特に、卒業を予定している生徒にとっては、学校生活における最後の歯科指導になることが予想され、自分の歯と口の健康について理解し、自分の健康を自分で守っていくということを改めて意識する大変よい機会となった。

【性に関する指導】

○課題解決計画

本県における10代の人工妊娠中絶率（20歳未満人口千対）は徐々に減少し、平成21年からは全国平均を下回ることが多くなり、平成29年も4.0と全国平均の4.8を下回っている。しかし、性感染症罹患状況については、性器クラミジア感染症の20歳未満が占める割合は、平成29年は16.0%と全国平均8.9%より高値となっている。

望まない妊娠に起因する児童虐待の未然防止をはじめ、思春期の性感染症や人工妊娠中絶を予防するため、生徒や学校の実態に応じて、性に関する正しい知識の理解と健全に生活する実践力を身に付ける必要がある。

そのため、県教育委員会が設置した「性に関する指導地域検討委員会」委員を学校に派遣し、性に関する指導を行うことで、学校における性に関する指導の在り方を検討するとともに、各学校での指導を支援していく。

○取組内容

課題解決に向けた指導助言を行うために、課題に応じて委員の中から複数名を、高等学校11校、特別支援学校5校に各1回派遣し、教職員と生徒を対象に、各学校の課題に応じた講演会を実施した。

支援チームの講師・県教育委員会担当者がすべての学校に関わることで、各学校の現状や問題点に応じた課題解決策について意見交換をすることができた。

事前の調査を行うなどして講師と打合せを行い、それぞれの学校の実態に応じた内容で実施を行うことができた。事後のアンケートから、「正しい医学的知識を深めること」「自分の行動への責任感を高めること」「異性を尊重する態度を高めること」について、「できた」「概ねできた」と回答がみられ、理解と意識の高まりがみられた。

性に関する内容は、科目保健で学習している内容と重複も多くあるが、専門家から話をしていただけることや、繰り返し聞くことで理解が深まっている。また、講演後には養護教諭等による個別の指導、相談にもつながっている。



2. 事業の達成度について

「地域検討委員会」委員を派遣した学校に、アンケート形式による4段階評価（十分満足〔できた〕⇒④、概ね満足〔概ねできた〕⇒③、やや不満〔あまりできなかった〕⇒②、不満〔できなかった〕⇒①）を実施した。

一部、やや不満〔あまりできなかった〕という回答があったものの、多くの項目で十分満足〔できた〕もしくは概ね満足〔概ねできた〕という回答が得られた。

〔メンタルヘルス〕

・児童生徒の内面を汲み取る参考になった	④ 50%	③ 50%	② 0%	① 0%
・学級集団の指導に活かすことができた	④ 0%	③ 50%	② 50%	① 0%
・校内の連携を推進することができた	④ 0%	③ 50%	② 50%	① 0%
・児童生徒の変容がみられた	④ 0%	③ 100%	② 0%	① 0%
・学校として期待した内容となった	④ 50%	③ 50%	② 0%	① 0%

〔歯と口の健康づくり〕

・新しい知識を得る機会になった	④ 40%	③ 60%	② 0%	① 0%
・児童生徒への支援の参考になった	④ 40%	③ 60%	② 0%	① 0%
・校内の連携を推進するうえで参考になった	④ 20%	③ 60%	② 20%	① 0%
・健康教育を推進するうえで参考になった	④ 20%	③ 80%	② 0%	① 0%
・日常の教育相談や健康相談の参考になった	④ 20%	③ 60%	② 20%	① 0%

〔性に関する指導〕

・正しい医学的知識を深めることができたか	④ 56%	③ 44%	② 0%	① 0%
・自分の行動への責任感を高めることができたか	④ 81%	③ 19%	② 0%	① 0%
・異性を尊重する態度を高めることができたか	④ 56%	③ 44%	② 0%	① 0%
・事業全体に対する満足度	④ 87%	③ 13%	② 0%	① 0%

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

本事業は、推進地域及び推進校において、それぞれの課題に対して解決していくための連携体制の構築をめざし取組を進めてきた。令和2年度本事業については、新型コロナウイルスの感染状況等により、事業規模の縮小は避けられないものの、県予算を活用し、引き続き、「メンタルヘルス」、「歯と口の健康づくり」、「性に関する指導」を重点課題として取組を行う計画を立て、医師会や歯科医師会、産婦人科医会等関係機関に協力を依頼する予定である。

推進地域における地域検討委員会委員について、専門家の確保が難しいという課題があるが、三師会をはじめとするあらゆるネットワークを活用しながら、人材の確保に努めていきたい。

「歯と口の健康づくり」推進地域・推進校の指定にあたっては、DMF指数等の状況を踏まえ決定していくことにしているが、特に高等学校・特別支援学校での歯と口の状況についても課題があることから、今後も継続して推進校の対象とする方向を検討している。

今後も地域・学校単位で取り組む利点を活かして、各市町等教育委員会や学校がより積極的に地域の専門家と連携を図り、各地域における支援体制の構築を進めていきたい。

令和元年度

学校保健総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

滋賀県

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

協議会の構成員

委員 14 名

小児科医・精神科医・大学准教授・学校保健技師
臨床心理士・養護教諭研究会会長・PTA 連絡協議会
市町教育委員会学校保健担当指導主事・福祉部局
教育委員会（特別支援教育課・幼小中教育課含む） 5 名

【学校保健総合支援連絡協議会】

7 月 11 日・昨年度の事業報告

- ・今年度の事業計画
- ・学校保健、養護教諭の資質向上に係る意見交流

1 月 30 日・今年度の事業報告

- ・アドバイザー派遣の成果と課題
- ・来年度の取組について

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input checked="" type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input checked="" type="checkbox"/> 感染症	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

③ 地域検討委員会等の設置

滋賀県（検討委員 13 人）

課題：アレルギー疾患のある児童生徒の対応指針の改訂

8 月 22 日 第 1 回アレルギー指針策定部会開催

1 月 23 日 第 2 回アレルギー指針策定部会開催

近江八幡市（参加 31 人）

課題：色覚検査と色覚異常に対する学校対応(眼科医)

東近江市（参加 64 人）

課題：アレルギー疾患の増加に伴う給食の対応（小児科医・看護師）

大津市立打出中学校区（参加 117 人）

課題：地域で育む子どもたち～ 一人一人の命の奇跡(産婦人科医)



アレルギー事故対応研修

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

メンタルヘルスに関する課題への対応

- (1) 支援チームによる検討会の開催
 - ・校外外の組織体制の強化、課題解決に向けた具体的な取り組みへの検討
- (2) 問題の早期発見・早期対応に向けた研修会、事例検討会等の開催
 - ・保健管理、メンタルヘルスに係わる研修会の開催

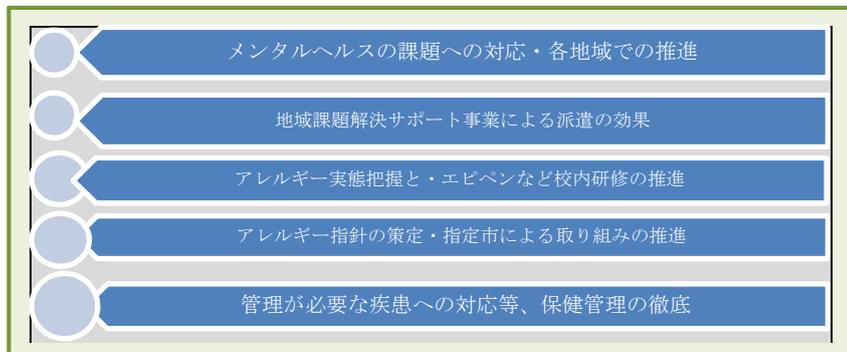
支援チームの各地域、学校への派遣等の実施

疾病管理と予防に対する取組の充実

- (1) 研修会における講義
 - ・疾病管理の必要がある児童生徒の適切な対応
 - ・成長曲線
 - ・アレルギー疾患
 - ・メンタルヘルスの課題
- (2) 感染症への対応
 - ・学校において予防すべき感染症研修
- (3) 性に関する指導者研修

アレルギー指針策定部会

- ・アレルギー疾患に関する実態調査
- ・ヒヤリハット事例の収集
- ・指針の改訂



2. 事業の達成度について

【学校保健・メンタルヘルス・アレルギーに関する研修会】

参加者：253名

【食に関するアレルギー疾患について：今井孝成氏】

- ・管理職にも是非聞いてほしい（多数）
- ・校内体制を見直したいと思った（多数）
- ・職員研修時に参考資料として活用したい（多数）

【子供の成長曲線の見方と活用方法：松井克之氏】

- ・成長曲線は、低身長が発見にしか活用してできていなかったことを反省した。（多数）
- ・改めて、全校生徒分の成長曲線を見直そうと思った（多数）
- ・肥満細胞についての話は、学校でも該当児に保健指導として使用したい。

【子どものメンタルヘルス：木虎隆志氏】

- ・発達の凹凸やトラウマと合わせていろんな視点から子どもをとらえることが大切だとわかった。
- ・トラウマという観点からも子どもをしっかりと見とれるようにしたい。

【学校において予防すべき感染症研修会】

参加者：222名

説明① 「学校・園における感染症対策について」 保健体育課

説明② 「滋賀県の麻疹・風しん対策について」 薬務感染症対策課

説明③ 「感染症情報活用・関係機関と連携した感染症対策」 衛生科学センター

講義 「学校・園における感染症対策の基本」 国立感染症研究所感染症疫学センター室長 砂川 富正氏

- (参加者アンケートより)
- ・感染症サーベイランスシステムの入力方法やポイントが分かった。（多数）
- ・報告システムではなく「危機管理システム」「教育環境の維持」であることを理解する。
- ・情報収集の大切さ、日常的にサーベイランスの活用、万が一に備え想定範囲外の状況を考えながら保健室経営をしたいと思った。
- ・校内の他の職員、市内の欠席者へも伝えたいと思う。職員の意識を高めたい。

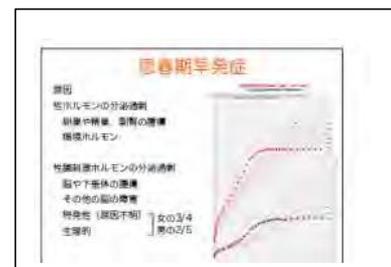
【性に関する指導者研修会】

参加者：67名

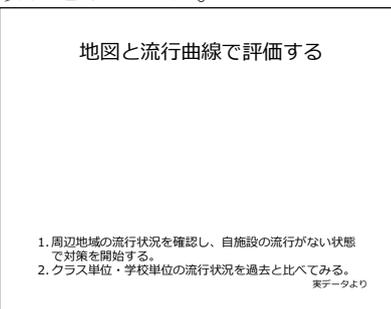
特別講演「性のグラデーション～みんなちがってみんないい～GIDをちょっと詳しく」

埼玉医科大学医学部医療人材育成センター・地域医学推進センター

助教 産婦人科医師 高橋 幸子氏

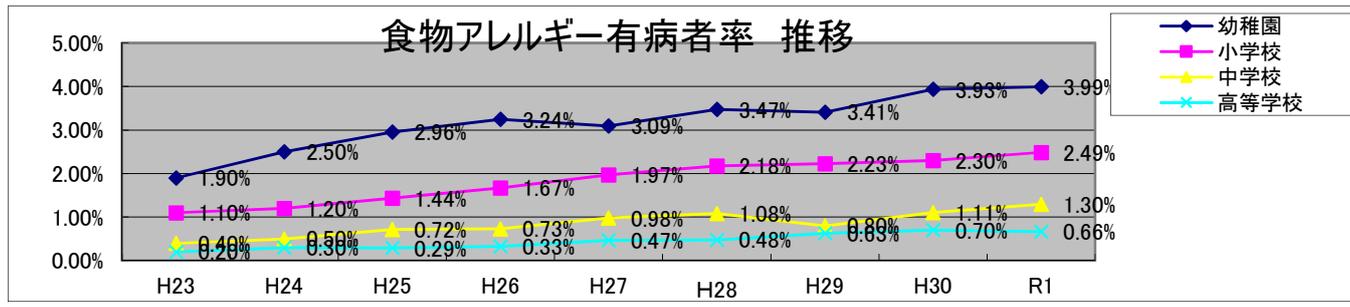


「成長曲線の見方と活用方法」講義資料



「感染症情報活用・関係機関と連携した感染症対策」説明資料

【学校保健実態調査】



・県内のアレルギー疾患を持つ児童生徒の有病者率、アドレナリン自己注射保持者の人数、学校での緊急時対応訓練実施の有無について調査を行った。

【学校におけるアレルギー疾患のある児童生徒への対応指針の改訂】

平成 27 年策定した滋賀県版アレルギー疾患のある児童生徒への対応指針の改訂

- ・学校給食への対応指針を追加
- ・滋賀県版緊急時連絡記録表を統一し、消防部局から各消防本部へも周知した。
- ・アレルギー事故（ヒヤリハット）発生報告を示し、県内へのフィードバックする仕組みの構築をした。
- ・対応指針、各種様式等は県のホームページにて公開し、必要に応じてダウンロードし、活用できるようにした。

【滋賀県版 緊急時対応記録用紙】

児童生徒名	(名前)	学校	年 級	記録者名	
食べた時刻	令和 年 月 日	食べた状況	(食べたもの)		
緊急時対応方針	時 分	なし			
エビベン使用	時 分	なし			
その他					
緊急連絡先	連絡時刻	時 分	到着時刻	時 分	
保護者	連絡時刻	時 分 (父・母・親父母・兄弟姉妹)			
経過	時 分	<input type="checkbox"/> ぐっったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 嘔吐をもらす <input type="checkbox"/> 顔が腫れにくい <input type="checkbox"/> 声が青白い <input type="checkbox"/> 目が赤くなる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 繰り返す嘔吐 <input type="checkbox"/> 強い腹痛			
	時 分	<input type="checkbox"/> 数回の軽い嘔吐 <input type="checkbox"/> 中等度の嘔吐 <input type="checkbox"/> 1〜2回の嘔吐 <input type="checkbox"/> 1〜2回の下痢 <input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> 手足の腫れ <input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がる発疹・せみ			
	時 分	<input type="checkbox"/> 軽い腹痛・吐き気 <input type="checkbox"/> 目のかゆみ充血 <input type="checkbox"/> くしゃみ・鼻水 <input type="checkbox"/> 鼻づまり <input type="checkbox"/> 口の中の違和感 <input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 部分的なせみ <input type="checkbox"/> 数回の嘔吐			
	時 分				
	時 分				
	時 分				
	時 分				
	時 分				
	時 分				
	時 分				
その他					

※経過観察は、5分ごとに任意深く観察し、症状に改善が見られないときは緊急対応すること。

滋賀県版緊急時連絡記録表

様式 3
 (別添) 滋賀県教育委員会事務局保健体育課 〒481-0277-5225-4995 TEL: 077-522-4974
 滋賀県教育委員会事務局保健体育課 保健安全・給食係 御中
 令和 年 月 日 時 分
 学校名
 校長名

アレルギー事故（ヒヤリハット）発生速報

学校訪問日時	令和 年 月 日 午前・午後 時 分	記録者	
発生日時	令和 年 月 日 午前・午後 時 分	<input type="checkbox"/> 学校管理下 <input type="checkbox"/> 学校管理下外	
被害者	年 級	学校生活 <input type="checkbox"/> 習 管理指導員 <input type="checkbox"/>	
被害名	食物アレルギー・アナフィラキシー・運動誘発アナフィラキシー・ぜん息・その他アレルギー () ヒヤリハット事例		
発生場所	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> 廊下 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 校外 ()		
原因	<input type="checkbox"/> 給食 (内容) <input type="checkbox"/> 給薬 <input type="checkbox"/> 直後の運動 <input type="checkbox"/> 虫 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 ()		
事故の状況			
症 状	口唇しい腫痛 口輪状または下痢 (複数回) 口痒 (顔面) 口輪が締めつけられる 口声がか 口悪臭しい ロゼーゼー ぐったり 顔や肌が青白い 口裏腫痛 口失禁 顔が腫れにくい 口その他 ()		
発生時の対応	口薬 () を内服・吸入 <input type="checkbox"/> エビベン使用 (者の場合) <input type="checkbox"/> 本人が使用 <input type="checkbox"/> 本人以外 () が使用 (具体的に記載)		
救急搬送	<input type="checkbox"/> 時 分 搬送先医療機関 () <input type="checkbox"/> 無		
改善に向けた取組			

(報告の流れ) 市町学校園 → 市町教委 → 県教委 県立・国立学校園 → 県教委
 私立学校園 → 県私学・県立大学課員課 *随時不要

滋賀県版アレルギー(ヒヤリハット)発生速報

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

【メンタルヘルスに関する課題への対応】

- ・専門医によるアドバイザー派遣事業を毎年活用する市町と活用しない市町の差があり、全県的な広がりをしていくことが大切である。
- ・少人数で事例検討を含めた研修の機会を実施することで、対応の力量アップにつながり、機会を作っていく必要を感じた。

【疾病管理と予防に対する取組の充実】

- ・健康課題に関する研修は、日々情報のアップデートが必要なことや、養護教諭の資質向上に必要不可欠であることから、今後も実施をしていく必要がある。経験年数の浅い養護教諭にとっての専門的な知見の習得とともに経験を積んだ養護教諭にとっても、エビデンスに基づく保健管理や保健教育推進のための研修の機会が必要である。
- ・感染症に関しては、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症については、今後、タイムリーな研修が必要と考えられる。一方で研修会の在り方（蜜を避ける）といった事項を考えると、オンラインを活用した研修も考えていく必要がある。
- ・市町単位で研修する際に、地元の専門医に依頼し、市町立の小中学校だけでなく、幼稚園や保育園、県立高校や特別支援学校、私立学校にも声をかけたところ参加が多くみられた。このことから、地域全体で研修していくことと地域でつながっていくことの必要性を強く感じた。

【アレルギー指針策定部会】

- ・平成 27 年の指針策定から 5 年を経て、今回改定を行った。栄養教諭や市町指導主事とも連携し、専門家（医師・薬剤師）の知見を得ながら進めた。今回の部会には消防との連携を行い、指針についての意見とともに、各消防本部への周知を行った。子どもたちが安全・安心な学校生活を送るためには、多職種の連携と「チームとしての学校」の対応が必要である。学校内の研修については、学校安全とも連携し今後推進していく必要がある。

令和元年度

学校保健総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

京都府

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全員で 45 名

内訳：京都府学校保健会会長 1 名、京都府学校保健会副会長 6 名、京都府学校保健会理事長 1 名、学校医代表 1 名、学校歯科医代表 1 名、学校薬剤師代表 1 名、京都府学校保健会理事（校長）15 名、地域学校保健会保健連絡協議会理事長（教諭）2 名、事務局員（府教委）9 名、事務局員（嘱託三師）3 名、事務局員（教育局）5 名

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input checked="" type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input type="checkbox"/> 歯・口腔	<input checked="" type="checkbox"/> 目
<input type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input checked="" type="checkbox"/> 運動器
<input checked="" type="checkbox"/> その他※			

※その他の場合は以下に内容を記載して下さい。

ソーシャルスキルトレーニング、児童生徒の健康課題の把握と対応、緊急時の対応、薬教育、ネット依存

③ 地域検討委員会等の設置

協議会を構成する各地域学校保健団体は、学校関係者、学校三師等から組織されており、地域が抱える健康課題の解決を図るための地域検討委員会の機能を十分に有しているため、地域検討委員会は設置していない。

京都府では、以下の組織が活動しており「地域検討委員会」と同様の機能を果たし、取組を行っている。

《取組の主体となる学校保健関係団体》

- ・地域学校保健会
- ・府立学校保健研究協議会
- ・京都府学校保健主事会
- ・京都府立学校養護教諭部会
- ・小学校・養護教諭部会
- ・市町単位の学校保健会 など

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

○各地域や校種により児童生徒の健康課題が異なるため、各学校の健康課題を把握した上で、地域や校種に合わせた専門家に依頼し、計画を立て、取り組んだ。

1	京都府立学校養護教諭研究会 市内支部Bブロック	「事例をもとにしたソーシャルスキルトレーニングの活用や手法の実際」	大学准教授
2	京都府立学校養護教諭研究会 総会並びに研修会	「子どもシェルターの挑戦 居場所を失った子どもへの支援と課題」	弁護士
3	京都府立学校養護教諭研究会 市内支部Dブロック	「脊椎疾患～高校生に起こりやすい疾患・注意点～」	医師
4	京都府立学校養護教諭研究会 両丹支部夏季研修会	「薬剤耐性菌から日頃の疑問まで」	薬剤師
5	京都府立学校養護教諭研究会 市内支部Cブロック	「ケースへの理解と対応の視点について」	大学教授
6	城陽市・久御山町 中学校教育研究会	「色覚検査とカラーユニバーサルデザインについて」	医師
7	京都府立学校養護教諭研究会 特別支援学校支部第1班	「緊急時に際して特別支援学校の養護教諭に求めること・役割について」	防災士
8	京都府立学校養護教諭研究会 市内支部Aブロック	「てんかんに関する基礎知識と高等学校における対応について」	医師
9	京都府立学校養護教諭研究会 両丹地区保健研究協議会	「高校生を取り巻く教育課題及び学校の対応について」	大学教授
10	京丹后市学校保健合同研修会	「児童精神医学と学校」	医師
11	精華町学校保健会 養護教諭部会研修会	「日常及び教科等での薬教育の充実について」 「児童生徒への効果的な薬教育について」	薬剤師
12	宇治・城陽・久御山学校保健会	「色覚検査について」	医師
13	宇治市保健師・ 養護教諭合同研修会	「スマホネット・ゲームへの依存とその回復」	大学准教授

【現代的健康課題に対する普及啓発研修会】

- (1) 説明Ⅰ：「現代的健康課題について」 京都府教育庁指導部保健体育課
- (2) 講演Ⅰ：「京都方式による学校心臓検診の要点」
講師：京都府医師会学校保健委員会委員長 林 鐘声氏
- (3) 講演Ⅱ：「教育関係者が知っておくべき子ども虐待の現状とアセスメント、対応について」
講師：京都第一赤十字病院 第二救急科部長 安 炳文氏



2. 事業の達成度について

○各地域や校種により異なる健康課題に対して、専門家を派遣することにより、各学校の健康課題の解決に向けた取組に繋げることができた。

- ①自らがSSTを体験することで、SSTがどのようなものを学ぶことができた。また、個別対応の多い保健室においても、日常起こりうる事象とSSTを結びつけて取り組んでいけることを知り、学級などの集団以外での活用方法を新たに学ぶ機会にもなった。
- ②虐待を受けた子どもたちを支援している現場の話聞き、虐待を訴えてきた子どもへの対応方法のアドバイスをいただき、各学校での実践に活かせるヒントを学ぶ機会となった。養護教諭として、虐待の根拠となる、健康診断結果の分析や来室対応の記録などを丁寧にこなすことが求められることを知った。
- ③「側弯症」は成長期にいつでも発症するため、成長が継続している間は経過をみていくことが大切であり、そのため学校健康診断における脊柱検査の必要性が高いことも学んだ。
- ④薬剤耐性菌やエナジードリンク、その他薬のことについて、最新の情報を学ぶことができた。外部機関の検索や活用についての情報も得ることができた。
- ⑤保健室での生徒対応は、個の尊重や個がどう生きるか、また、本人の好きなことや達成できることを伸ばす姿勢を基本とすることを学んだ。保健室で行えるストレス対処法（二次的→三次的援助）として、リラクゼーションを行う際の配慮と工夫を修得できた。
- ⑥色覚検査の実施及び検査結果の返しや、各学校でできるカラーユニバーサルデザインについて理解を深めることができた。
- ⑦緊急時、主に災害時における養護教諭としての対応・課題について考える機会となった。障害のある児童生徒の特性に合わせた対応や医療的ケア・服薬等の整備を行い、養護教諭だけでなく教職員全体への啓発を行う必要性を学んだ。
- ⑧医師による講演を通して「てんかん」に関する正しい知識や最新の知見を学び、学校での対応のあり方についても考えることができた。
- ⑨京都府北部の高校生の課題や、保健室としての関わり方について共通の認識を持つことができた。
- ⑩学校関係者とは違った視点、受け止め方、アプローチの仕方を実践例も踏まえた説明を聞き、医学的な観点から、精神科を受診する不登校（傾向）の子どもたちに対する治療や押さえるべきポイント等を学ぶことができた。
- ⑪薬品の成分やアレルギー・副作用等の注意点の理解を深め、普段の手当ての方法も再確認することができた。
- ⑫先天色覚異常についての正しい理解と検査の方法について学び、今後の実践に活かすことができる研修会であった。
- ⑬スマホ、ネット、ゲーム依存とその現状・実態を知ることができた。今後、子どもや保護者にどのような対応をし、どのような取組を行っていけばよいかを考える機会となった。

○京都府医師会学校保健委員会委員長 林 鐘声氏に「京都方式による学校心臓検診の要点」をテーマに御講演いただいた。京都の学校心臓検診の方式の中でも二次聴診の抽出の方法や精密検査未検者を突然死との関係からも無くしていく必要性を説明された。また、最近の結果から心電図異常の実際を波形を示すとともに、注意すべき各疾患について専門的に解説していただいた。最後には、今後の課題をあげられ、学校現場での検診の円滑な実施と心臓疾患の管理を見直すきっかけとなり、新たな視点で考える機会となった。

○京都第一赤十字病院 第二救急科部長 安 炳文氏に「教育関係者が知っておくべき子どもの虐待の現状とアセスメント、対応について」をテーマに御講演いただいた。教育現場は子どもたちと接する時間が長い分、他の職種に比べて子どもの虐待を発見しやすく、必要な支援に結びつけやすい職場である。令和元年5月に文部科学省から発行された手引書を参考に、子どもの虐待の現状、早期発見のためのポイントについて傷の状態を実際に示しながら解説された。また、発見後の対応として、アセスメントや通告について説明を受けた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1 課題

- ・各地域学校保健会、府立学校保健研究協議会等が基盤となり、地域の課題解決の取組が、各学校での取組に還元されるよう進めていきたい。
- ・家庭や保健所等と連携を図り、家庭を巻き込んだ体制づくりと、課題解決の取組を進めたい。

2 取組

- ・京都府の児童生徒の健康状態を把握し、多くの学校が共通とする身近で重要な課題解決について、医師等の専門的知見と教育現場での即効性・実効性のある対処が研修できるよう、引き続き計画を立てる必要がある。

(学校における現代的な健康課題解決支援事業)

1. 事業の具体的内容について

① 協議会の構成員

全体で9人(事務局3人含む)

【内訳】 医療関係者(内科医)、大学教授、大阪府健康医療部地域保健担当、大阪府立学校校長、市教育委員会保健担当指導主事、大阪府教育庁教育振興室保健体育課長、(事務局)大阪府教育庁教育振興室保健体育課3人

② 課題の内容

○テーマ ※複数選択可

<input type="checkbox"/> メンタルヘルス	<input type="checkbox"/> アレルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 歯・口腔	<input type="checkbox"/> 目
<input checked="" type="checkbox"/> 性	<input type="checkbox"/> 感染症	<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 運動器
<input type="checkbox"/> その他※			

③ 地域検討委員会等の設置

- ◆ 大阪府学校地域保健連携推進協議会(①の協議会と兼ねる)/全体で9人(事務局3人含む)

【開催日】第1回 日時:令和元年11月29日(金)14:00~16:00

第2回 日時:令和2年2月14日(金)14:00~16:00

- ◆ 大阪府地域検討委員会/全体で10人(事務局4人含む)

【内訳】市町村立学校代表4人(校長・養護教諭・栄養教諭・保健体育科教諭)、

市教育委員会保健担当2人、(事務局)大阪府教育庁教育振興室保健体育課4人

【開催日】第1回 日時:令和元年7月5日(金)15:00~16:30

第2回 日時:令和元年9月17日(火)16:00~17:30

④ 当初の課題解決計画と実際の実施内容

○ 課題と計画

1. 健康教育に関わる課題と計画

学校・家庭・地域の関係機関等が連携して、子どもの健康課題について情報共有し、課題解決に向けた健康教育の推進を図る。

2. 子どもたちを取り巻く「生活習慣」に関わる課題と計画

運動不足になりやすい生活、食事、SNSの普及などにより、子どもの生活習慣は大きく変化しており、現代の子どもたちは生活習慣病のリスクに向かっていると言われている。生活習慣病予防のための生活習慣づくりは、子どもの時期から確立しておくことは、成人期における健康維持にも大きな影響を持っていると考えられている。

地域の中学校の栄養教諭が実施している歯科保健への取組みを中心に、養護教諭や保健体育科教諭が取組みを共有し、食・健康・運動の三位一体の取組みに繋げ、子どもの健康づくりの推進を図る。

3. 児童生徒を取り巻く「性」に関する課題と計画（昨年度から継続）

学校における性に関する指導の充実は継続的な課題とし、昨年度、性に関する指導用参考冊子「一人ひとりの生と性～『性に関する指導』について～」を作成。今年度は本冊子を普及啓発し、各学校や地域において、児童生徒の発達段階に応じた効果的な指導を推進する。

○ 実際の実施内容（研修会）

1. 健康教育に関わる取組内容

日時：令和元年12月10日（火）14：00～17：00

内容：講演 ①静岡県沼津市立小学校 養護教諭 ②神奈川県立保健福祉大学 准教授

2. 子どもたちを取り巻く「生活習慣」に関わる取組内容

日時：令和2年 2月12日（月）14：30～16：30

内容：講演 大阪歯科大学 准教授

3. 児童生徒を取り巻く「性」に関する取組内容

日時：令和2年 2月27日（木）14：00～17：00

内容：講義「性に関する指導について」大阪府教育庁教育振興室保健体育課 指導主事

実践発表 ①市町村立小学校 指導養護教諭 ②市町村立中学校 指導養護教諭
③府立高校 教諭 ④府立支援学校 教諭

2. 事業の達成度について

1. 健康教育に関わる取組成果

参加者	幼稚園	小学校	小学校 中学校	中学校	中学校 高等学校	高等学校	支援学校	義務 教育学校	不明	計
養護教諭	3	113	1	53	3	19	6	1	8	207
教諭	1						2			3
指導養護教諭 指導教諭	1			1		1			1	4
総数	5	113	1	54	3	20	8	1	9	214

スキルラダーを用いて自身のレベルを確認するといった方法を紹介され、救急処置をテーマとした内容で養護教諭以外の教職員にも必要な内容であったことと、方法の伝授ではなく、授業を受ける子どもの気持ちを理解することなど、普段とは違う切り口で講演された。質疑応答も活発に行われ、研修会終了後も個別に講師に質問

をする参加者が多く、研修内容への関心の深さが感じられた。

【成果】アンケート調査から

- ・提出人数・・・214人(275人中)
- ・回収率・・・77.8%
- ・4つの問いに対し、4件法にて実施

①とてもそう思う、②まあまあそう思う、③あまりそう思わない、④全くそう思わない

◆「内容は充実していたか」について

①及び②と回答したものは、全体の約95.3%。③と回答したものは、全体の約3.3%。④と回答したものはなかった。(未記入は約1.4%)

◆「内容は、あなたの期待や要望にこたえている」について

①及び②と回答したものは、全体の約93.5%。③と回答したものは、全体の約5.6%。④と回答したものはなかった。(未記入は約0.9%)

◆「今後の職務等に活かすことができる」について

①及び②と回答したものは、全体の約97.2%。③と回答したものは、全体の約1.9%。④と回答したものはなかった。(未記入は約0.9%)

◆「研修で得たことを、あなたの職場で報告したり広めたりしたい」について

①及び②と回答したものは、全体の約93.4%。③と回答したものは、全体の約5.2%。④と回答したものは全体の約0.5%であった。(未記入は約0.9%)

2. 子どもたちを取り巻く「生活習慣」に関わる取組成果

参加者	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	支援学校	計
養護教諭	3	36	14	10	2	65
教諭				2		2
看護師	1					1
総数	4	36	14	12	2	68

参加者の人数が他の研修に比べ、多くなかったが、全体的に満足度が非常に高い研修会であったと言える。

【成果】アンケート調査から

- ・提出人数・・・68人(73人中)
- ・回収率・・・93.1%
- ・4つの問いに対し、4件法にて実施

①とてもそう思う、②まあまあそう思う、③あまりそう思わない、④全くそう思わない

◆「内容は充実していたか」について

①及び②と回答したものは、全体の約97.0%。③及び④と回答したものはなかった。(未記入は約3.0%)

◆「内容は、あなたの期待や要望にこたえている」について

①及び②と回答したものは、全体の約97.0%。③及び④と回答したものはなかった。(未記入は約3.0%)

◆「今後の職務等に活かすことができる」について

①及び②と回答したものは、全体の約 97.0%。③及び④と回答したものはいなかった。(未記入は約 3.0%)

◆「研修で得たことを、あなたの職場で報告したり広めたりしたい」について

①及び②と回答したものは、全体の約 94.0%。③と回答したものは、全体の約 3.0%。④と回答したものはいなかった(未記入は約 3.0%)

3. 児童生徒を取り巻く「性」に関する取組成果

参加者	小学校	中学校	中学校 高等学校	高等学校	支援学校	義務 教育学校	市町村 教育委員会	計
養護教諭	50	41	1	4	11	3		110
教諭	2			1	8			11
管理職					1			1
市町村 教育委員会							1	1
総数	52	41	1	5	20	3	1	123

性に関する指導については、「時間の確保がとて難しい」と感じている教職員が少なくない。参加者の中には、学校全体で取り組む意識や授業の必要性を、もっと自ら発信していこうとする意識を強くもった参加者もいた。実践発表による内容やノウハウの獲得だけでなく、実態やニーズを把握し指導内容について、学校全体が改めて検討する観点をもつことが重要性を学べた研修会であったといえる。

【成果】 アンケート調査から

- ・ 提出人数 …… 106 人 (123 人中)
- ・ 回収率 …… 86.2%
- ・ 4 件法にて実施

①大変参考になった、②参考になった、③あまり参考にならなかった、④参考にならなかった

◆「本日の研修の内容は参考になったか」について

①及び②と回答したものは、全体の約 96.0%、③と回答したものは、全体の約 4.0%、④と回答したものはいなかった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・各学校において、学校・家庭・地域の関係機関等が連携して、子どもの健康課題について情報共有し、課題解決に向けた取組みなどを協議する場である学校保健委員会が活性化するように、教職員をはじめ、保護者、学校三師に対して児童生徒の健康課題についてさらに共通の理解を図っていく必要がある。
- ・本府の子どもたちの健康課題や学校現場のニーズ等について、様々な調査結果により検証していく必要がある。
- ・研修会参加者については、モチベーションを高め、今後の職務に活かしたいと考える者が多かった。参加者には養護教諭が多く、養護教諭以外の教諭をどう巻き込むかが大きな課題である。養護教諭以外の教職員にも健康課題を共有することで、子どもたちの健康教育・安全教育の普及に繋げていきたい。
- ・研修の規模については、大ホールでの公演形式や、規模が小さくしたスクール形式など形式を変えて実施した。今後も研修の内容により、形式を変え、深い学びに繋げたい。